岩手県文化財調査報告書 第146集

岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成26年度　復興関係）

平成28年３月

岩 手 県 教 育 委 員 会

岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成26年度　復興関係）

岩 手 県 教 育 委 員 会

序

本県沿岸市町村に甚大な被害をもたらした東日本大震災津波の発災から５年が経過し、「復興道路」の一つとして位置づけられた三陸沿岸道路の建設、集団移転地の造成、被災した道路や農地の復旧等、被災地住民の生活再建に向けた大規模開発事業が着実に進展しています。また、被災地では、個人住宅や企業店舗･施設の再建等、民間開発事業も進められています。

当教育委員会では、埋蔵文化財の保護と復興事業の推進を両立させるため、平成24年度から文化庁の調整により、他道府県の専門職員の派遣をいただき、復興事業に伴う膨大な埋蔵文化財調査に対応するとともに、沿岸市町村教育委員会が実施する調査へ支援を行ってまいりました。

本書は、当教育委員会が平成26年度に復興交付金を活用して実施した諸調査の記録をまとめたものです。本書が広く活用され、埋蔵文化財保護に役立てば幸いです。

最後になりましたが、調査及び報告書作成に御指導と御協力をいただきました関係機関・各位に厚く感謝申し上げます。

平成28年３月

岩手県教育委員会

教育長　高　橋　嘉　行

目　　次

序
例言
岩手県沿岸市町村位置図、凡例 …… 1
岩手県内復興道路、復興支援道路全体図 …… 2
調査位置図 …… 3
試掘調査
【三陸沿岸道路】
1　乙部野Ⅱ遺跡（新規発見 旧可能性あり２・３：宮古市）……11
2　青猿Ⅰ遺跡（宮古市）……15
3　山口駒込Ⅰ遺跡（宮古市）……18
4　千徳城遺跡群（宮古市）……20
5　荷竹日向Ⅰ遺跡（新規発見範囲拡大：宮古市）……23
6　荷竹日影Ⅱ遺跡（新規発見範囲拡大：宮古市）……26
7　小白浜遺跡（釜石市）……28
【宮古盛岡横断道路】
8　盆花遺跡（新規発見 旧可能性あり10：盛岡市）……31
本発掘調査
【三陸沿岸道路】
9　サンニヤⅡ遺跡（新規発見 旧可能性あり２号工事用道路：洋野町）……35
10　南鹿糠Ⅰ遺跡（新規発見 旧可能性あり29号工事用道路：洋野町）……52
11　黒坂遺跡（新規発見 旧可能性あり工事用道路①－２：洋野町）……62
12　駿達Ⅰ遺跡（新規発見 旧可能性あり１：宮古市）……65
13　牛沢遺跡（宮古市）……67
14　扇洞遺跡（新規発見 旧可能性あり１：大船渡市）……72
【宮古盛岡横断道路】
15　中村遺跡（新規発見 旧可能性あり８：盛岡市）……94
平成26年度 派遣専門職員の調査風景 …… 102
調査一覧
1　分布調査一覧 …… 105
2　試掘調査一覧 …… 106
3　本発掘調査一覧 …… 107
4　工事立会一覧 …… 107
報告書抄録

例　　言

1　本書は岩手県教育委員会が平成26年度に実施した県内遺跡発掘調査事業（復興関係）に係る調査成果の概要報告である。なお、本事業は復興庁復興交付金の交付を受けて実施したものである。

2　本事業は岩手県教育委員会が調査主体となり、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。野外調査・室内整理および報告書作成・編集は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課埋蔵文化財担当（復興事業担当）が行った。

3　遺跡位置図は国土地理院発行の1/25,000地形図（数値地図地図画像）を使用し、一部加筆・改変したものである。

4　調査区位置図等は各事業者から提供された工事図面・地形図等を原図として作成した。

5　本書では試掘調査により本調査対応となった主な事業予定箇所の成果概要について記載した。

6　調査による遺物実測図は遺跡毎に掲載した。

7　遺構・遺物実測図の掲載はページ毎に縮尺を記載し、主な表現は凡例のとおりである。

8　遺構・遺物写真は、紙幅の関係から主な遺構・遺物を選択して遺跡ごとに掲載した。

9　平成26年度は、復興事業に伴う埋蔵文化財調査の著しい増加が予想されたことから、文化庁による調整の下、当教育委員会では12道府県から各１名、計12名の専門職員の派遣を受けた。平成26年度の埋蔵文化財担当は計21名（兼務含む）で、調査体制は以下のとおりである。

＜埋蔵文化財担当＞　上席文化財専門員　菅常久（全体総括）

＜予算・経理担当＞　主任　藤村フサ子

＜復興事業担当＞　文化財専門員　半澤武彦（復興事業総括）・鳥居達人・相原伸裕

【他道府県教育委員会からの派遣専門職員】

上席文化財専門員　小林昭彦（大分県）・浅野晴樹（埼玉県）・今福利恵（山梨県）・上垣幸徳（滋賀県）

文化財専門員　加藤竜（秋田県）・丸杉俊一郎（静岡県）・関真一（大阪府）・柏原正民（兵庫県）・坂井田端志郎（熊本県）・上床真（鹿児島県）

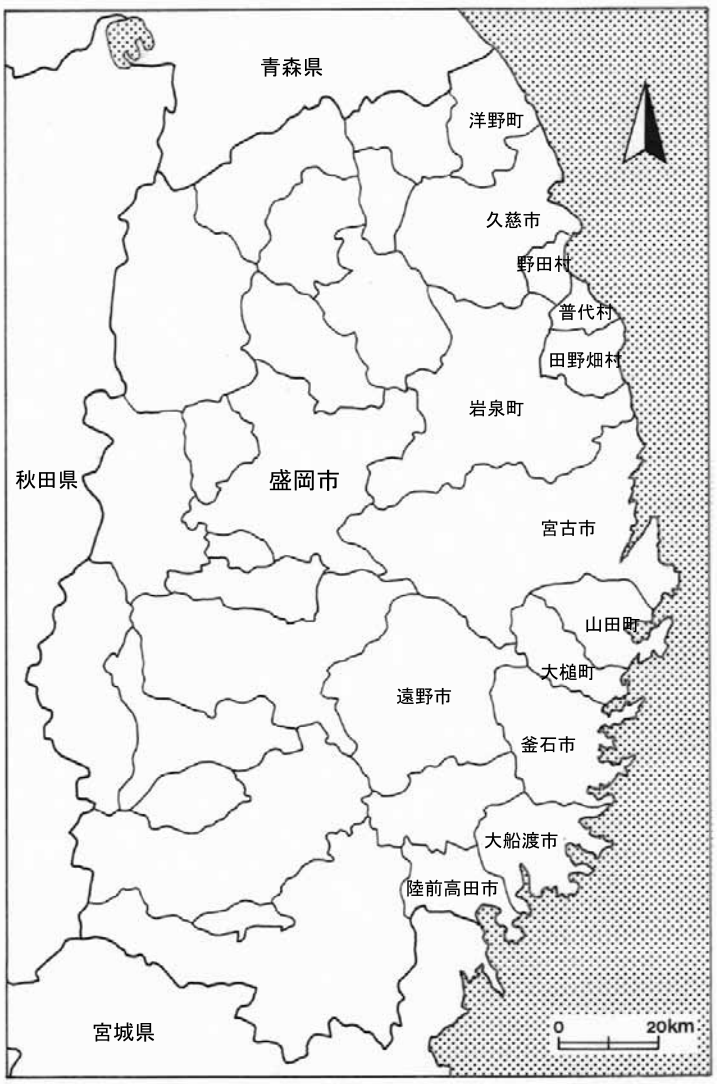
文化財調査員　村本周三（北海道）・中澤寛将（青森県）

＜通常事業担当＞ 文化財専門員　千葉正彦（通常事業総括）・晴山雅光・高橋祐・佐々木務

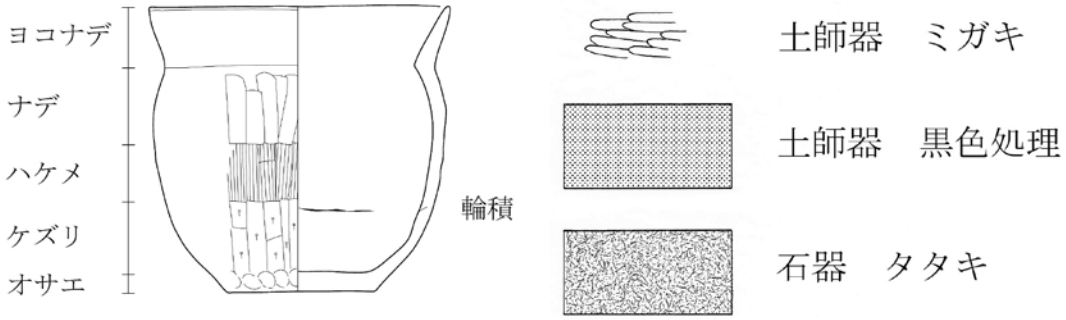
10　本書は復興事業関係の調査を収録し、調査は主に復興事業担当が実施した。なお、通常事業関係の調査については、第145集として別途刊行した。

11　本事業の調査記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

岩手県沿岸市町村位置図

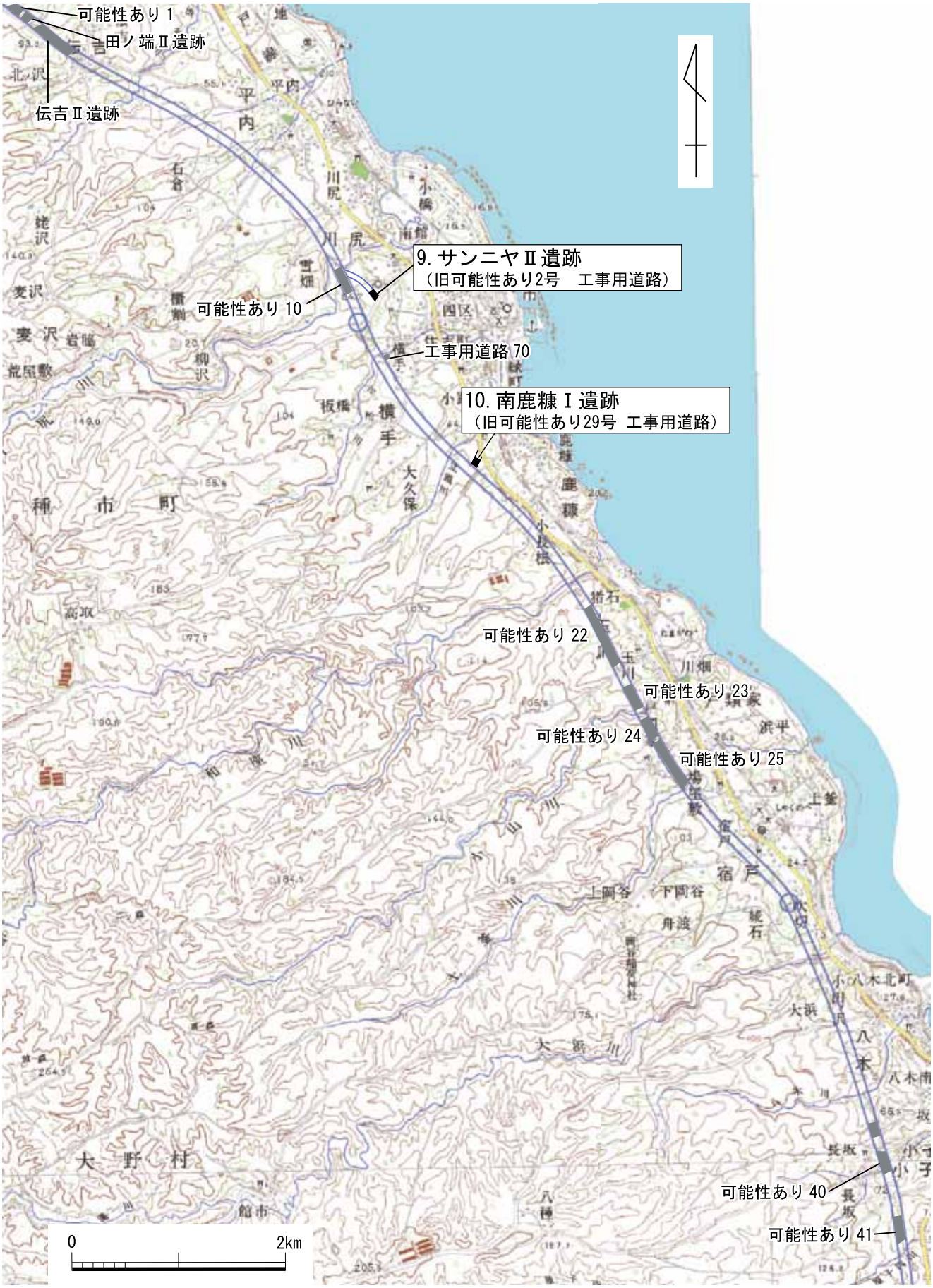


凡　　例



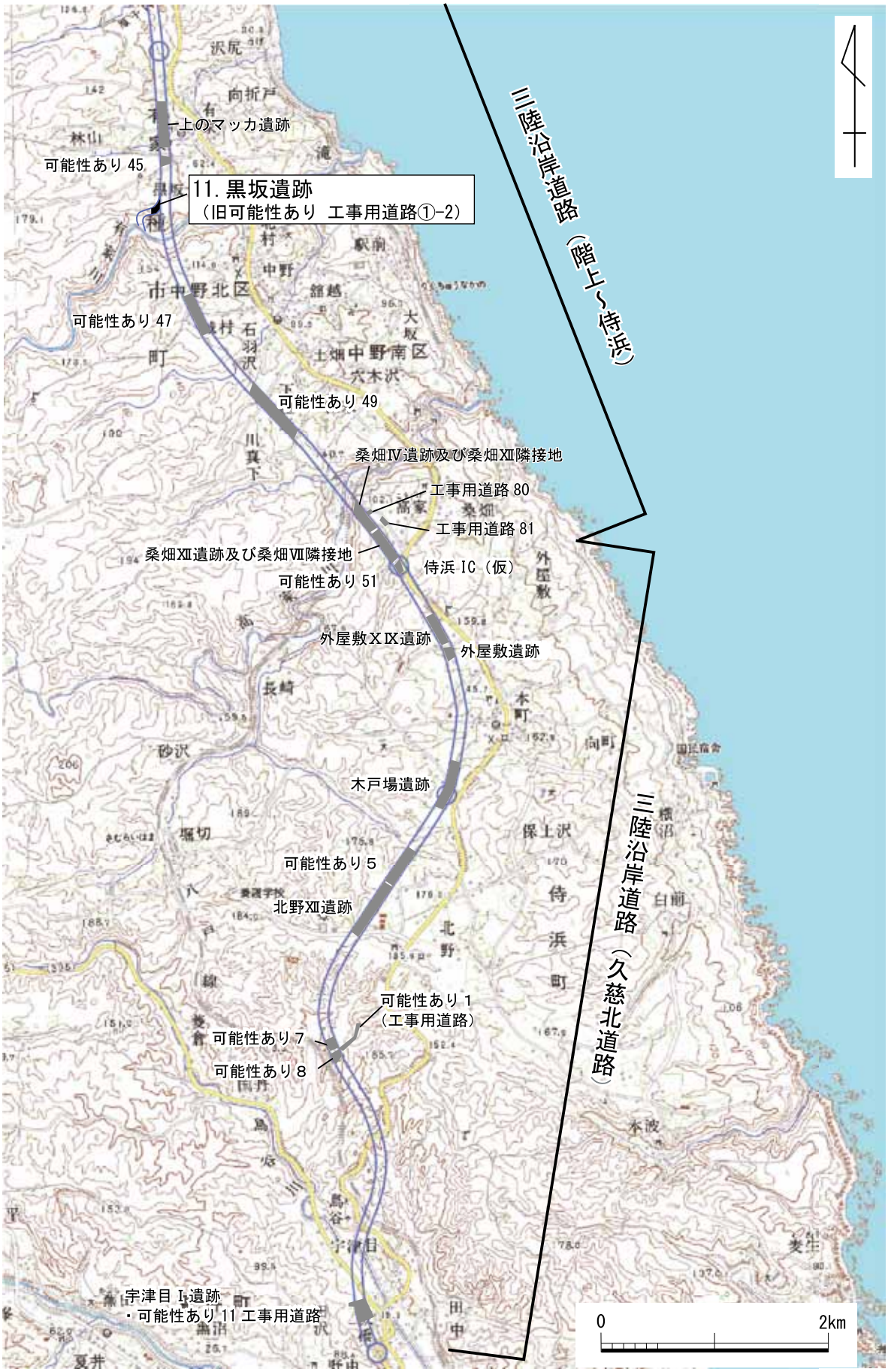
H26年度末現在、国文省三陸国道事務所HPより引用、一部加筆

岩手県内　復興道路・復興支援道路全体図（国土交通省関係）



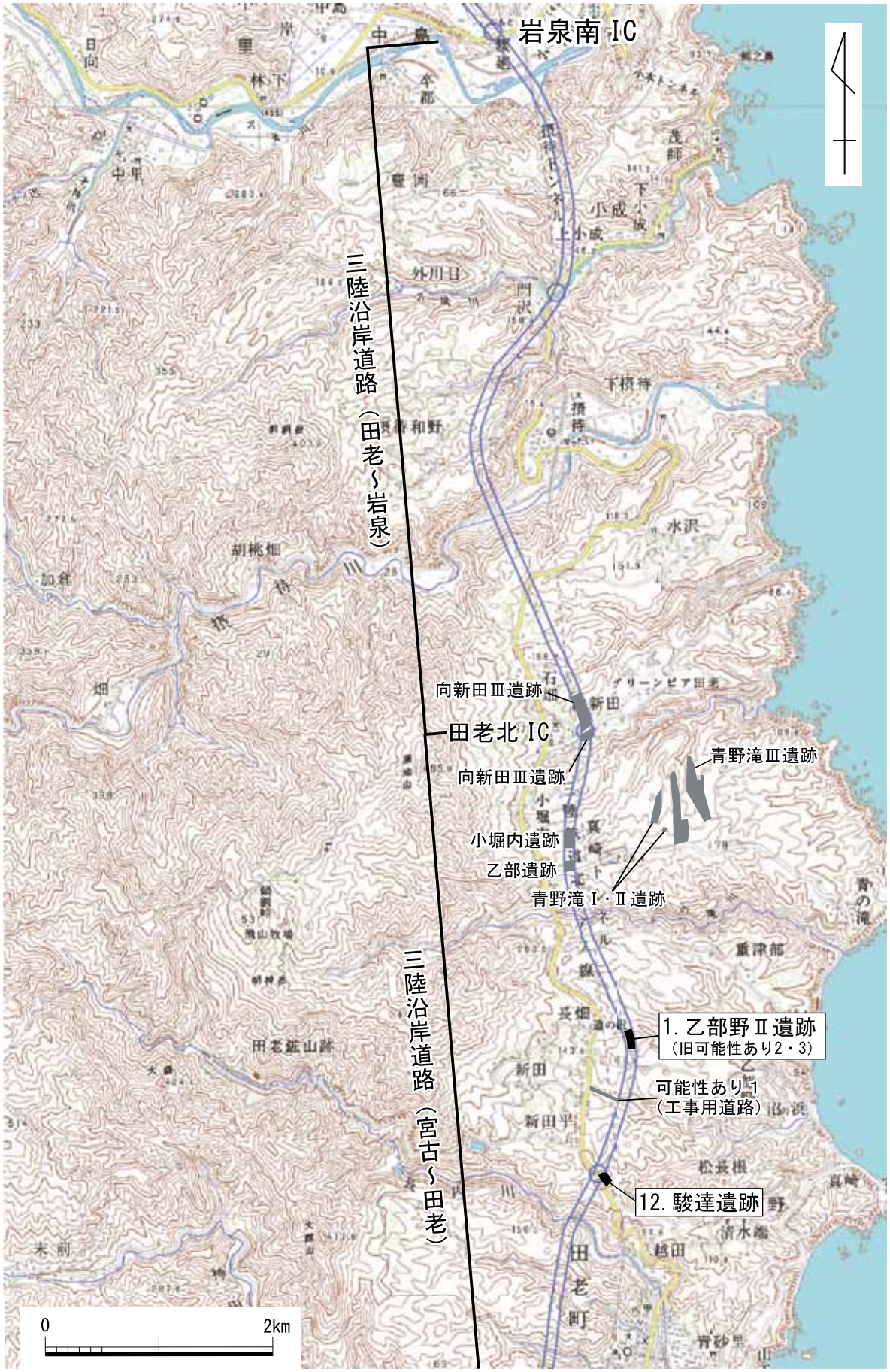
□は掲載遺跡

三陸沿岸道路（青森県階上～侍浜）試掘調査位置図



□は掲載遺跡

三陸沿岸道路（洋野～侍浜）調査位置図



□は掲載遺跡

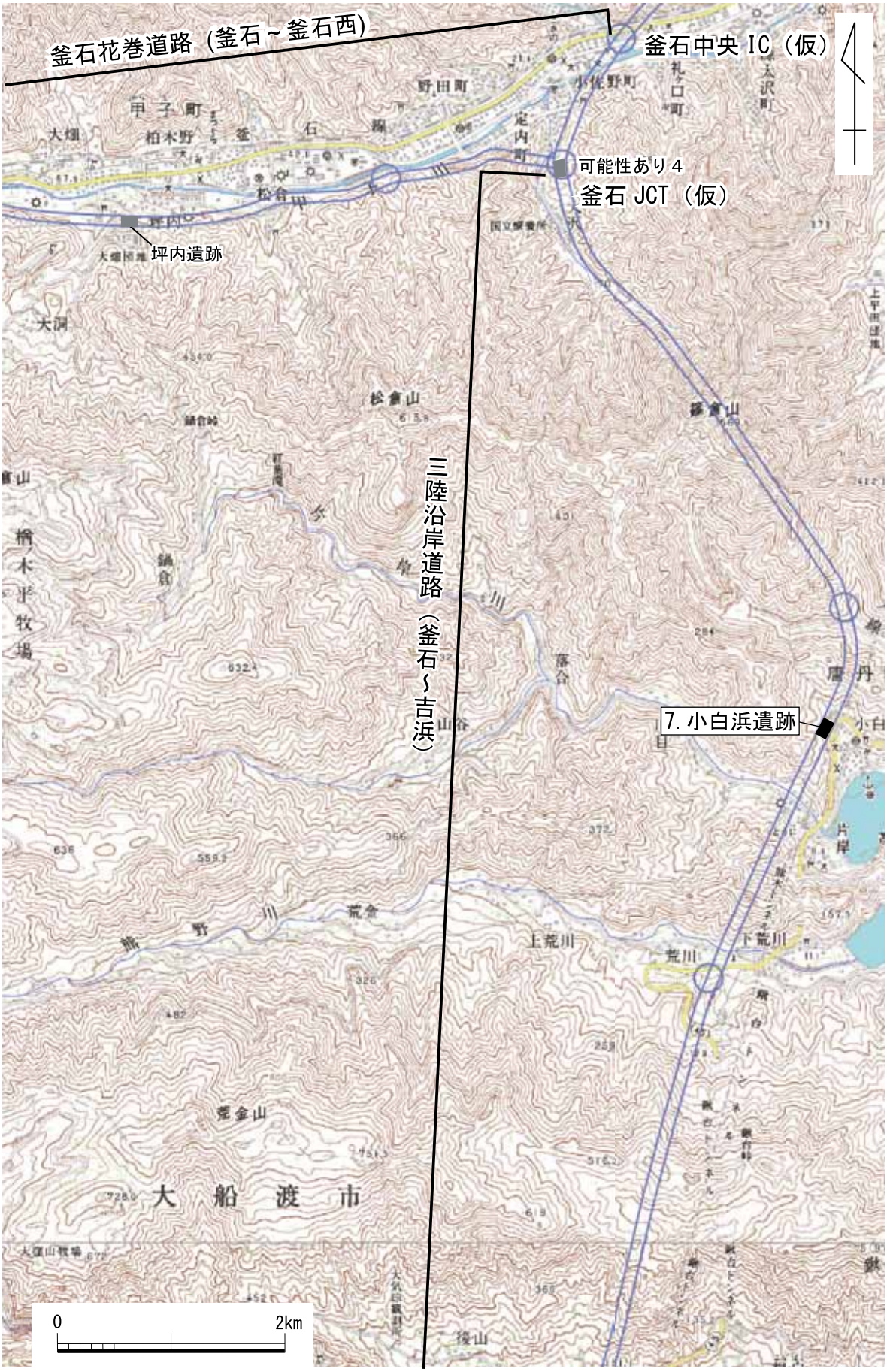
三陸沿岸道路（宮古～田老・　田老～岩泉）調査位置図

□は掲載遺跡

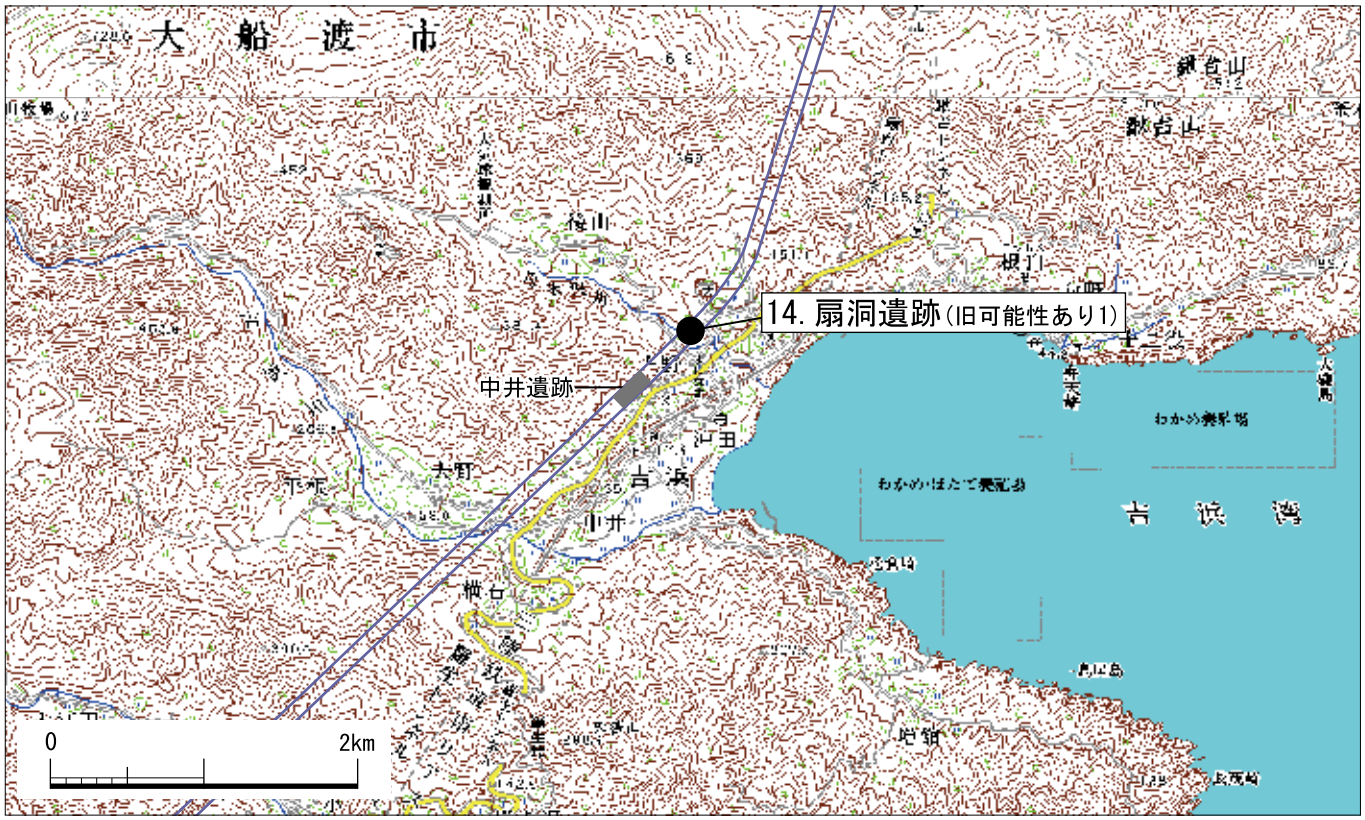
三陸沿岸道路（宮古～田老）調査位置図

□ は掲載遺跡

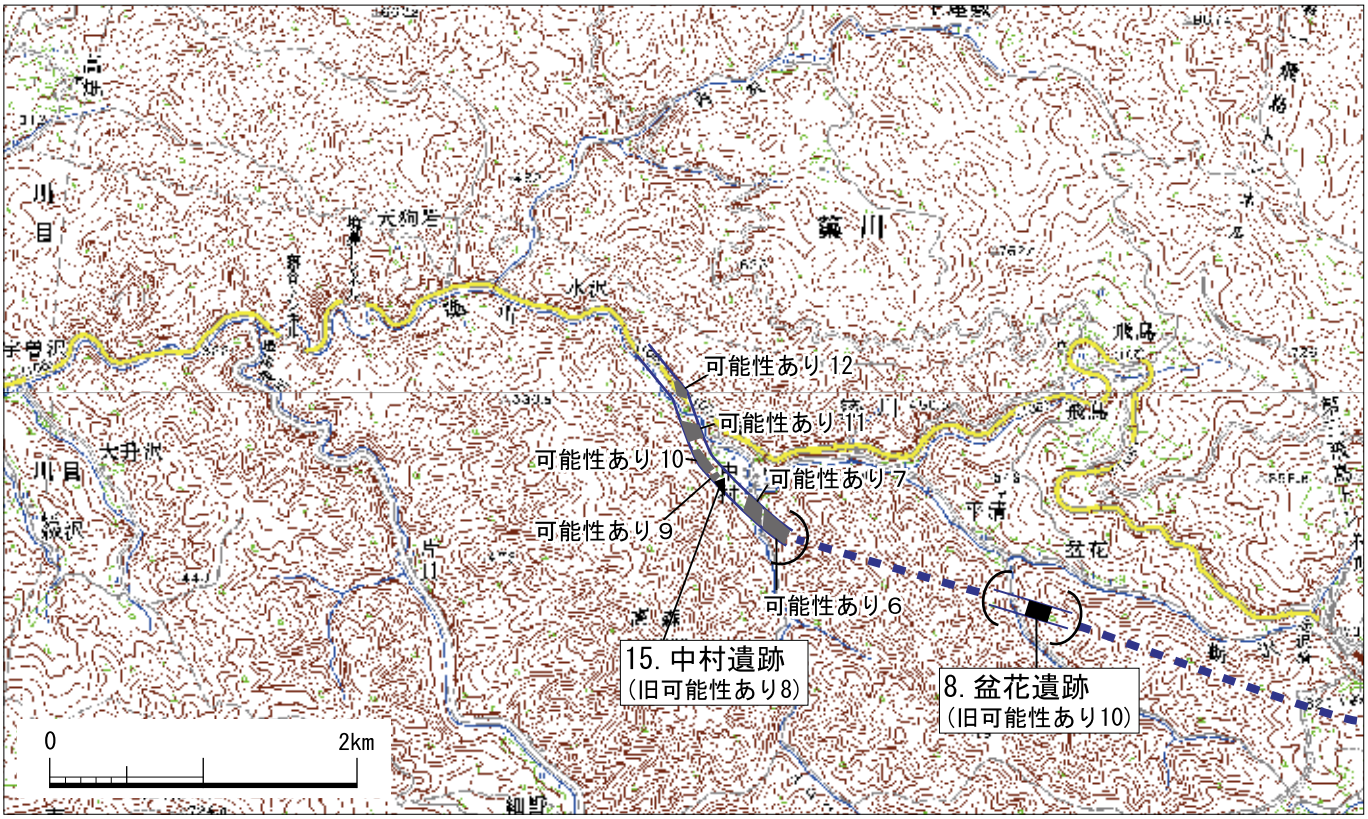
三陸沿岸道路（山田～宮古）・宮古盛岡横断道路（宮古西道路）調査位置図



三陸沿岸道路（吉浜～釜石）・東北横断自動車道 釜石秋田線（釜石～釜石西）試掘調査位置図



三陸沿岸道路(三陸～釜石）調査位置図



は掲載遺跡

宮古盛岡横断道路（区界道路）調査位置図

試　掘　調　査

1　三陸沿岸道路（宮古～田老）

乙部野（おとべの）Ⅱ遺跡（KG84-2107：新規発見）

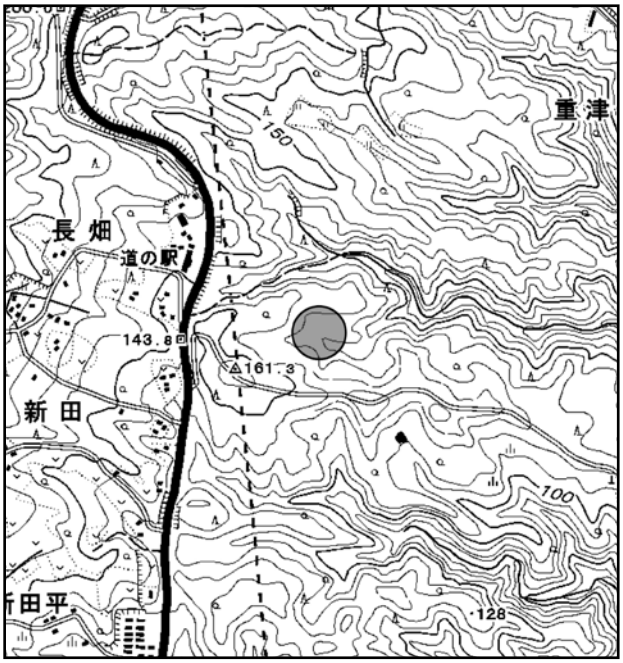
【所 在 地】　宮古市田老字乙部野地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成26年４月21日（月）
　　～23日（水）

【調査結果】　調査地は、国道45号道の駅たろうから東側約500mに所在する山稜上に位置し、標高は130～140m、現況は山林である。

山稜の尾根上から緩やかな南傾斜地にトレンチを37箇所（Ｔ１～37）設定し調査を行った。



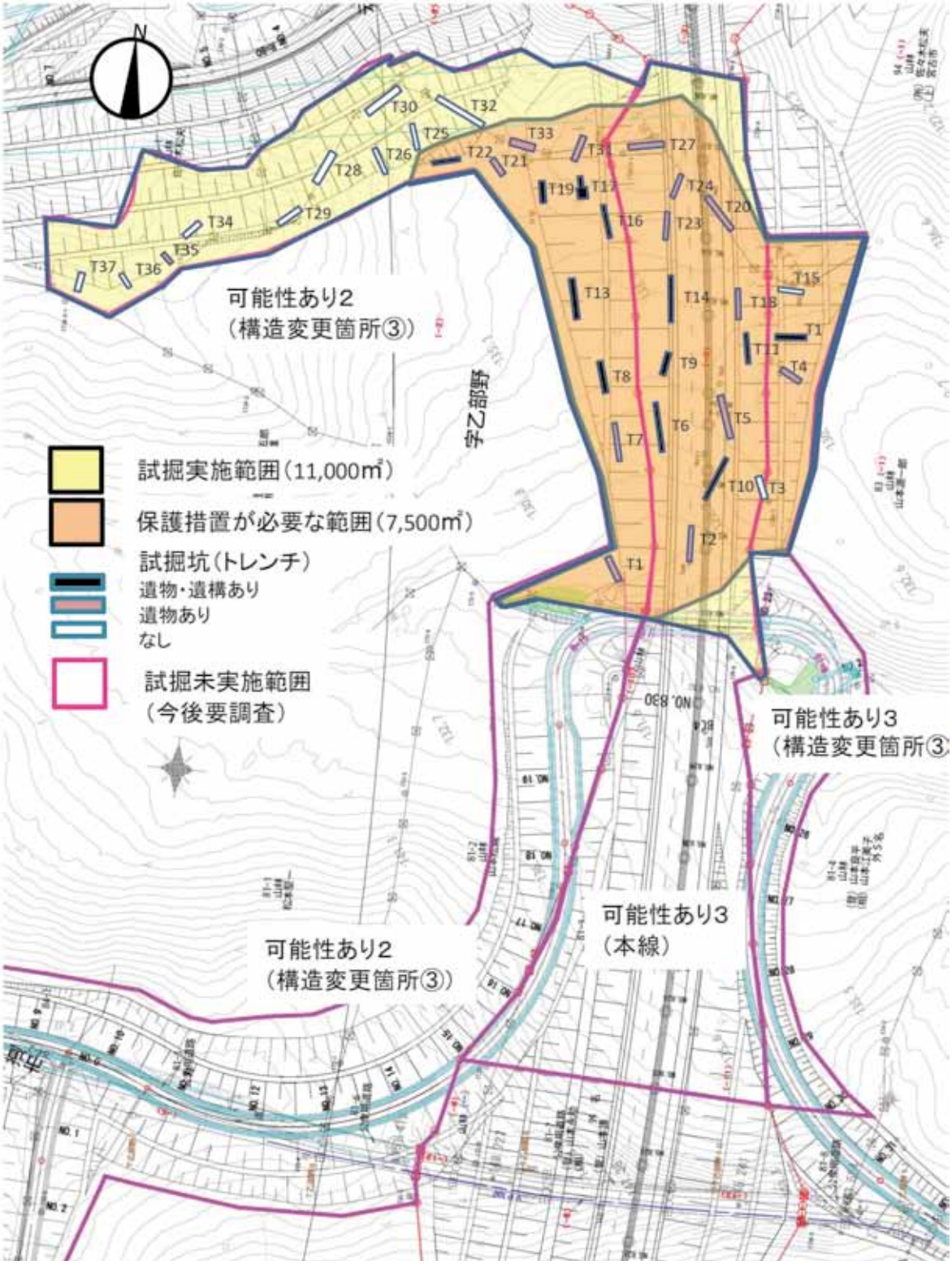
乙部野Ⅱ遺跡 位置図

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層	黒色土	層厚15～35㎝（表土　場所により暗褐色土となる）
Ⅱ層	暗褐色土	層厚10～40㎝
Ⅱ－１層	暗黄褐色土	層厚10～30㎝（Ⅱ層にⅢ層が混在）
Ⅲ層	黄褐色土	層厚不明（地山、場所により花崗岩礫を含む）

その結果、山稜尾根付近（Ｔ25・26・28～30・32・34～37）ではほとんど遺物遺構は認められなかったが、南側への緩斜面ではほぼ全域にわたって遺物の出土があり、住居跡、土坑と思われる遺構が12箇所のトレンチにて認められた。調査南端部の沢に向かう傾斜地は包含層が厚くみられたが、遺物は少なくなる傾向にある。遺物は縄文時代後期前半を主体として早期、前期、晩期の土器並びに石器類がみられ、試掘調査で確認できた遺構は住居跡５棟、土坑11基である。

今回の調査で遺構・遺物ともにやや密度の濃い状況が確認されたことから、周辺にも遺跡が広がる可能性が高い。


N
T30
T32
T25
T33
T26
T22
T21
T31
T27
T28
T19
T17
T24
T20
T29
T34
T16
T23
T35
T37
T36
T15
T13
T14
T18
T1
T11
T4
T9
T8
T6
T5
字乙部野
T7
T10
T3
T2
T1
試掘実施範囲（11,000㎡）
保護措置が必要な範囲（7,500㎡）
試掘坑（トレンチ）
遺物・遺構あり
遺物あり
なし
試掘未実施範囲
（今後要調査）
可能性あり2
（構造変更箇所③）
可能性あり3
（構造変更箇所③）
可能性あり3
（本線）
可能性あり2
（構造変更箇所③）

トレンチ位置図

調査風景（重機掘削）

調査風景（人力掘削）

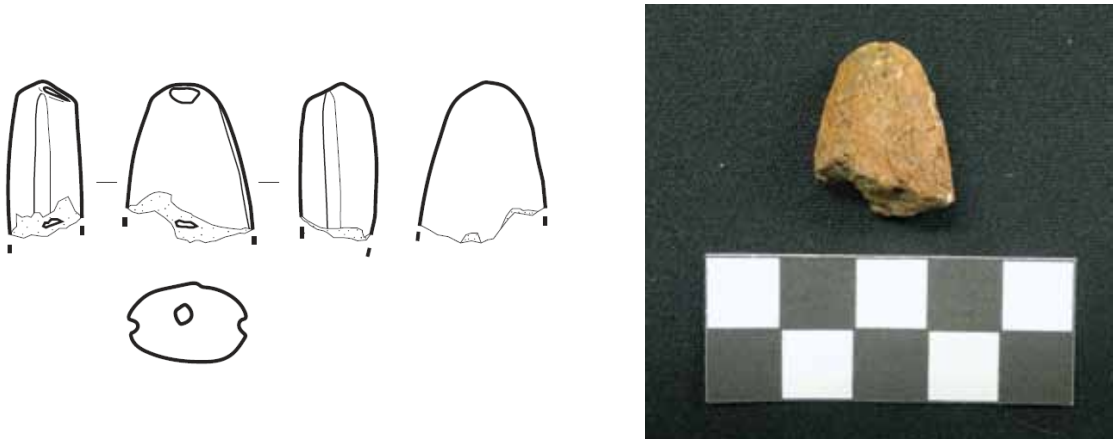
Ｔ１　断面

Ｔ６　断面

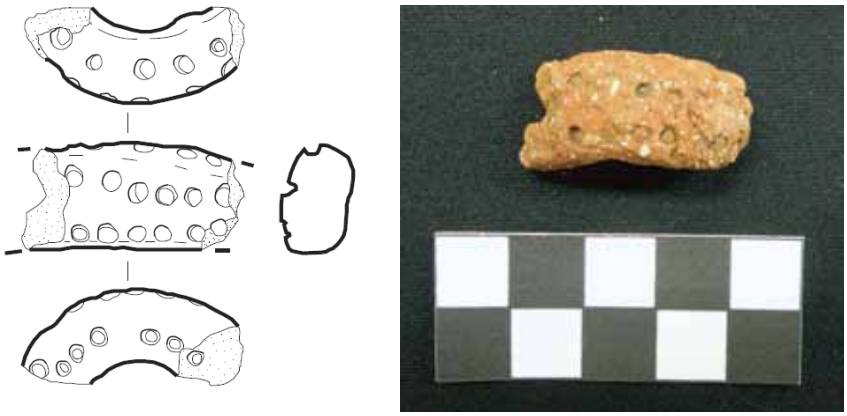
Ｔ８　竪穴住居跡検出状況

出土遺物（縄文土器・石器）

出土遺物１



出土遺物２



出土遺物３

２　三陸沿岸道路（宮古～田老）

青猿（あおざる）Ⅰ遺跡（LG33-0221）

【所 在 地】　宮古市近内第２地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成26年12月８日（月）
　　～11日（金）

【調査結果】　調査地は、調査対象区域は、宮古市役所から西方向に約３㎞内陸で、調査対象地となる地形は、閉伊川支流近内川左岸の丘陵頂部、丘陵斜面地、丘陵裾に接した谷部の大きく３箇所に分かれる。標高は丘陵頂部約80m、谷部約25mであり、現況は丘陵部・斜面地が山林、谷部は休耕田である。

青猿Ⅰ遺跡 位置図

調査では、丘陵地に８箇所（Ｔ１～８）、斜面に７箇所（Ｔ９～15、16）、谷部に５箇所（Ｔ14、17～20）の計20箇所のトレンチを設定した。

基本層序は以下のとおりである。

＜Ｔ１～８（丘陵上部）＞

Ⅰ層　表土（層厚10～20cm）

Ⅱ層　黒褐色砂（層厚20～30cm）

Ⅲ層　暗褐色砂（漸移層）（層厚10～20cm）

Ⅳ層　黄褐色土（地山）（厚さ20～30cm）

Ⅴ層　風化花崗岩（地山）（層厚不明）

＜Ｔ９～13、15、16（丘陵斜面）＞

Ⅰ層　表土（層厚10～20cm）

Ⅱ層　灰褐～灰茶褐色砂質土（層厚20～50cm）

Ⅲ層　暗灰～暗褐色砂質土（層厚40～60cm）

Ⅳ層　風化花崗岩（地山）（層厚不明）

＜Ｔ14、17～20（丘陵下端）＞

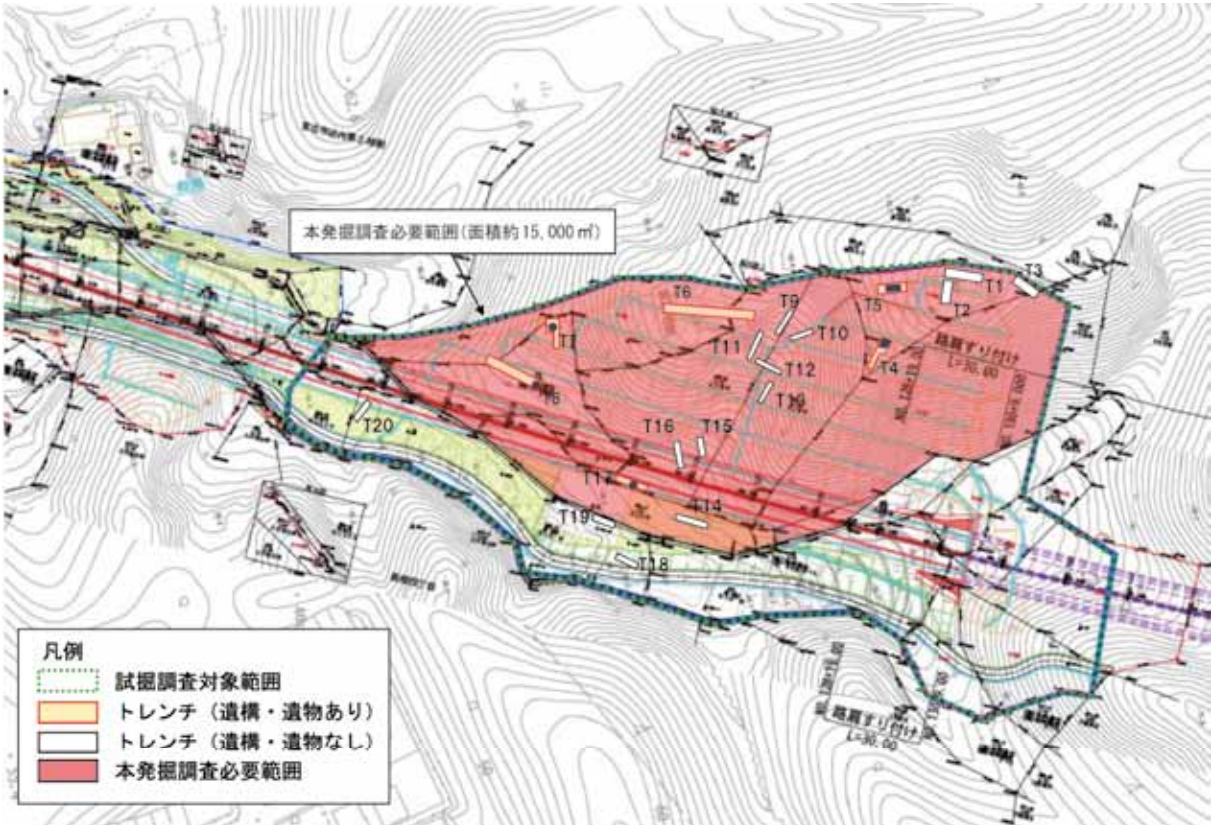
Ⅰ層	表土	層厚10～20cm
Ⅱ層	褐～暗褐色砂質土	層厚20～50cm
Ⅲ層	黒褐色砂質土	層厚50～60cm
Ⅳ層	暗灰褐色砂礫土	層厚不明

調査の結果、丘陵頂部及び谷部に設けたトレンチで遺構遺物を確認した。

丘陵頂部のＴ４及びＴ５で竪穴住居跡を各１棟、Ｔ７で土坑１基、Ｔ８で土坑１基と遺構と考える落込みを確認した。いずれも現地表面から約20cm程度で確認された。遺物はＴ４～７から土師器が少量出土している。

谷部においては丘陵裾部に接するT17で、表土直下のⅡ層から完形に復元可能な縄文土器片と土師器の小破片が出土した。

以上のことから、調査対象地域には古代と縄文時代の遺跡が存在するものと考えられる。



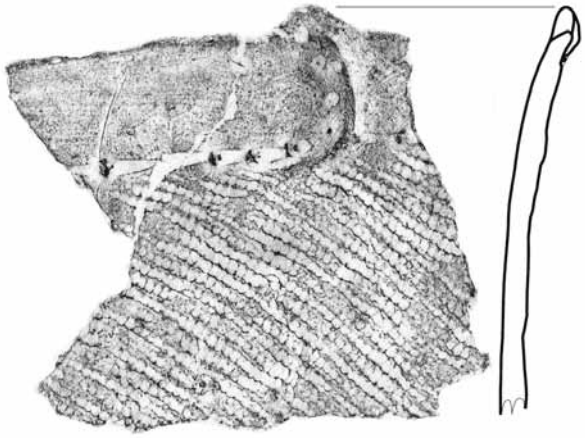
トレンチ位置図

調査風景（重機掘削）

Ｔ４　竪穴住居跡検出状況

Ｔ５　竪穴住居跡検出状況

Ｔ７　土坑検出状況



出土遺物

３　三陸沿岸道路（宮古～田老）

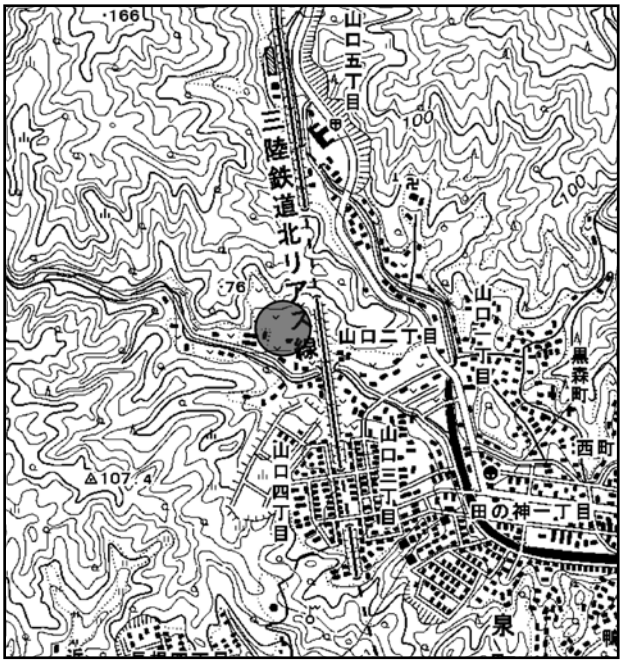
山口駒込（やまぐちこまごめ）Ⅰ遺跡（LG23-2244）

【所 在 地】　宮古市山口第９地割駒込地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成26年４月14日（月）
　　～18日（金）

【調査結果】　調査地は、宮古湾から西方向に約３㎞内陸で、山口川支流蜂ヶ沢川左岸の丘陵部及び谷部である。標高は約24mであり、現況は山林や畑地である。



山口駒込Ⅰ遺跡 位置図

今回の発掘調査は、三陸沿岸道路（宮古～田老）に伴って、事業地における埋蔵文化財の実態を把握する目的で行った試掘調査である。当該事業地には縄文時代の集落遺跡である山口駒込Ⅰ遺跡があり、埋蔵文化財の状況を把握するため、対象区域内に幅0.8m～４m、長さ３m～23mのトレンチ（以下Ｔ）を21本設定し掘削を行った。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　暗褐色土　　層厚20～60㎝（表土及び耕作土）
Ⅱ層　黒褐色土　　層厚20～60㎝（谷部堆積土）
Ⅲ層　黒色土　　層厚20～40㎝（縄文時代の包含層）
Ⅳ層　粘質黄褐色土　層厚30㎝（基盤層・地山）
Ⅴ層　風化花崗岩　　層厚不明（基盤層・地山）

包含層はⅢ層の黒色土で、縄文中期の土器が中心であった。遺物は遺存状態がよく、摩滅等は見られなかった。なお古代の土器が１点出土した。遺構面は１面を把握した。調査の結果、谷に挟まれた南向き緩斜面裾部付近の平坦面に設定したＴ11において、深さ１mから円形の竪穴住居跡のプランを確認した。また、Ｔ11～13では遺物包含層を確認した。一方、東部及び西部の谷部では、遺構及び遺物を確認することはできなかった。以上の所見から丘陵の緩斜面に当たる東西約80m・南北約25mの約2,000㎡に、縄文時代の遺構群が存在すると考えられる。

検出遺構

遺構面の深度

作業風景　人力掘削

トレンチ位置図

調査地　遠景

調査風景　重機掘削

調査風景　堆積状況精査

出土遺物

４　三陸沿岸道路（宮古～田老）

千徳城遺跡群（LG33-0197）

【所 在 地】　宮古市千徳地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成26年12月15日（月）
　　～18日（金）

【調査結果】　調査地は、JR宮古駅より西へ約2.2km、標高６～30m、現況は宅地、畑地及び山林である。

調査区全体に21本（尾根部７本・谷部14本・Ｔ１～21）のトレンチを設定した。

基本層序は以下のとおりである。

＜調査区北側：トンネル坑口予定地付近＞

Ⅰ層　黒褐色土　層厚５cm（表土）

Ⅱ層　暗褐色土　層厚35cm

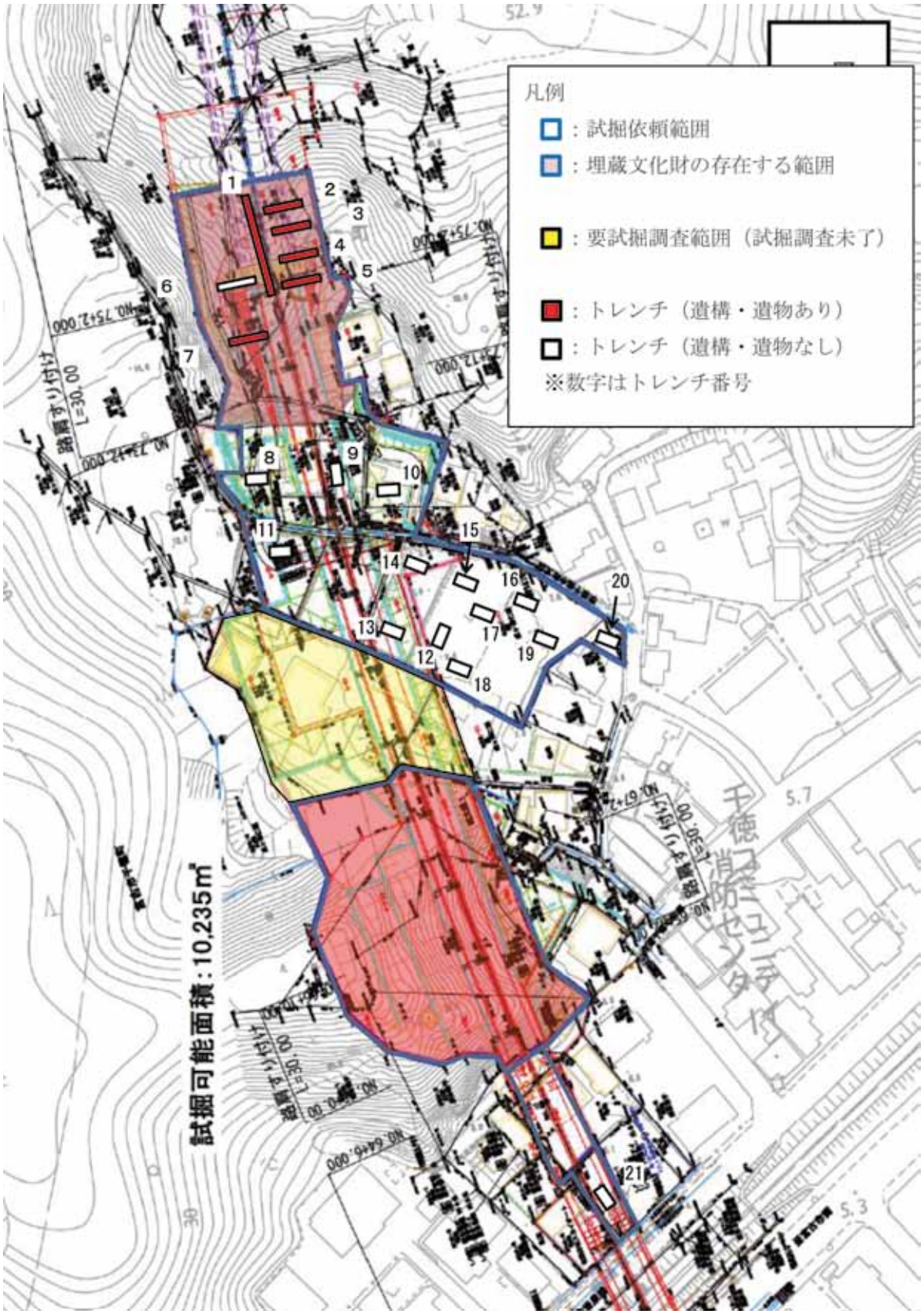
Ⅲ層　褐色土　　層厚不明（地山・真砂土）

千徳城遺跡群（南側）位置図

調査の結果、調査区東側の南西向き斜面に設定したＴ１（センター杭No.76より4.5m下位）において、竪穴住居跡１棟を確認した。住居壁面はトレンチ上部（東側）のみ残存し、下部（西側）は流失していた。床面付近から土師器片、鉄滓片、羽口片が出土していることから古代の住居跡と考えられる。Ｔ１からは他に埋土より縄文土器片も出土している。

また、尾根上端から谷側に向って設定したトレンチ（Ｔ２～５）では、谷側に向って、地山が人為的に掘削されたと思われる状況が確認された。調査区外に曲輪が所在することから、城館の防御施設の可能性があると思われる。

一方で、調査区西側の丘陵部には現地踏査時に曲輪が確認されていたため、要本調査範囲とし、掘削は行わなかった。

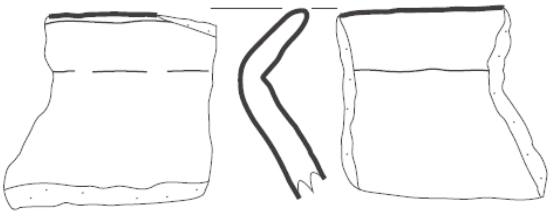


トレンチ位置図（遺跡南側）

調査風景（Ｔ１付近）

Ｔ１　竪穴住居跡検出状況

調査区西側に広がる平場



出土遺物

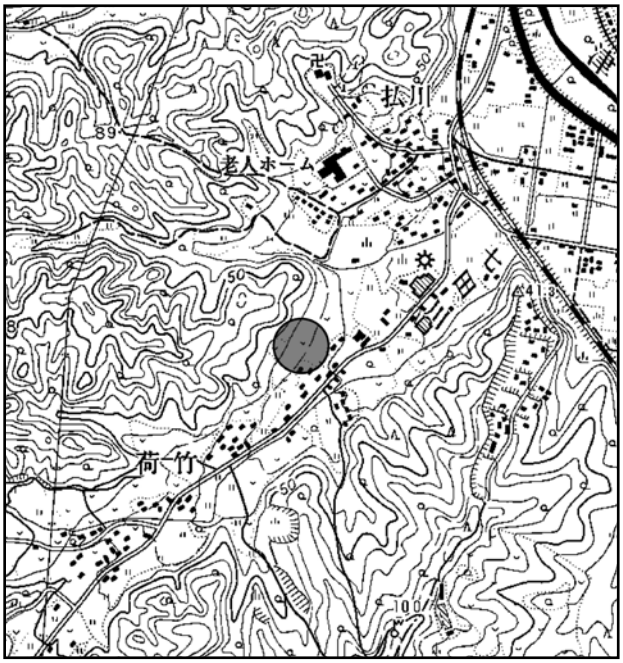
５　三陸沿岸道路（宮古～田老）

荷竹日向（にちくひなた）Ⅰ遺跡（LG63-0231：範囲拡大）

【所 在 地】　宮古市津軽石荷竹地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成26年５月19日（月）
　　～20日（火）



荷竹日向Ⅰ遺跡 位置図

【調査結果】　調査は、JR山田線津軽石駅の南西へ約2.5kmに位置し、荷竹日向Ⅰ遺跡（LG63-0231）の北側に隣接する丘陵頂部周辺が調査対象地である。

トレンチを計７箇所に設定した。Ｔ１・２は丘陵頂部平坦面に、Ｔ３・４は丘陵頂部から南側に延びる平坦面に、Ｔ５・６は同じく東側に延びる平坦面に設定した。Ｔ７はかつて神社が存在した平坦面に設定した。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　暗褐色土　　層厚20cm（表土）

Ⅱ層　灰褐色砂質土　層厚20～30cm

Ⅲ層　灰白色砂礫土　層厚30cm（地山）

調査の結果、遺構はＴ１・４・５で確認された。遺構はＴ１で土坑及び溝状遺構の計５基、Ｔ４で土坑１基、Ｔ５で溝状遺構１基である。遺物は、Ｔ１・４の遺構埋土から土師器片が出土している。

なお、当該地は樹木伐採のための重機進入路が設置されており、進入路壁面の精査により遺構と遺物を確認することができた。

遺構を確認した地点は５箇所あり、特に地点４、５では地山をほぼ垂直に掘込んだ竪穴住居跡と思われる遺構を確認している。その他の地点でも同様な地山を掘り込んで設けられた遺構を観察できた。遺物は地点２、３、５で土師器片、縄文土器片が出土している。

以上の結果から、当該地まで荷竹日向Ⅰ遺跡の範囲が伸びる可能性が高い。

トレンチ位置図

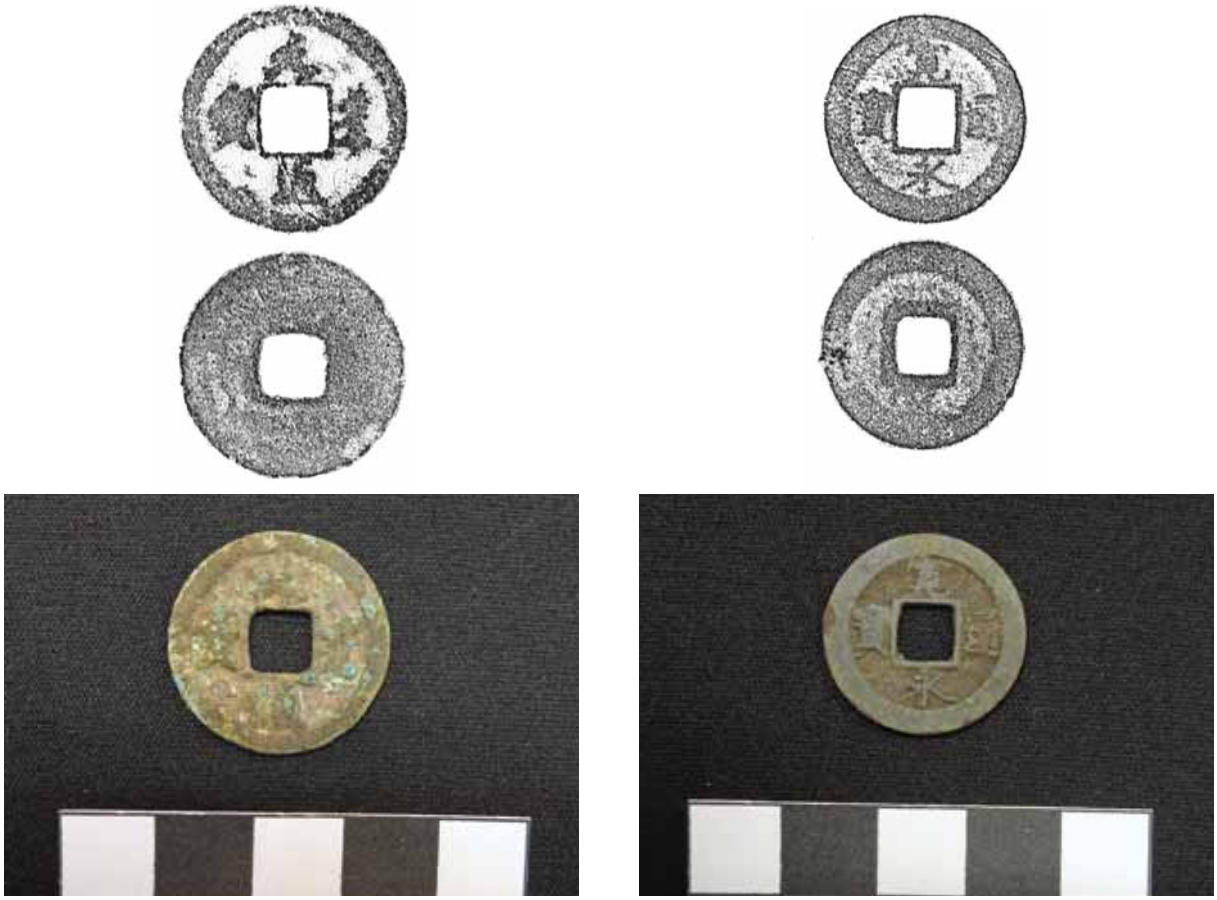
調査風景

Ｔ１　遺構検出状況

地点４　遺構検出状況

地点５　遺構検出状況

出土遺物１



出土遺物２・３

６　三陸沿岸道路（山田～宮古）

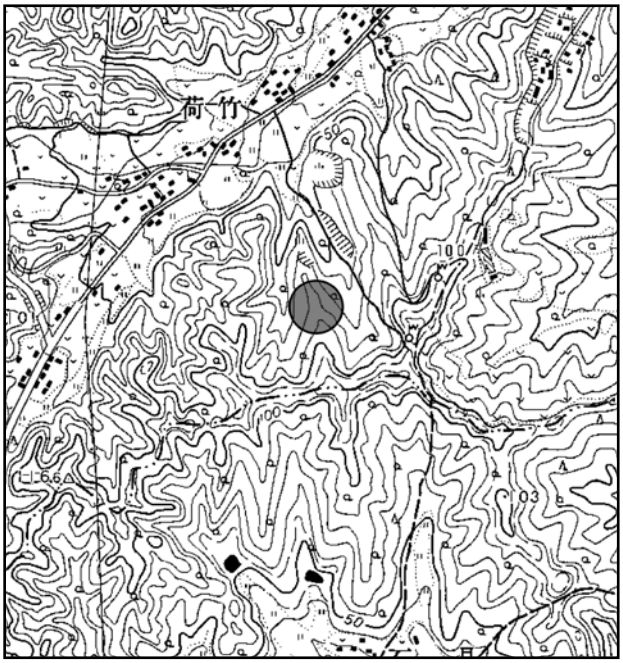
荷竹日影（にちくひかげ）Ⅱ遺跡（LG63-0280：範囲拡大）

【所 在 地】　宮古市津軽石荷竹地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成27年３月10日（火）

【調査結果】　調査地はＪＲ山田線津軽石駅の南西約3.2㎞、津軽石川支流七田川右岸の丘陵上に位置する。



荷竹日影Ⅱ遺跡 位置図

調査については、当該事業に付随する機能補償道路の建設に伴うもので、可能性あり１～４として対象範囲内に各１箇所、合計４箇所トレンチを設定し、人力による掘削後に精査・記録作成を実施した。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　表土　層厚５～15㎝

Ⅱ層　暗褐色土～黒褐色シルト層　層厚20～90㎝

Ⅲ層　暗灰色土層　層厚10㎝

Ⅳ層　淡褐色土層　層厚20㎝

Ⅴ層　黄褐色土～黄褐色シルト層　層厚不明（遺構検出面・地山）

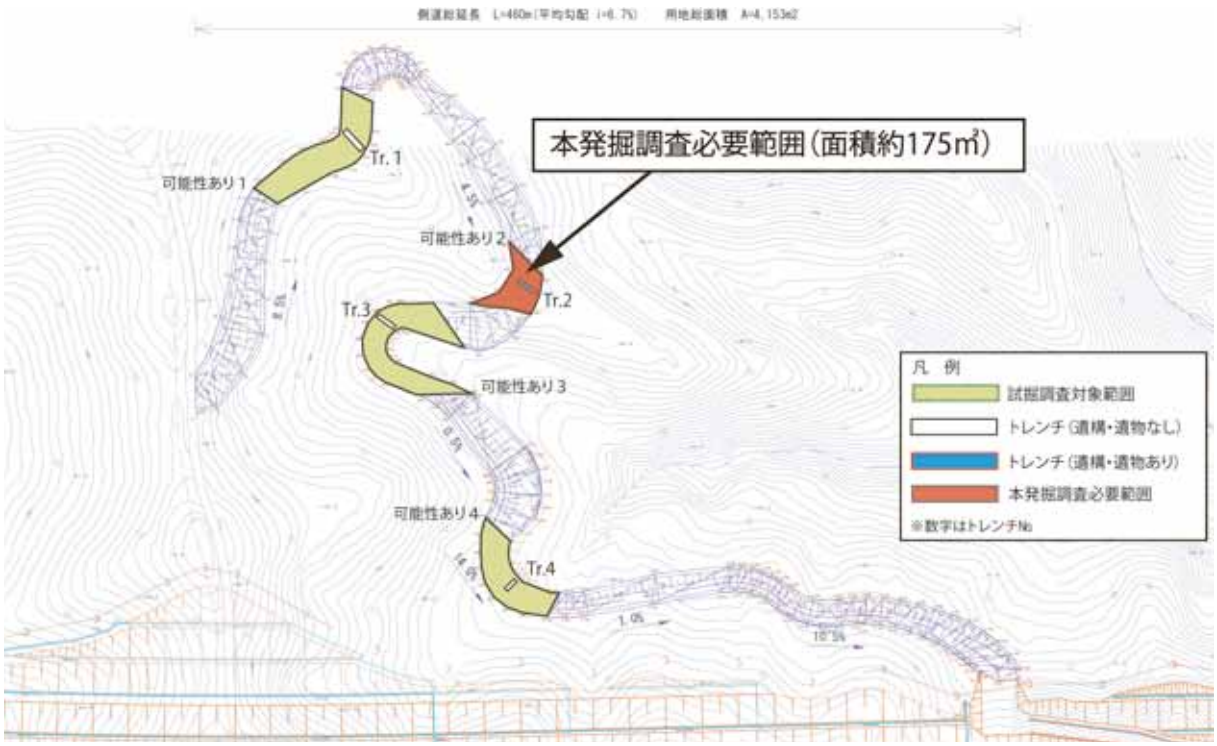
可能性あり１は、南北に続く尾根南端部の緩斜面である。調査の結果、暗褐色・黒褐色シルト等の表土及び旧表土を除去すると、礫を含む黄褐色シルト～粘土の地山に到達した。遺構・遺物は確認できなかった。

可能性あり２は、可能性あり１から南北に続く尾根が一度下り傾斜となり、再度上昇して長く平坦な尾根を形成する範囲の中央部に位置する。調査の結果、設定したトレンチの北端で竪穴住居跡と捉えられる遺構を確認した。住居跡本体は、さらに北側に連続するものと推測され、出土遺物がないため明確な帰属時期は判然としないが、周辺の調査事例から暫定的に縄文時代としておきたい。

可能性あり３は、尾根と尾根に挟まれた谷状の北向き緩斜面である。調査の結果、埋没谷を構成する堆積が確認できたのみで、遺構・遺物ともに確認されなかった。

可能性あり４は、緩斜面先端の西向き平坦面である。調査の結果、表土直下で地山の暗黒茶褐色土となり、遺構・遺物とも確認されなかった。

上記の試掘結果から可能性あり２については、立地する尾根上に遺跡が連続して存在するものと推測され、北側に隣接する荷竹日影Ⅱ遺跡の範囲が、当該地まで拡大することとなった。



トレンチ位置図

Ｔ２　調査状況

Ｔ２　土層堆積状況

Ｔ２　遺構確認状況

Ｔ２　遺構埋土堆積状況

７　三陸沿岸道路（吉浜～釜石）

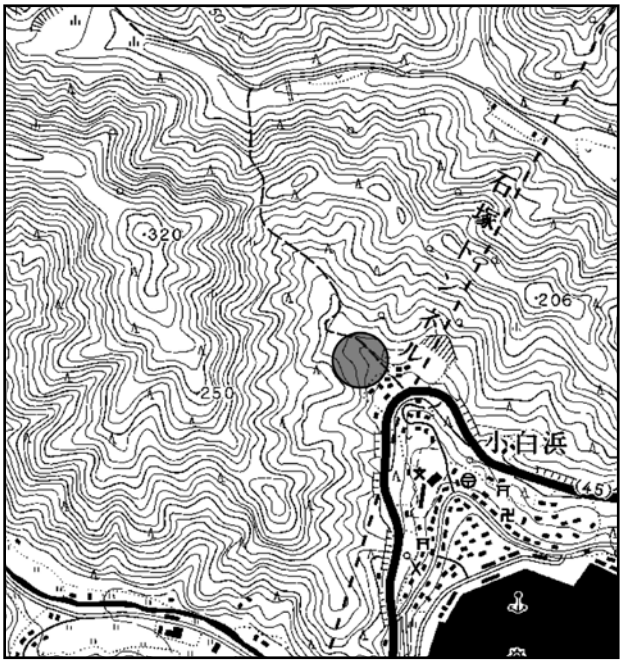
小白浜（こじらはま）遺跡（MG92-0133）および隣接地

【所 在 地】　釜石市唐丹町字小白浜地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　南三陸国道事務所

【調査期日】　平成26年12月８日（月）
　　～11日（金）

【調査結果】　小白浜遺跡は、釜石市役所から南南西に7.4km 離れた唐丹湾に向かう緩斜面に立地する。調査対象区域は、埋蔵文化財包蔵地内の水田（１区）と隣接する北側の山林（２区）である。調査では、１区に７箇所（Ｔ１～７）、２区に13 箇所（Ｔ11～23）の計20箇所のトレンチを設定した。

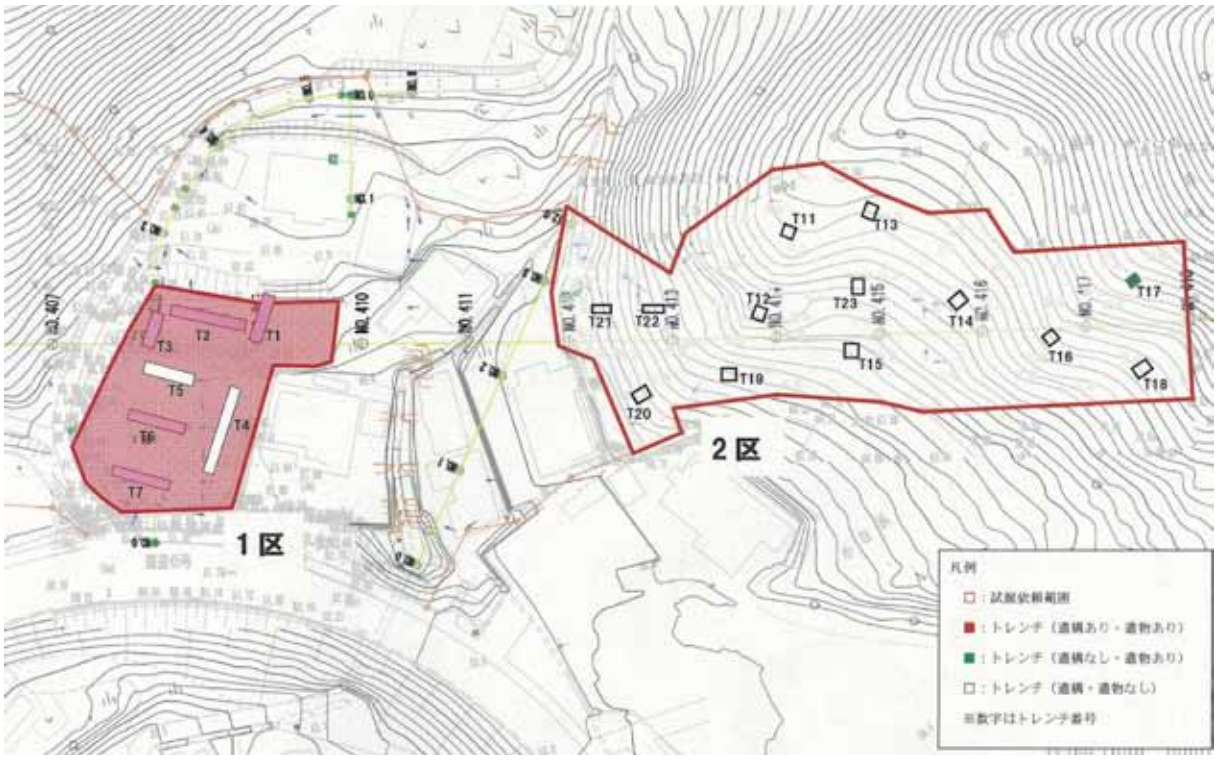


小白浜遺跡 位置図

１区の基本層序は以下のとおりである。２区はⅢ・Ⅳ層が確認できず、一部にⅡ層を認めるもののほとんどの箇所でⅠ層表土下はⅤ層地山面である。

Ⅰ層　表土・盛土　層厚20～150cm
Ⅱ層　黒色土　　層厚０～40cm（旧表土）
Ⅲ層　黒褐色土　　層厚０～10cm（遺物包含層・礫多い）
Ⅳ層　褐色土　　層厚５cm程度（遺構検出面）
Ⅴ層　黄褐色土　　層厚不明（礫層・地山）

調査の結果、１区では、水田上面に設定したＴ１からは１棟の竪穴住居跡、Ｔ２からは１基の土坑と竪穴住居跡と想定される円形プランが検出された。時期は出土土器から、縄文時代中期後葉と考えられる。水田面に設定したＴ４・５では、地形が改変され遺跡が破壊されている様相が確認できたが、海寄りに設定したＴ６・７では、土坑状のプランと共に縄文土器も出土している。遺跡全体が大きく地形改変されているが、多くの遺構や遺物が検出される可能性が高い。隣接地で急峻な地形となる２区では、最も北寄りに設定したＴ18から縄文土器片が１点出土したのみで、いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかった。散見される平坦面は、後世の植林に関わる道路などの痕跡であることが判明した。

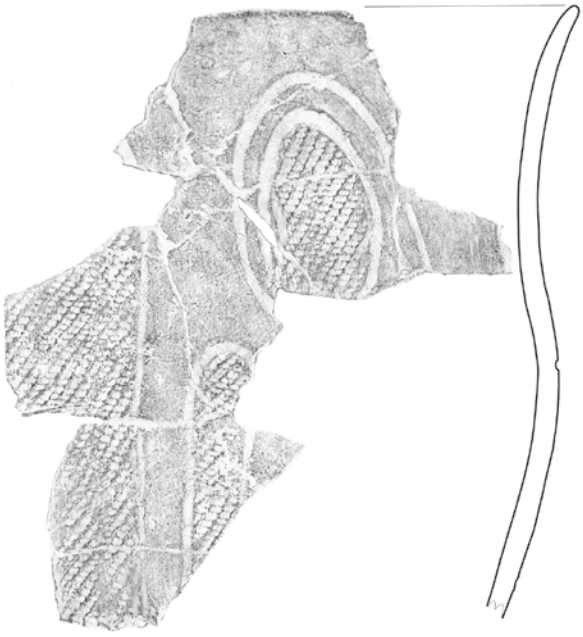


トレンチ位置図

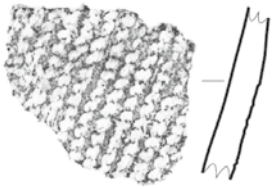
調査区全景（１区）

Ｔ２　竪穴住居跡

Ｔ15　全景



出土遺物１



出土遺物２

８　宮古盛岡横断道路（区界工区）

盆花（ぼんはな）遺跡

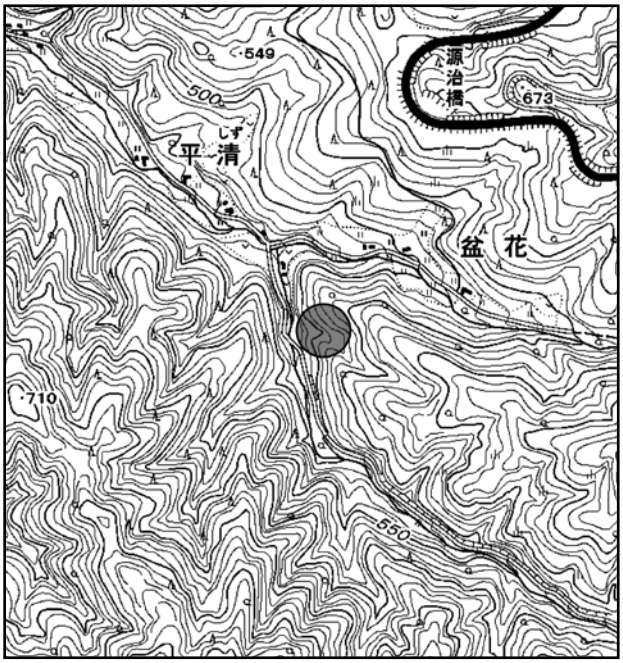
（LF20-2223：新規発見　旧可能性あり10）

【所 在 地】　盛岡市簗川第２地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　岩手河川国道事務所

【調査期日】　平成26年11月７日（金）

【調査結果】　調査地は、ＪＲ山田線区界駅の西北西約2.4kmにある簗川に注ぐジナサワと呼ばれる小規模の沢により形成された、谷底低地の西面する山の緩斜面地である。現況は原野となっている。平場を中心に全体に５箇所トレンチを設定して調査を実施した。



盆花遺跡 位置図

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　暗褐色土　層厚10～20cm（粘土質シルト層・表土・耕作土）

Ⅱ層　黒褐色土　層厚20～40cm（粘土質シルト層・自然堆積層）

Ⅲ層　暗褐色土　層厚０～10cm（粘土質シルト層・自然堆積層・遺物包含層）

Ⅳ層　黄褐色土　層厚不明（シルト層・自然堆積層・遺構検出面）

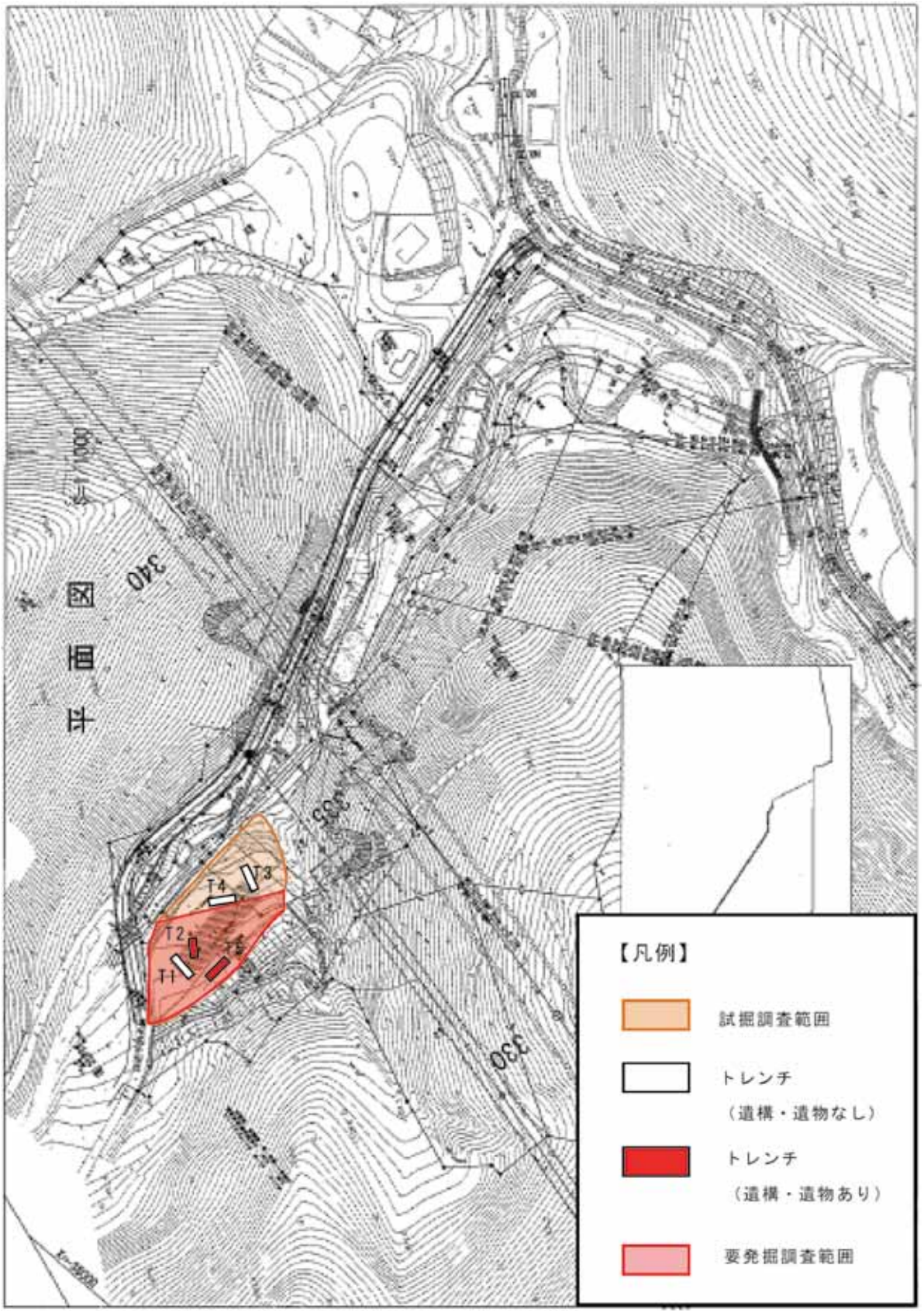
おおよその堆積層は上記のとおりであるが、暗褐色（Ⅰ層）の表土下に、小礫を含む黒褐色の自然堆積層（Ⅱ層）が堆積し、黄褐色土（Ⅳ層）が堆積する。Ｔ２及びＴ５では、Ⅱ層とⅣ層の間に層厚10cm程度の暗褐色の粘土質シルト層（Ⅲ層）が確認された。同層中からは縄文土器片が出土している。

Ｔ１・３～５では、Ⅳ層上面で遺構検出を行ったが、遺構は発見されなかった。

Ｔ２ではⅢ層中で、縄文土器片が面的に出土し、同層の落ち込みを確認したことから、Ⅲ層を覆土とした竪穴住居跡の一部にあたるものと考えられる。出土した縄文土器から、縄文時代後期前葉～中葉のものと考えられる。

なお、Ｔ１・２ではⅡ層に比定すると考えられる焼土と柱穴を確認した。出土遺物がないため時期の詳細は判断できないが、近世以降のものと推測する。

調査の結果、Ｔ２・５では、遺構と考えられる落ち込みや遺物を確認したことから、両トレンチ周辺の緩斜面地には、縄文時代後期前葉～中葉と考えられる遺構が分布しているものと推測する。



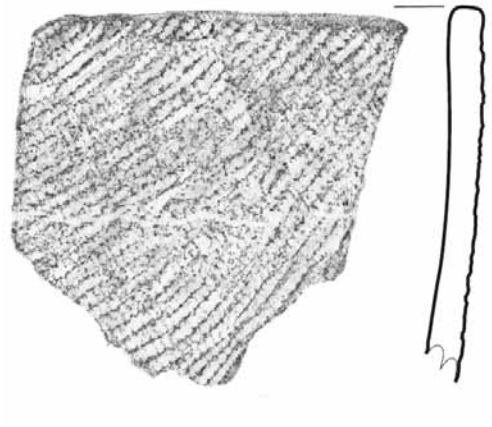
トレンチ位置図

調査前風景

Ｔ２　平面

Ｔ２　遺物出土状況

作業風景



出土遺物

本 発 掘 調 査

９　三陸沿岸道路（洋野階上道路）

サンニヤⅡ遺跡

（IF48-2231：旧可能性あり　２号工事用道路）

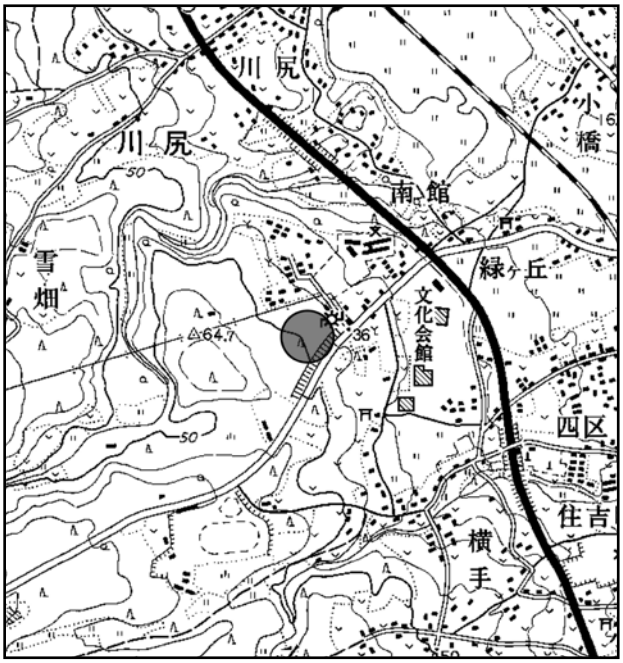
【所 在 地】　九戸郡洋野町種市第25地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成26年10月20日（月）
　　～11月21日（金）

【調査面積】　700㎡

【調査結果】　調査地は、ＪＲ八戸線種市駅から西へ約１km、標高50mの丘陵上に立地する。現況は山林・林道である。



サンニヤⅡ遺跡 位置図

三陸沿岸道路（階上～侍浜）建設事業に伴う第２号工事用道路が計画され、事業用地が周知の埋蔵文化財包蔵地である横手遺跡（IF48-2234）及びサンニヤ遺跡（IF48-2128）に近接することから、試掘調査を実施した。遺構・遺物が確認されたことから、サンニヤⅡ遺跡として新規登録を行い、立木伐採等の諸条件が整った後に発掘調査を実施した。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　表土

Ⅱ層　10YR2/1黒色土（しまり中。粘性弱。炭化物微量混入。遺物包含層）

Ⅲ層　10YR2/2黒褐色土（しまり中。粘性弱）
　　10YR5/6黄褐色ローム粒（φ ２～５㎜。少量～中量混入。遺構確認面）

Ⅳ層　10YR3/4暗褐色～10YR4/2灰黄褐色ローム（しまり強。粘性中。八戸火山灰）
　　10YR4/4褐色～10YR5/6黄褐色ローム粒
　　（φ ２～５㎜。微量～多量混入。上層ほど10YR5/6黄褐色ローム粒が微量～少量混入する）

Ⅴ層　10YR6/6明黄褐色ローム（しまり強。粘性弱。八戸火山灰）
　　10YR5/6黄褐色ローム粒（φ ２～５㎜。ロームブロック多量混入）

発掘調査の結果、古代の竪穴住居跡２棟（ＳＩ１・２）、土坑２基（ＳＫ８・９）、縄文時代の溝状土坑７基（ＳＫ１～７）を検出した。

＜１号竪穴住居跡（ＳＩ１）＞

G･H-５・６グリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出した。住居南西部は調査区外に延びる。平面形は方形を呈すると推定される。規模は長軸4.05m、短軸3.58m、検出面からの深さは0.34mを測り、床面積は約12㎡である。長軸方向はＮ－27°－Ｗである。壁は南東部が一部削平されているが、床面から垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で中央部は硬化している。住居中央部に焼土が広がり、壁材と

推定される長さ0.4～0.7m前後の炭化材が中央部に向かって放射状に検出された。

埋土は、１・２層が黒褐色土で炭化材・炭化物が多量に混入し、３層には焼土が層状に堆積する。４～５層にはⅣ層由来の黄褐色ロームがブロック状に混入することから、住居が廃絶して一定時間を経て自然に埋没した後に火災に見舞われ、焼土・炭化材を伴う土層（２・３層）が形成されたと推定される。

柱穴は６基（Pit １～６）確認した。Pit ２・７は方形の掘り方となるが、その他は円形・楕円形を呈する。Pit ２・３・7・８は住居の主柱穴、Pit １・４～６は壁面に伴う小柱穴と考えられる。主柱穴は径20～40㎝の掘り方で柱穴は径20㎝、小柱穴が径15～20㎝となり、検出面からの深さは10～25㎝を測る。

カマドは住居北西辺の中央に１箇所ある。平坦な燃焼部から長さ0.9m程度の煙道が緩やかに傾斜しながら延び、住居壁から一旦上がって、直径30㎝の円形を呈した煙出しが付属する。カマドの袖は地山を削り出して構築している。カマド裾部から燃焼部付近に焼土が顕著に認められたが、支脚は認められなかった。

遺物は､住居床面及び埋土下層から土師器（Ｐ１～11）が出土した。カマド周辺で顕著に認められ、土器の多くが住居壁面に沿って出土し、床面中央部からは確認されなかった。出土位置は土器の保管のあり方を反映しているものと推察される。土師器の器種は長胴甕・壺・甑・鉢・坏である。遺構の時期は、出土遺物から８世紀後半～９世紀初頭と判断される。

＜２号竪穴住居跡（ＳＩ２）＞

E-６･７グリッドのⅢ層上面で検出され、長軸約４m、短軸約3.5mをはかる隅丸方形の土坑であり、東側は樹根による遺構の損壊が著しかった。その形状から竪穴住居と想定され、慎重に掘削を行った。埋土の１層に小さな炭片が、３層には大きいもので長さ約40㎝の形状を残す炭化材が認められた。３層の炭化材の多くは10㎝程度のもので、遺構内に散在しており現位置を残すものはなく、SI １と異なる様相を呈している。T.P40.6mの中央部付近を中心に土が硬化している範囲が認められ､床面と考える。床面のレベルは北・南・西側でT.P40.6m、東側でT.P40.5mと東側へやや傾斜しており、北東へ傾斜する地形の影響を受けていると考える。なお、被熱痕跡（遺構図中の焼土範囲）も確認された。

遺構北辺はその中央部で遺構内側へ張出すような形状を呈し、付近の埋土に焼土が含まれていることから、カマドの痕跡を示すものと考えられる。この張出し部に接して長軸約70㎝短軸約60㎝深さ約20㎝の土坑(pit １)が床面で検出された。カマドに伴う可能性もあるが､埋土に焼土は含まれていなかった。

床面検出後は、柱穴跡や壁溝の検出を試み精査及び掘削を行ったが、柱穴跡の痕跡を見出すことはできず、遺構の北西部で壁溝を一部検出したにとどまった。

遺物は少なく、埋土からは長胴甕１個体が、床面付近から円礫３個体が出土している。出土遺物より、当遺構の年代を９世紀前半と考えている。

以上の様相から、当遺構は竪穴住居と想定されるが、遺物が著しく少ないこと、カマドを明確に確認できず、柱穴跡も検出できなかった状況などＳＩ１と様相を異にする点が多いことには注意を要する。

＜陥し穴（ＳＫ１～７）＞

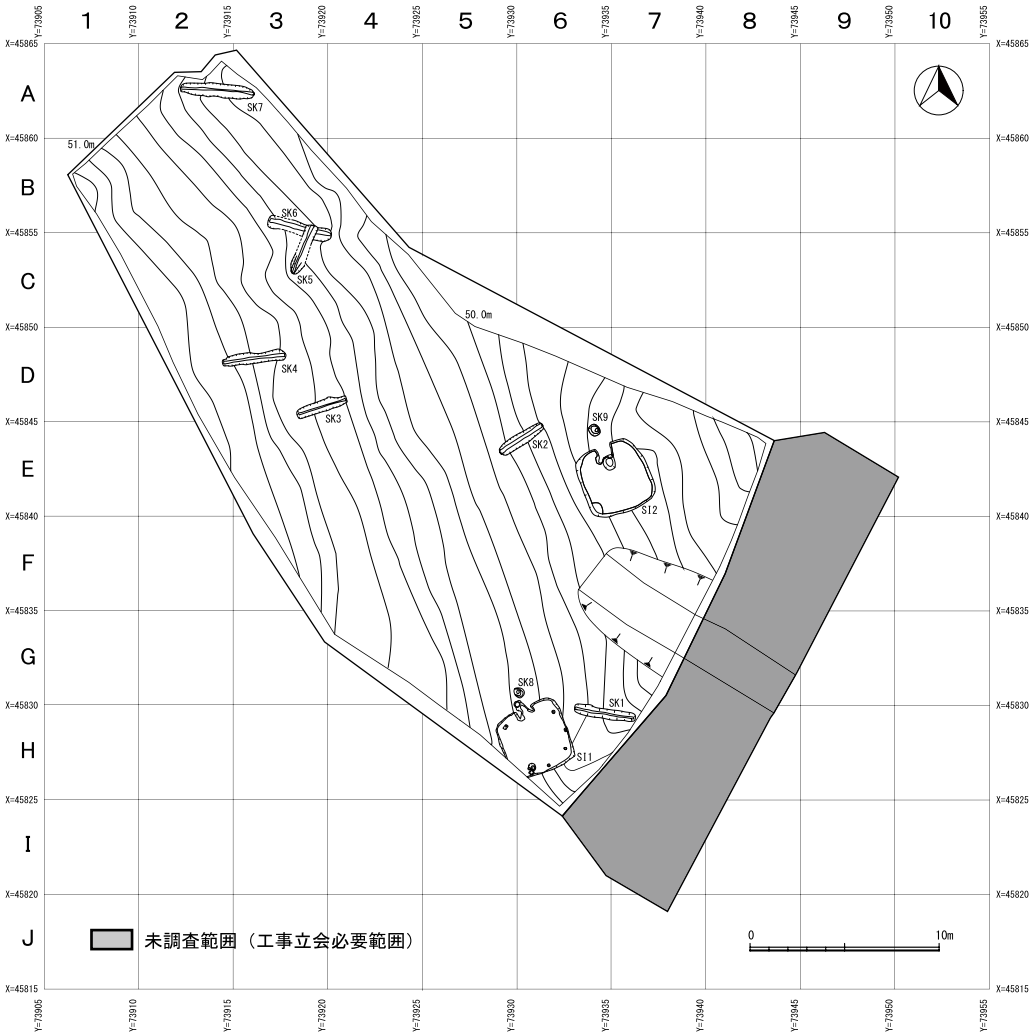
陥し穴は７基確認され、いずれもⅢ層上面で検出した。ＳＫ５・６は重複するが、それ以外は単基存在である。重複するものを除けば、それぞれ３～15m程度の間隔を置いて位置する。平面形は溝状を呈する。規模は開口部で長軸263～387㎝、最大幅37～70㎝、底部で長軸263～393㎝、最大幅10～25㎝、検出面からの深さは85～112㎝を測る。長軸は東西方向（ＳＫ１・４・６・７）になるものと、北東－南西方向（ＳＫ２・３・５）になるものに分けられるが、いずれも等高線に直交して位置する。断面形は、長軸方向がほぼ垂直になるもの（ＳＫ１・３～６）と、オーバーハングして逆台形状を呈するもの（ＳＫ２・７）があるが、短軸方向は上端でやや開き漏斗状を呈する。底面はおおむね平坦であるが、逆茂木等の杭痕跡は認められなかった。埋土は黒褐色～暗褐色土を主体とし、十和田中掫火山灰（To-Cu）が微量～多量混入する。ＳＫ１から土器片が確認されたが、それ以外からは遺物は出土しなかった。年代・性格については、形状及び堆積土の状況から、縄文時代のものと推定される。

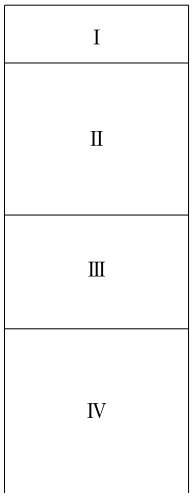
＜土坑（ＳＫ８・９）＞

土坑は２基確認され、いずれもⅢ層上面で検出した。ＳＫ８はＳＩ１のカマドの張出し部の北側に位置する。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.62m×短軸0.54m、検出面からの深さは19㎝を測る。埋土は暗褐色土を主体とし、焼土や炭化材は混入していない。ＳＫ９は、ＳＩ２の北側に約80㎝離れて検出された径約60㎝、深さ約40㎝の土坑である。ＳＩ２のカマド痕跡と考える張出し部延長線上に位置することから、煙り出し口の可能性もある。焼土、炭化材、遺物などは埋土に含まれていなかった。

【まとめ】

発掘調査の結果、本調査区周辺は縄文時代には狩猟場、奈良・平安時代には集落として利用されたことが明らかになった。縄文時代の陥し穴が調査区全域に点在することから、調査区周辺にも広がるものと予想される。また、古代の竪穴住居跡は調査区南側で検出され、北側では確認できなかった。本調査区南側に隣接する横手遺跡（IF48-2234）では奈良時代の遺物が確認されていることから、古代の集落は調査区南側に広がるものと推定される。





基本土層

Ⅰ層　表土

Ⅱ層　10YR2/1黒色土　しまり中。粘性弱。
炭化物微量混入。遺物包含層。

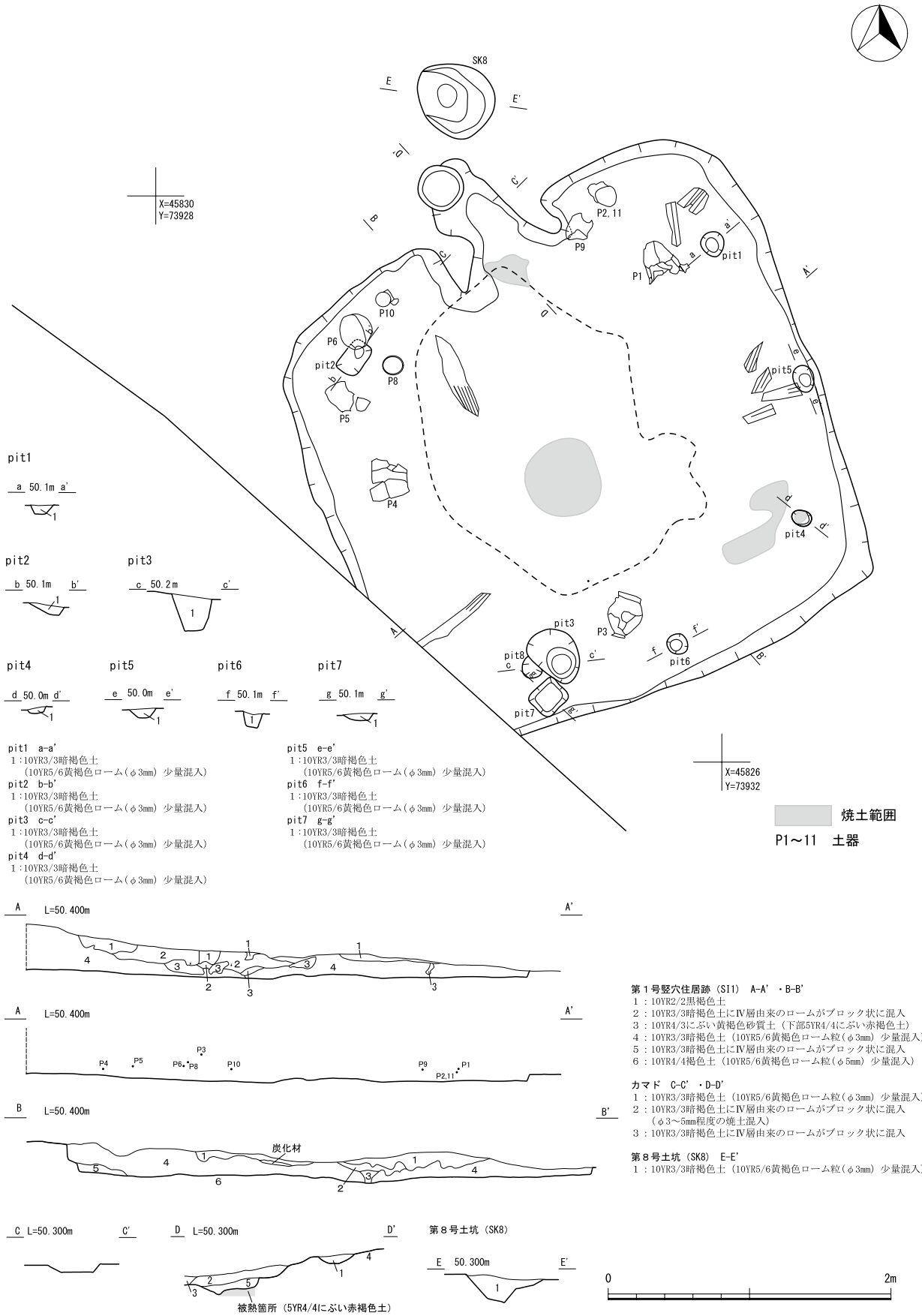
Ⅲ層　10YR2/2黒褐色土　しまり中。粘性弱。
10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～5mm）少量～中量混入。遺構確認面。

Ⅳ層　10YR3/4暗褐色～10YR4/2灰黄褐色ローム　しまり強。粘性中。八戸火山灰。
10YR4/4褐色～10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～5mm）微量～多量混入。
上層ほど10YR5/6黄褐色ローム粒が微量～少量混入する

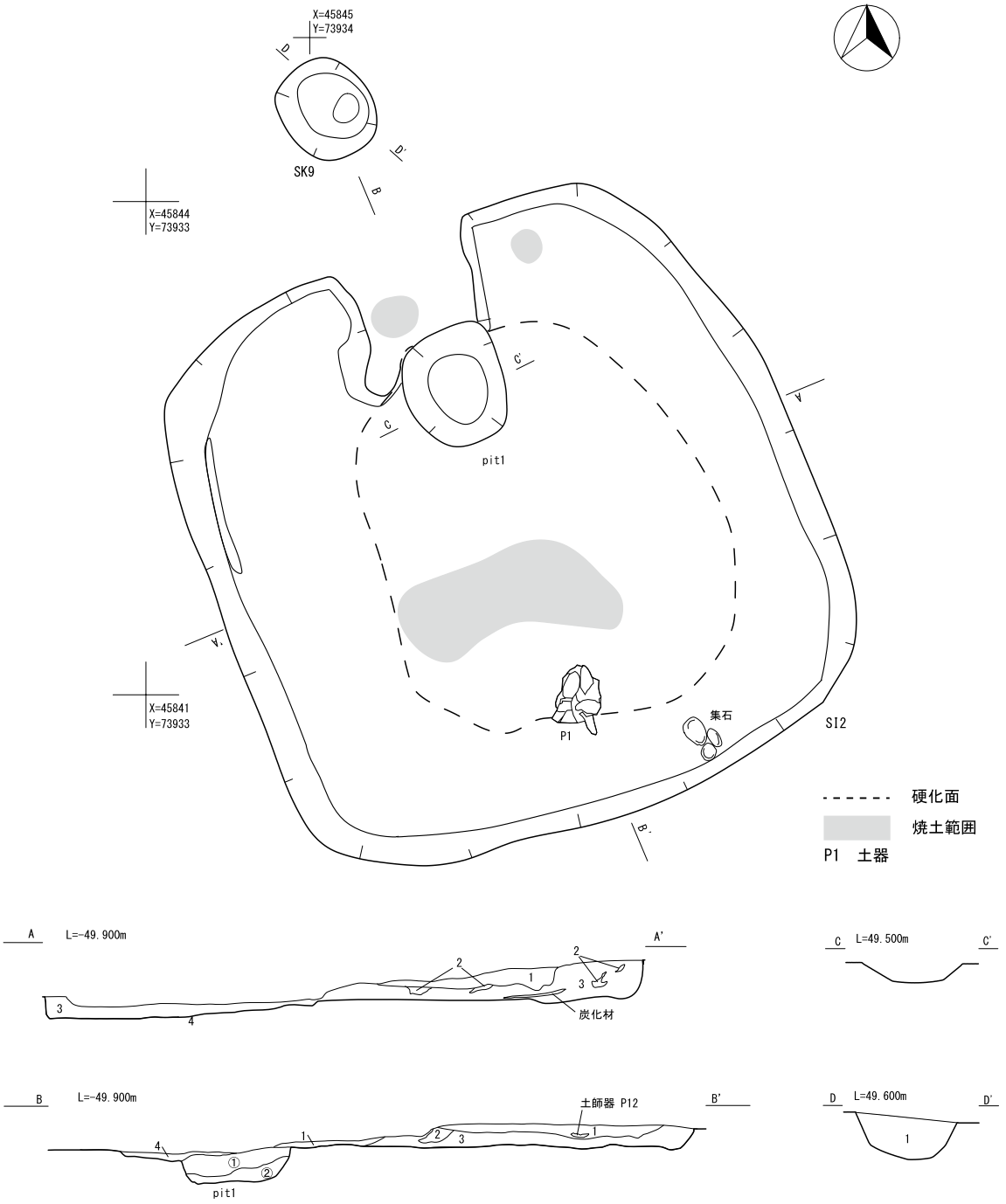
Ⅴ層　10YR6/6明黄褐色ローム　しまり強。粘性弱。八戸火山灰。
10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～5mm）・ロームブロック多量混入。

0　1m

基本土層図



１号竪穴住居跡（ＳＩ１）・８号土坑（ＳＫ８）　平面・断面図



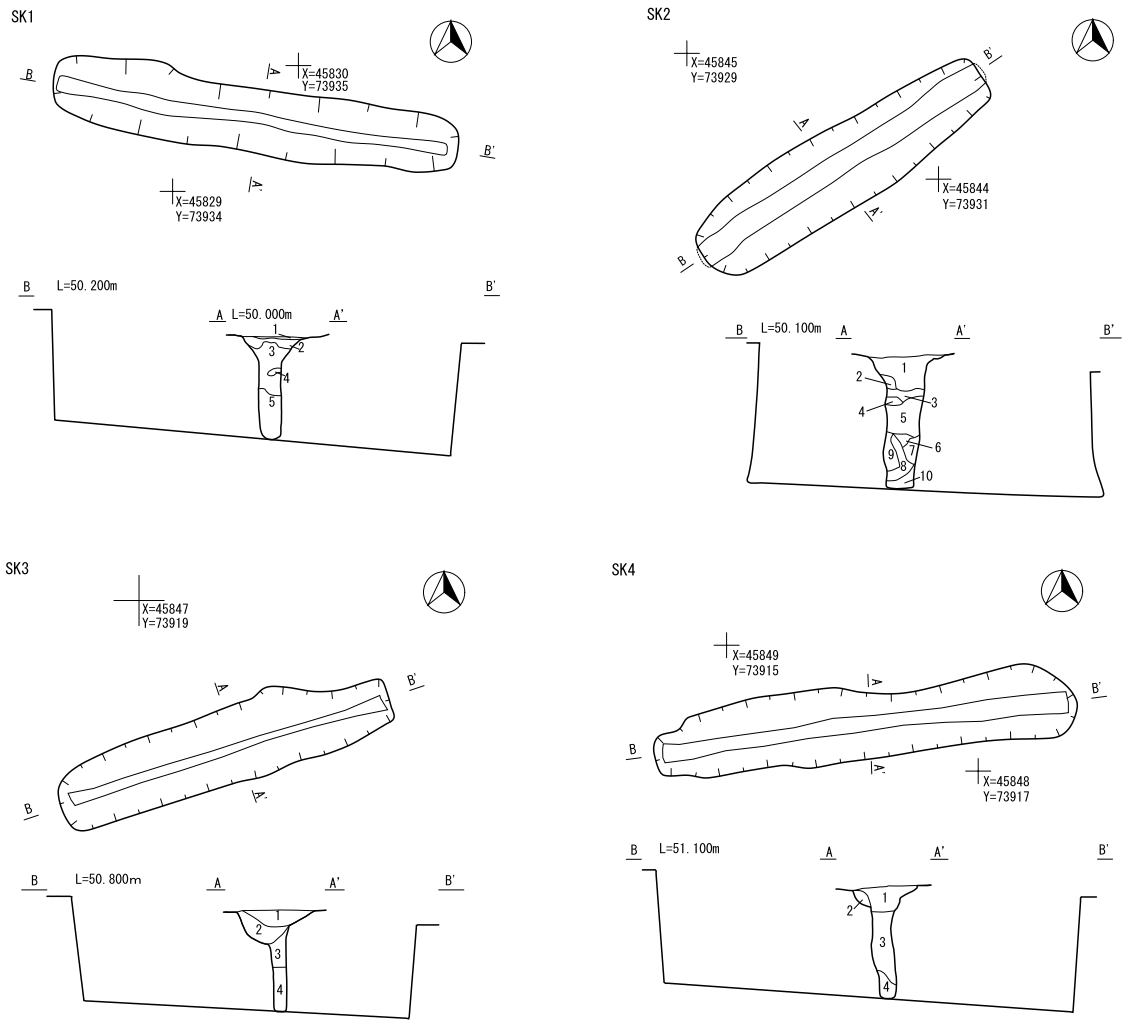
第２号竪穴住居跡（SI2） A-A’・B-B’
1：10YR2/2黒褐色土(土師器片入る)
2：10YR4/4褐色砂質土
3：10YR3/4暗褐色土
4：10YR3/4暗褐色（Ⅳ層由来のローム層及び焼土塊が混入）

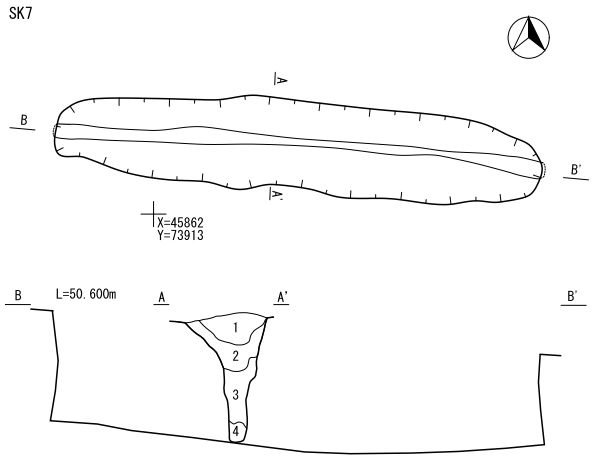
pit1
①：10YR3/4暗褐色土
（Ⅳ層由来のロームがブロック状に混入、
径2～5ｍｍの10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～5mm）少量混入）
②：10YR3/4暗褐色土（Ⅳ層由来のローム多量混入）

第９号土坑（SK9） C-C’
1：10YR2/2黒褐色土
（Ⅳ層由来のロームがブロック状に混入、
10YR5/6黄褐色ローム（φ2～5mm）少量混入）

0 2m

２号竪穴住居跡（ＳＩ２）・９号土坑（ＳＫ９） 平面・断面図





第１号陥し穴（SK1） A-A'
１：10YR2/2黒褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～3mm）少量混入）
２：10YR3/3暗褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～3mm）少量混入）
３：10YR2/2～2/3暗褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～3mm）少量混入）
４：10YR3/4暗褐色～10YR4/2灰黄褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～5mm）多量混入）
５：10YR2/2黒褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～5mm）微量混入）

第２号陥し穴（SK2） A-A'
１：10YR2/2黒褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～3mm）少量混入）
２：10YR3/4暗褐色～10YR4/2灰黄褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～5mm）混入）
３：10YR3/4暗褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～5mm）混入）
４：10YR3/4暗褐色～10YR4/2灰黄褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～5mm）混入）
５：10YR2/2～2/3暗褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ3～5mm）混入）
６：10YR2/2黒褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～3mm）少量混入）
７：10YR2/2～2/3暗褐色土
（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ10mm程度）ブロック状に多量混入）
８：10YR3/4暗褐色～10YR4/2灰黄褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒混入）
９：10YR2/2～2/3暗褐色土
（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ10mm程度）ブロック状に多量混入）
10：10YR2/2黒褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～3mm）少量混入）

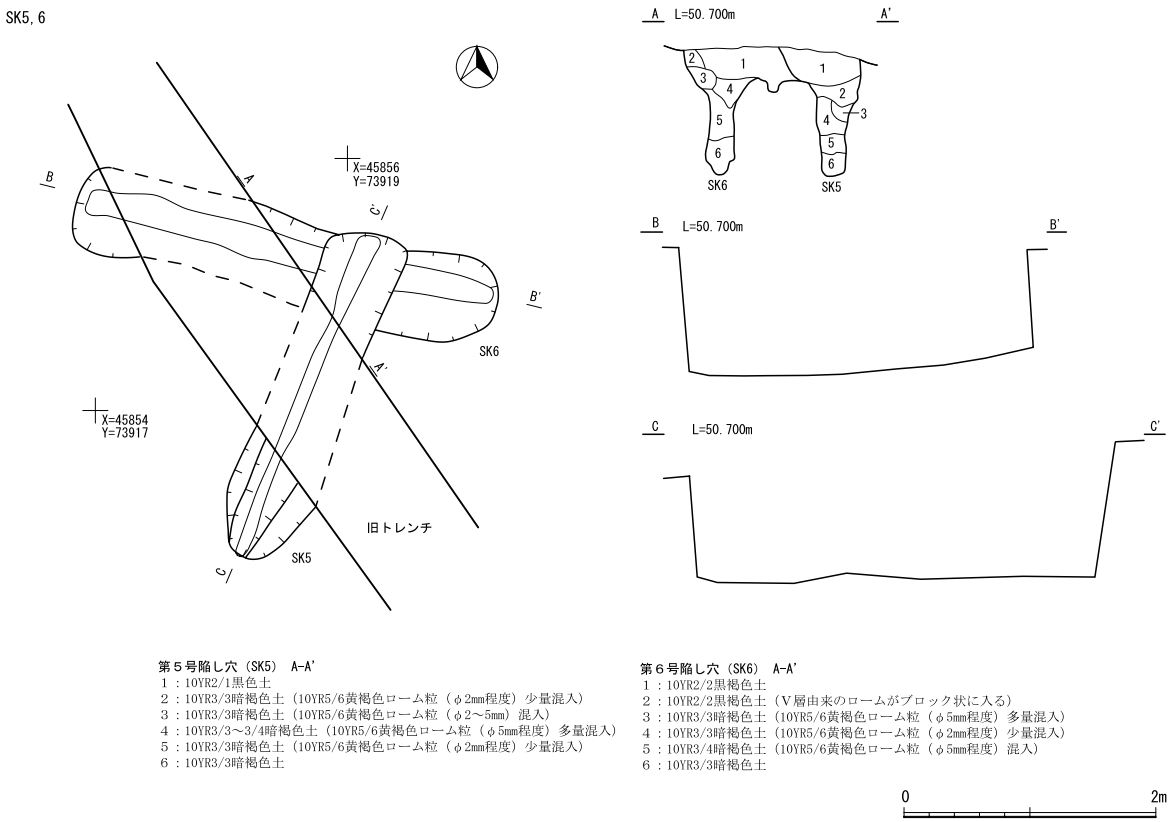
第３号陥し穴（SK3） A-A'
１：10YR3/1黒褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ1mm程度）微量混入）
２：10YR3/2黒褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ1～2mm）少量混入）
３：10YR3/1黒褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ0.5～1mm）微量混入）
４：10YR2/1黒色土

第４号陥し穴（SK4） A-A'
１：10YR2/2黒褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～3mm）少量混入）
２：10YR3/4暗褐色～10YR4/2灰黄褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～5mm）混入）
３：10YR2/2～2/3暗褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ3～5mm）混入）
４：10YR3/4暗褐色土（10YR5/6黄褐色ローム多量混入）

第７号陥し穴（SK7） A-A'
１：10YR2/2黒褐色土
２：10YR3/3暗褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒（φ2～5mm）混入）
３：10YR3/4暗褐色土（Ⅳ層由来のロームがブロック状に混入）
４：10YR3/4暗褐色土（10YR5/6黄褐色ローム粒混入）

0 2m

陥し穴（ＳＫ１～４・７） 平面・断面図



陥し穴（ＳＫ５・６）　平面・断面図

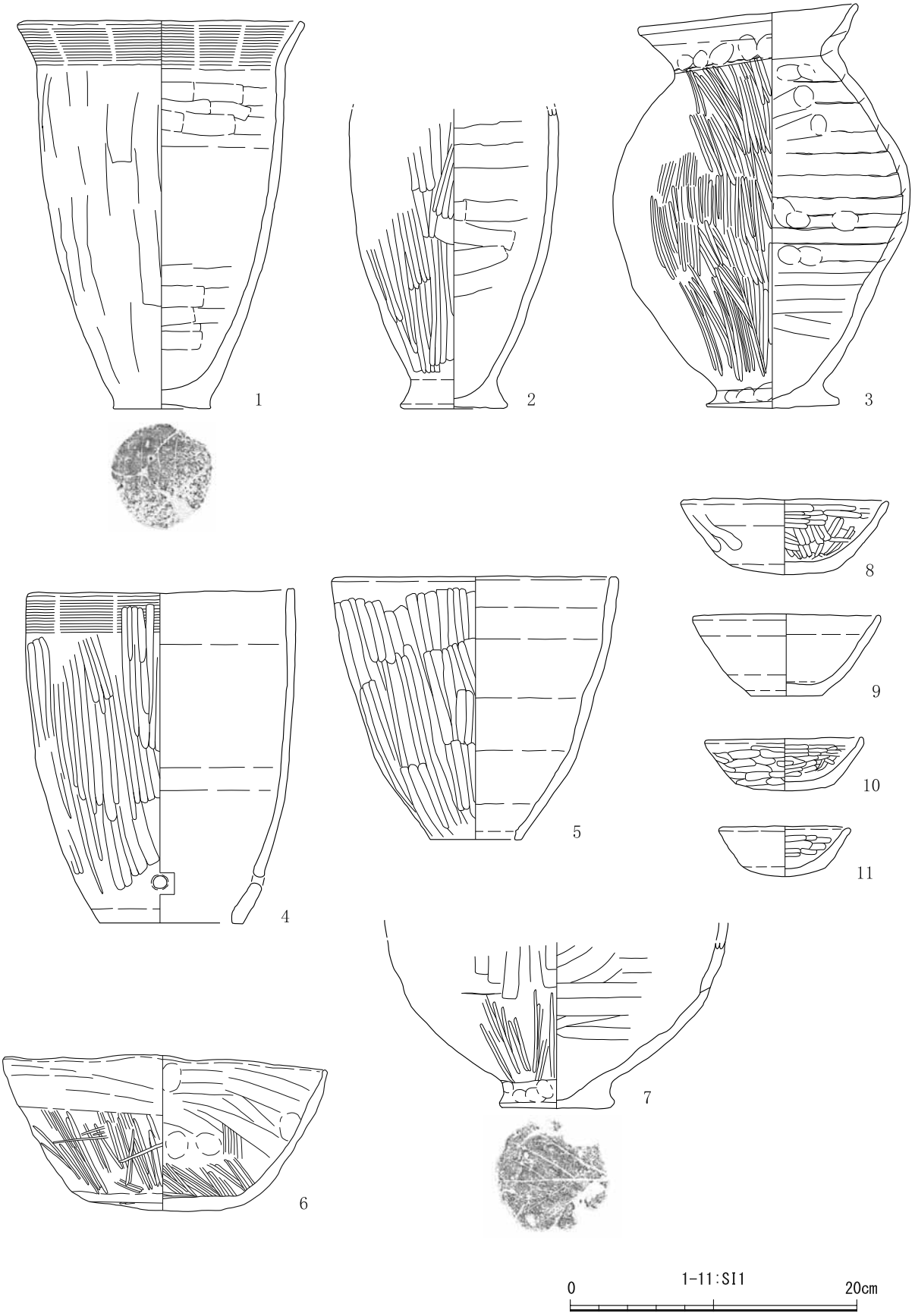
竪穴住居跡

遺構名	グリッド	検出層位	重複関係	平面形	主軸方向	規模					面積	遺物	備考
						上端		下端		検出面からの深さ(cm)			
						長軸(m)	短軸(m)	長軸(m)	短軸(m)				
SI1	G・H-5・6	Ⅲ層上面	—	隅丸方形	N-27° -W	4.05	3.58	3.48	3.48	34	12㎡	土師器	
SI2	E-6・7	Ⅲ層上面	—	隅丸方形	N-22° -W	3.76	3.65	3.03	3.32	23	12㎡	土師器	カマド無

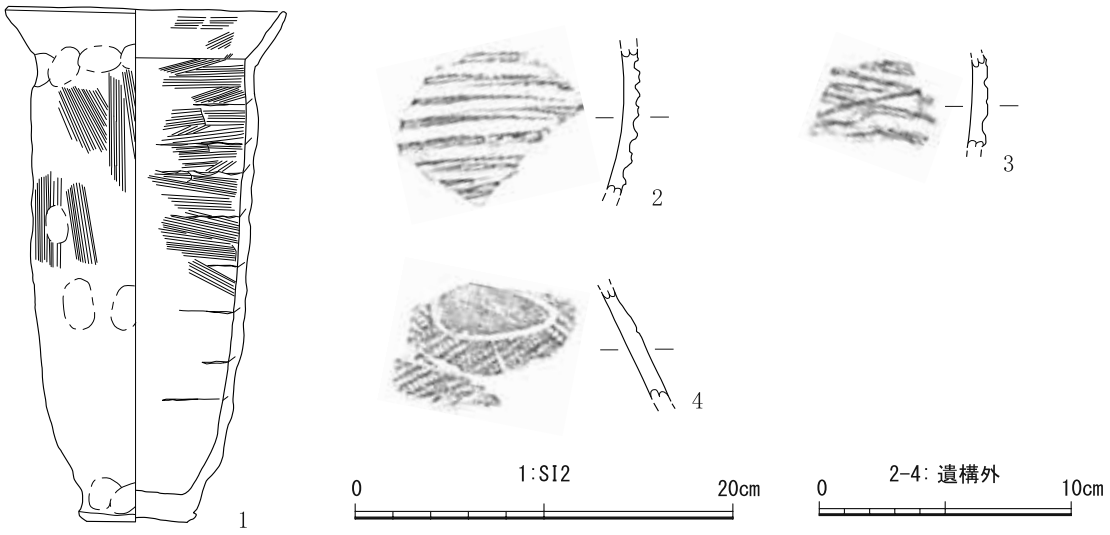
陥し穴・土坑

遺構名	グリッド	検出層位	重複関係（新>旧）	平面形	主軸方向	規模					遺物	備考
						上端		下端		検出面からの深さ(cm)		
						長軸(m)	短軸(m)	長軸(m)	短軸(m)			
SK1	H-6・7	Ⅲ層上面	—	長楕円形	N-80° -W	3.30	0.51-0.65	3.14	0.1～0.17	95	土器	陥し穴
SK2	E-5・6	Ⅲ層上面	—	長楕円形	N-34° -E	2.63	0.37-0.65	2.70	0.17-0.25	112	—	陥し穴
SK3	D-3・4	Ⅲ層上面	—	長楕円形	N-72° -E	2.75	0.55-0.65	2.60	0.1～0.15	85	—	陥し穴
SK4	D-2・3	Ⅲ層上面	—	長楕円形	N-83° -E	3.38	0.47-0.60	3.26	0.1-0.15	90	—	陥し穴
SK5	B・C-3	Ⅲ層上面	—	長楕円形	N-23° -E	2.77	0.60-0.70	2.73	0.1-0.20	100	—	陥し穴
SK6	B・C-3・4	Ⅲ層上面	—	長楕円形	N-76° -W	3.43	0.61-0.70	3.28	0.10-0.25	105	—	陥し穴
SK7	A-1・2	Ⅲ層上面	SK7>SK8	長楕円形	N-85° -W	3.87	0.65-0.70	3.93	0.10-0.15	105	—	陥し穴
SK8	G-5・6	Ⅲ層上面	—	円形	N-78° -W	0.62	0.54	—	—	19	—	
SK9	E-6	Ⅲ層上面	—	円形	N-48° -W	0.65	0.54	—	—	26	—	

遺構観察表



出土遺物１



出土遺物２

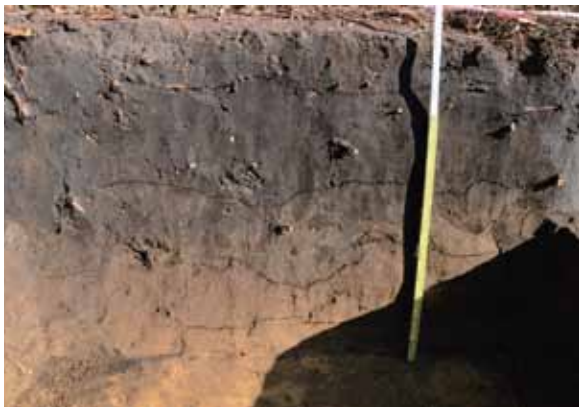
挿図番号	番号	写真図版	出土遺構	出土層位	種類	器種	部位	計測値(cm)			特徴
								口径	器高	底径	
第８図	1	7-1	SI1	床面直上	土師器	長胴甕	口縁部～底部	20.0	27.0	6.4	外:内:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ／内:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ・粘土紐接合痕明瞭／底面:木葉痕／内外面スス付着
第８図	2	7-2	SI1	床面直上	土師器	長胴甕	胴部～底部	—	—	7.0	外:ヘラミガキ／内:ヘラナデ・粘土紐接合痕明瞭／底面:無調整／内外面スス付着
第８図	3	7-3	SI1	床面直上	土師器	壺	口縁部～底部	15.1	27.6	9.8	外:口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ→ヘラミガキ／内:口縁部ハケ→ヨコナデ、胴部ヨコナデ・粘土紐接合痕明瞭／底面:無調整／内外面スス付着
第８図	4	7-4	SI1	床面直上	土師器	甑	口縁部～底部	18.8	18.3	10.0	外:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ、胴部下半被熱／内:ナデ／胴部下半に穿孔2ヶ所
第８図	5	7-5	SI1	床面直上	土師器	甑	口縁部～底部	20.0	23.3	8.0	外::口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ／内:ナデ・粘土紐接合痕明瞭／内面スス付着／ゆがみ著しい
第８図	6	7-6	SI1	床面直上	土師器	鉢	口縁部～底部	22.2	10.9	—	外:口縁部ヘラミガキ→ナデ、胴部ケズリ→ミガキ／内:ヘラミガキ→ナデ／底面:ヘラケズリ・ヘラミガキ・丸底風／外面スス付着
第８図	7	7-7	SI1	床面直上	土師器	壺	胴部下半～底部	—	—	8.0	外:胴部ケズリ→ヘラナデ(上半)・ヘラミガキ(下半)、底部ユビオサエ／内:ヨコナデ／底面:木葉痕／スス付着
第８図	8	7-8	SI1	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	14.5	5.2	—	外:ヘラナデ／内:ヘラミガキ／底部:ヘラミガキ、丸底風／内外面スス付着
第８図	9	7-9	SI1	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	13.0	5.6	5.0	外:ロクロナデ／内:ロクロナデ／底面:ヘラケズリ／内面スス付着
第８図	10	7-10	SI1	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	11.2	3.7	—	外:ヘラミガキ／内:ヘラミガキ／底部:ヘラミガキ、丸底風／内外面スス付着
第８図	11	7-11	SI1	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	9.2	3.4	—	外:ヘラナデ／内:ヘラミガキ／底面:ヘラナデ・丸底風／内外面スス付着
第９図	1	7-12	SI2	覆土上層	土師器	長胴甕	口縁部～底部	14.5	27.2	5.3	外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ／内:ハケ→ナデ／底部:無調整／内外面スス付着
第９図	2	7-13	遺構外	Ⅱ層直下	縄文土器	—	胴部	—	—	—	
第９図	3	7-14	遺構外	Ⅱ層直下	縄文土器	—	胴部	—	—	—	
第９図	4	7-15	遺構外	Ⅰ層直下	縄文土器	—	胴部	—	—	—	

遺物観察表

調査区全景（東から）

調査区全景（南から）

調査前風景（北から）



基本土層

作業風景

作業風景

１号竪穴住居跡　検出状況（南西から）

土層断面（北壁）

土層断面（西壁）

完掘状況（南から）

１号竪穴住居跡　カマド土層断面（南東から）

カマド完掘状況（南東から）

１号竪穴住居跡　完掘状況（南から）

２号竪穴住居跡　検出状況（東から）

土層断面（北から）

土層断面（西から）

カマド完掘状況（南から）

完掘状況（東から）

１号陥し穴　断面

完掘状況

２号陥し穴　断面

完掘状況

３号陥し穴　断面

完掘状況

４号陥し穴　断面

完掘状況

５号陥し穴　断面

完掘状況

５・６号陥し穴

完掘状況

７号陥し穴　断面

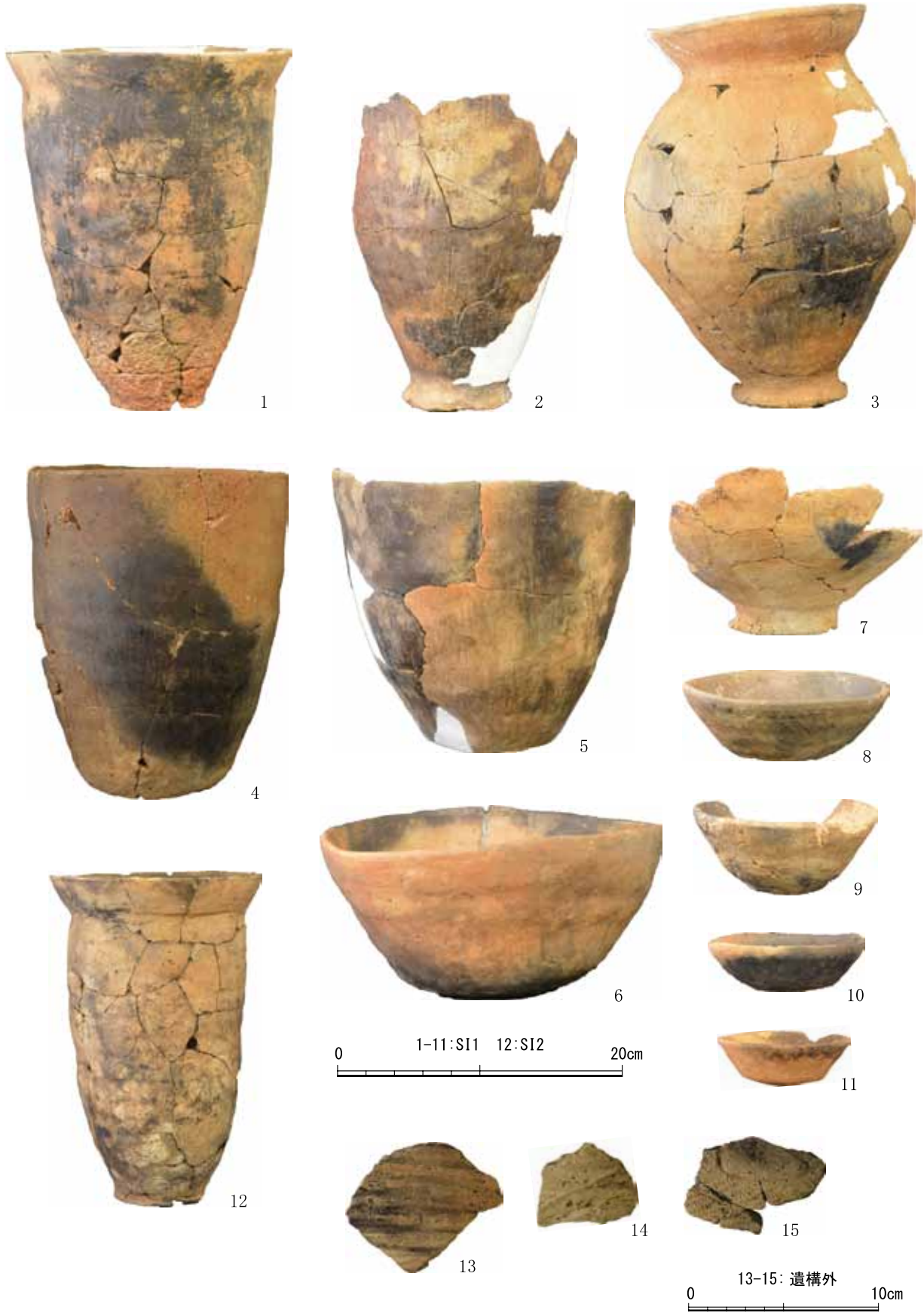
完掘状況

８号土坑　完掘状況

９号土坑　完掘状況

１号竪穴住居跡　出土遺物

２号竪穴住居跡　出土遺物



出土遺物

10　三陸沿岸道路（洋野階上道路）

南鹿糠（みなみかぬか）Ⅰ遺跡

（IF58-1333：旧可能性あり 29号工事用道路）

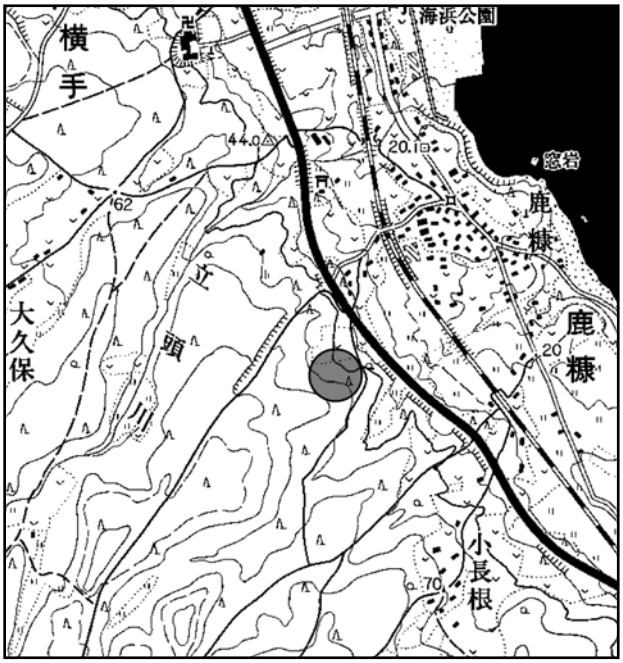
【所 在 地】　九戸郡洋野町種市第16･17地割地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

【調査期日】　平成26年11月４日（火）～12月26日（金）

【調査面積】　875㎡

【調査結果】　調査地は洋野町役場種市庁舎より南約2.2km、国道45号線の西に隣接する。



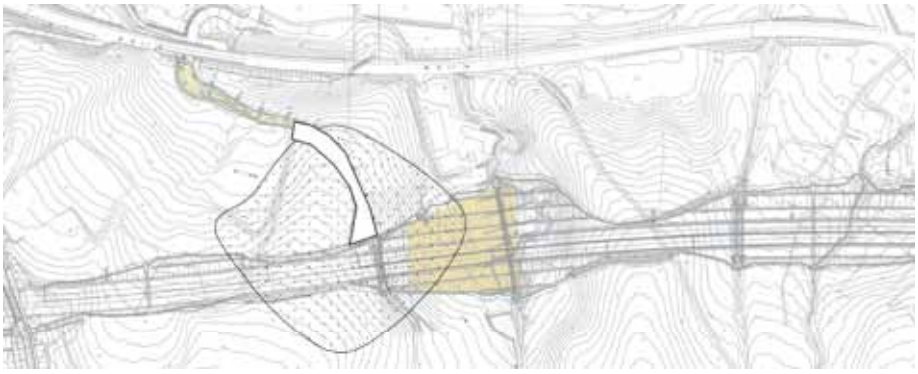
南鹿糠Ⅰ遺跡 位置図

今回の発掘調査は、調査に先立って実施された試掘調査において、遺構・遺物が確認されたことから、当課による本発掘調査を実施したものである。

当遺跡周辺では、約0.9km北側に位置するゴッソー遺跡（IF58-0341）において、過去に（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターおよび洋野町において本発掘調査が実施されている。この遺跡からは早～晩期の縄文土器が出土しており、なかでも前期初頭の遺物量が多い成果が得られていることから、当遺跡との関連が注目される。

基本層序は以下の通りである。

Ⅰ層	表土	層厚14～26cm
Ⅱ層	黒色土層	層厚20～57cm（縄文時代包含層）
Ⅲ層	灰色土層	層厚12～16cm（遺構検出面）
Ⅳ層	オリーブ黒色土層	層厚20～24cm
Ⅴ層	明黄褐色土層	層厚不明



調査区位置図

調査の結果、竪穴住居跡９棟・土坑26基・溝跡１条・焼土１基を確認した。竪穴住居は主に段丘平坦面に分布しており、出土遺物から縄文時代早～前期頃と捉えられる。この他、断面形状がフラスコ状を呈する土坑など、土坑の多くはこの時期に帰属するとみられる。

段丘平坦面から斜面に差し掛かる地形変換点周辺では、深い溝状の土坑である陥し穴が４基検出された。竪穴住居との関係や周辺の調査成果から、縄文時代後期頃と推定される。

遺構群の内容と立地環境から、集落の中心域は本調査地南～西側に展開するものと指摘できる。

さらに、調査区の形状に沿うように近世～近代にかけての林道跡が検出された。

以下より主要遺構について記すが、調査成果の詳細は今回の調査区南側を通過する三陸沿岸道路本線部分建設に伴う本発掘調査（県埋蔵文化財センターで実施・本報告）において報告する。

＜竪穴住居跡＞

【１号住居】大部分が調査区外となり、西辺と南・北辺の一部を確認したに留まる。平面形状は方形を呈すると思われる。柱穴・壁溝は確認できなかった。

【２号住居】西側の一部は調査区外となるが、長軸約4.4m・短軸は遺存状況から約3.5mと推測される。平面形状は楕円形を呈するものと判断できる。床面はほぼ平坦で東に緩やかに傾くが、貼床は認められない。柱穴は13基確認し、北辺及び南辺の壁溝周辺にも小規模なピットが散在する。床面中央と西北端の２箇所で焼土を確認している。

【３号住居】平面形状は方形を呈すると思われるが、大部分が調査区外で北西隅のみ確認した。床面はほぼ平坦であり、東に向かって傾く。柱穴は認められないが、土坑13が柱穴であった可能性はある。壁溝は確認できなかった。

【４号住居】長軸約4.9m・短軸約3.5mのやや不整形な隅丸長方形状を呈する。住居には１回の建替えが認められる。床面は西側を基盤層とし、東側は貼り床を施す。柱穴は床面・壁溝内含めて多数確認しているが、配列状況は判然としない。北西隅の壁溝では切り合い関係がみられる。地床炉は住居長軸方向に設置されていた。

【５号住居】削平が顕著であるが、長軸約2.8m・短軸約2.4mの不整形な隅丸方形状を呈する。床面は凹凸があるが、貼り床の痕跡は確認できない。床面中央北西側に被熱による赤変部分があるため、地床炉の痕跡と判断できる。

【６号住居】東側は一部調査区外へと延びる。平面形状は楕円形と推定され、長軸約3.8m以上・短軸約2.1mである。床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾する。床面のほぼ中央に２つの焼土を検出しており、地床炉と考える。北側では壁際に沿って５基の柱穴がほぼ等間隔で巡る。

【７号住居】東側は一部調査区外となるが、平面形状は長方形で長軸推定約3.6m・短軸約2.8mである。床面はほぼ平坦で、中央部には硬化が認められる。床面中央部では楕円形の土坑を検出している。この土坑の西側にはやや間隔を空けて２つの焼土があり、地床炉と考えられる。柱穴は壁際沿いに15基を検出した。遺物は西壁寄りの床面直上で土器大形破片がまとまって出土している。

【８号住居】大部分が調査区外となっており、北西側の一部のみを確認した。詳細は不明であるが平

面形状は円形を基調とし、検出された最大長約6.2mである。床面はほぼ平坦である。壁は開口部に向かって緩やかに外傾する。床面中央部と推定される位置で楕円形の土坑を検出している。柱穴は壁際沿いに３基、中央部土坑の北側に１基を検出した。

【９号住居】大部分が調査区外に位置しているため正確な規模等は不明である。壁溝及び土層断面から２回の建替えがあったものと判断できる。床面は平坦であり、柱穴を６基検出したが配列は明確ではない。床面には被熱による変色部分が認められ、地床炉が存在したものと考えられる。

＜陥し穴＞

【１号陥し穴】西端部は調査区外となるが、検出された長軸約2.6m・短軸約0.8m・深さ約1.5mの溝状を呈する。底部はほぼ平坦で、短軸断面の壁は外傾する。長軸端部はオーバーハングする。

【２号陥し穴】長軸約3.2m・短軸約0.7m・深さ約0.8mの溝状を呈する。底部はほぼ平坦で、短軸断面の壁は開口部まで外傾する。長軸端部付近はほぼ直立する。

【３号陥し穴】長軸約4.0m・短軸約0.6m・深さ約0.7mの溝状を呈する。底部はほぼ平坦で、短軸断面の壁はやや外傾して中位まで立ち上がり、中位から開口部に向かって大きく外傾する。長軸端部南側はほぼ直立するが、北側は外傾する。

【４号陥し穴】東半は調査区外へ延びるが、検出された長軸約1.4m・短軸約0.9m・深さ約1.3mの溝状を呈する。底部はほぼ平坦で、短軸断面の壁はやや外傾して中位まで立ち上がり、中位から開口部に向かって大きく外傾する。長軸端部はオーバーハングする。

＜土坑＞

【７号土坑】西側は一部調査区外へと延びている。平面形状は円形で、最大径約1.2m・深さ約0.7mである。底面は緩やかに窪み、壁はわずかにオーバーハングする。堆積状況から廃絶時に若干の埋め戻しがなされた後放置され、開口部の崩落を伴いながら自然に埋没したと推測する。

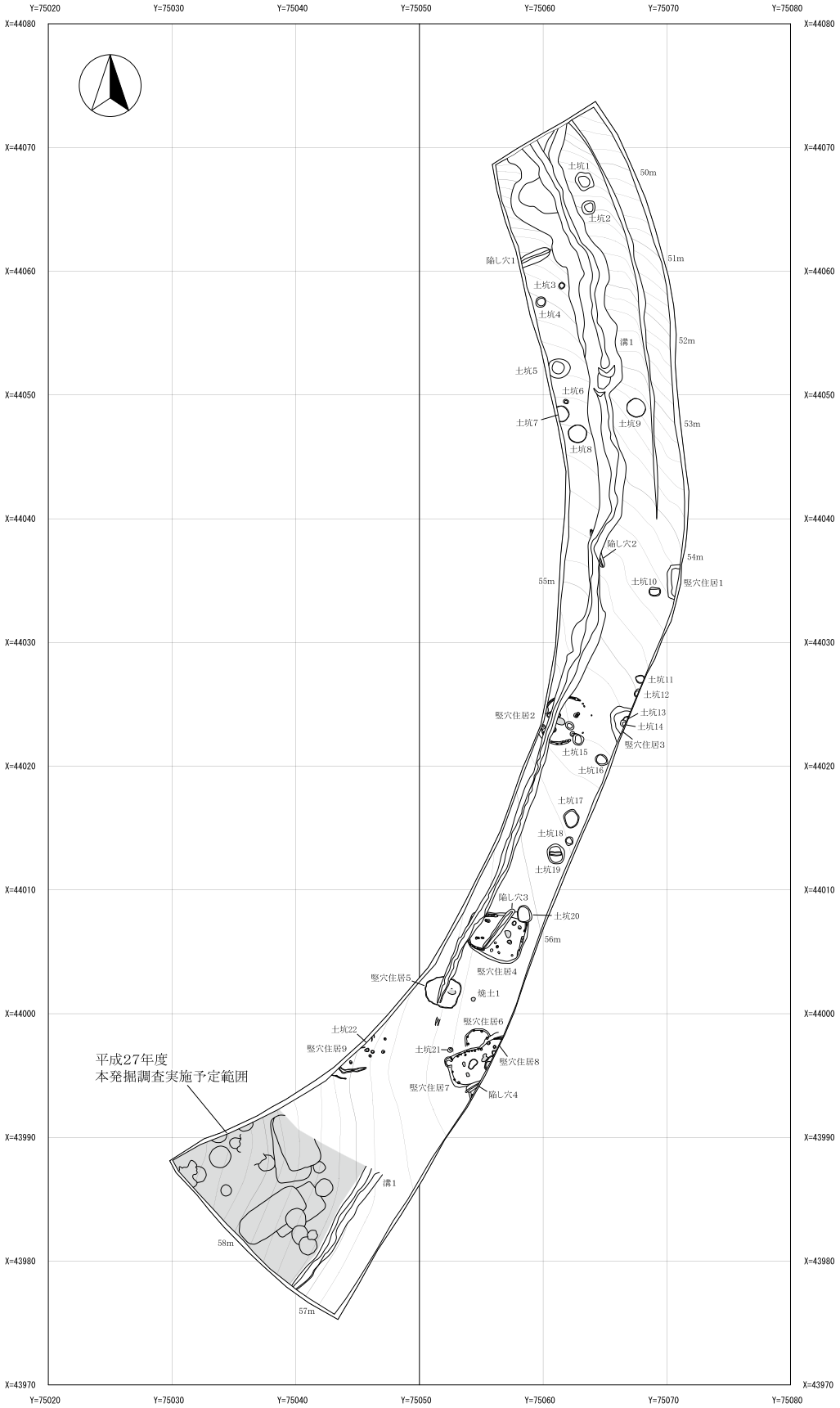
【８号土坑】平面形状は円形で、最大径約1.5m・深さ約0.4mである。底面は緩やかに窪み、壁はわずかにオーバーハングする。堆積状況から廃絶後放置され、開口部の崩落を伴いながら自然に埋没したと推測する。

【19号土坑】平面形状は楕円形で、長軸約1.6m・短軸約1.4m・深さ約0.4mである。底面は緩やかに窪み、壁は開口部に向かって緩やかに外傾する。底面中央には短軸方向に掘り込まれた溝を伴う。堆積状況から掘削後期間を置かずに掘り上げた土によって再び埋め戻されたと推測でき、土坑墓である可能性が高いと考える。

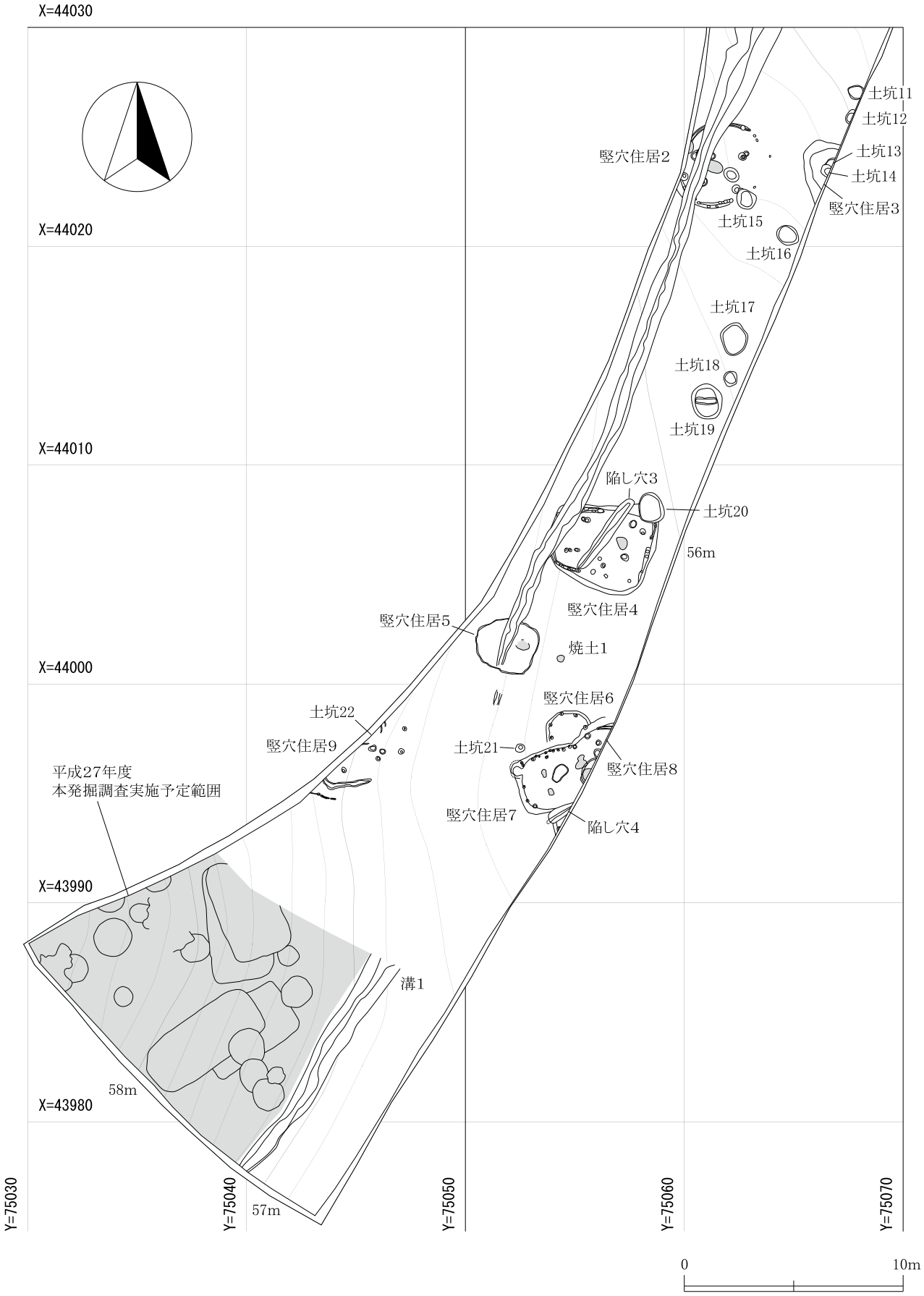
＜溝跡＞

【１号溝】南部で途切れる箇所もあるが､調査区全域で検出された。推定される全長は約101mである。北部では平面形状が一定していない。断面形は概ね底部の小さい逆台形状を呈する。一方、北部南側で急激に立ち上がる箇所以南では平面形状はほぼ定形化し、断面形も浅い皿状で推移する。

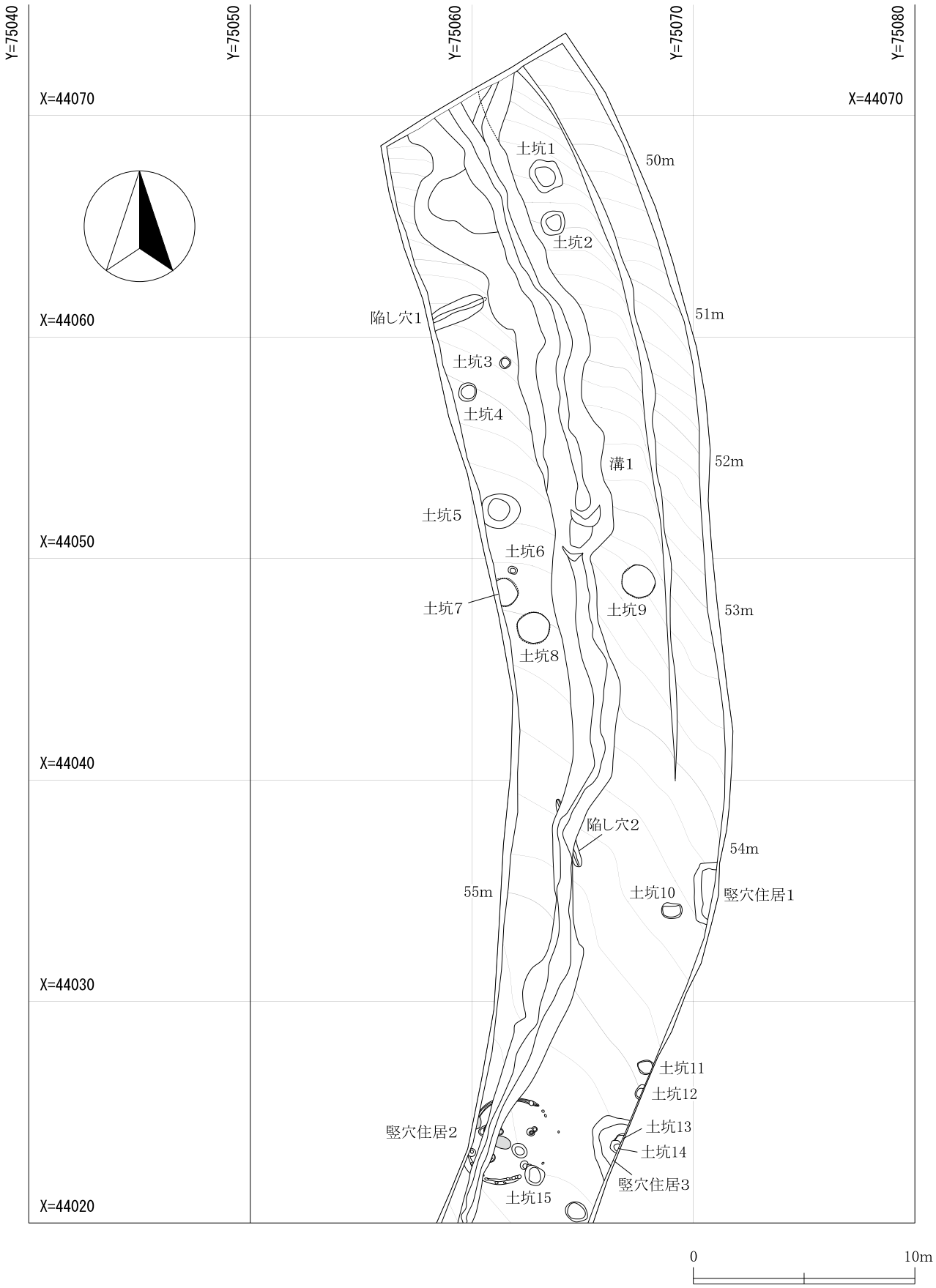
近世末～近代の陶磁器・銅銭が出土していることから、遺構の帰属時期もこの段階に求められる。


Y=75020
Y=75030
Y=75040
Y=75050
Y=75060
Y=75070
Y=75080
X=44080
X=44070
X=44060
X=44050
X=44040
X=44030
X=44020
X=44010
X=44000
X=43990
X=43980
X=43970
土坑1
土坑2
土坑3
土坑4
土坑5
土坑6
土坑7
土坑8
土坑9
土坑10
土坑11
土坑12
土坑13
土坑14
土坑15
土坑16
土坑17
土坑18
土坑19
土坑20
土坑21
土坑22
陥し穴1
陥し穴2
陥し穴3
陥し穴4
溝1
竪穴住居1
竪穴住居2
竪穴住居3
竪穴住居4
竪穴住居5
竪穴住居6
竪穴住居7
竪穴住居8
竪穴住居9
焼土1
50m
51m
52m
53m
54m
55m
56m
57m
58m
平成27年度
本発掘調査実施予定範囲

遺構配置図（全体図）


X=44030
X=44020
X=44010
X=44000
X=43990
X=43980
Y=75030
Y=75040
Y=75050
Y=75060
Y=75070
土坑11
土坑12
土坑13
土坑14
竪穴住居3
竪穴住居2
土坑15
土坑16
土坑17
土坑18
土坑19
陥し穴3
土坑20
56m
竪穴住居4
竪穴住居5
焼土1
竪穴住居6
土坑22
竪穴住居9
土坑21
竪穴住居8
平成27年度
本発掘調査実施予定範囲
竪穴住居7
陥し穴4
溝1
58m
57m
0
10m

遺構配置図（南側）


Y=75040
Y=75050
Y=75060
Y=75070
Y=75080
X=44070
X=44060
X=44050
X=44040
X=44030
X=44020
土坑1
土坑2
土坑3
土坑4
土坑5
土坑6
土坑7
土坑8
土坑9
土坑10
土坑11
土坑12
土坑13
土坑14
土坑15
陥し穴1
陥し穴2
溝1
竪穴住居1
竪穴住居2
竪穴住居3
50m
51m
52m
53m
54m
55m
0
10m

遺構配置図（北側）

調査区北側全景（南から）

調査区中央

調査区南側

１号竪穴住居跡

２号竪穴住居跡

３号竪穴住居跡

４号竪穴住居跡

５号竪穴住居跡

９号竪穴住居跡

６～８号竪穴住居跡

７号竪穴住居跡（カマド付近）

７号竪穴住居跡（遺物出土状況）

１号陥し穴

２号陥し穴

４号陥し穴

８号土坑　全景

９号土坑　全景

19号土坑　全景

21号土坑　遺物出土状況

１号溝跡　完掘全景

11　三陸沿岸道路（洋野階上道路）

黒坂遺跡

（IF89-1322：旧可能性あり1　工事用道路①-２）

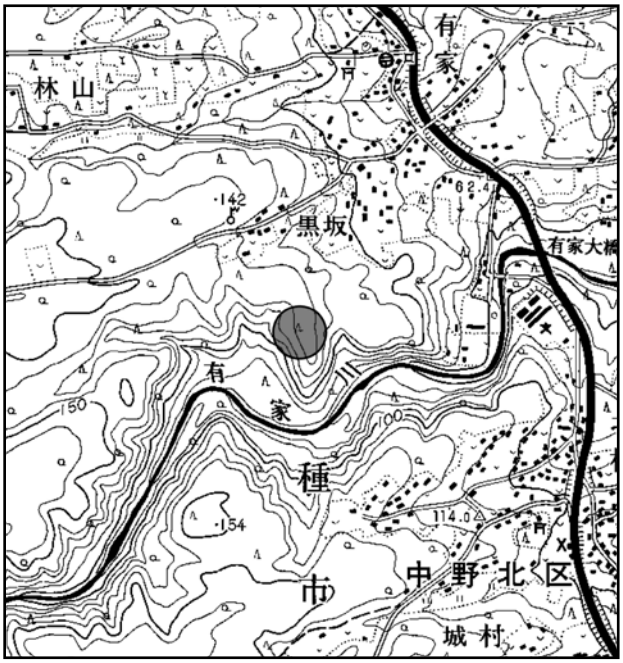
【所 在 地】　九戸郡洋野町有家第９地割字黒坂地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

【調査期日】　平成26年７月28日（月）～31日（木）

【調査面積】　145㎡

【調査結果】　調査地はＪＲ八戸線有家駅から南西へ約1.6㎞、有家川左岸の丘陵頂部付近にある緩斜面上に位置する。標高は123～130ｍであり、現況は山林である。北側約0.7㎞には、縄文時代中・後期の集落跡とみられる上のマッカ遺跡（IF89-0340）が位置する。



黒坂遺跡 位置図

三陸沿岸道路（階上～侍浜）建設に伴う工事用道路整備の照会を受け、平成26年5月22日に県生涯学習文化課が試掘調査を実施した結果、遺構が確認されたことから、遺構検出箇所周辺については発掘調査が必要と回答した。今回、立木伐採等の諸条件が整ったとの連絡を受け、平成26年7月28日～7月31日に発掘調査を実施することとなった。なお、本調査区隣接地の本線部分については、可能性あり46として試掘調査実施済みであり、遺構・遺物は確認されていない（平成24年10月26日付け教生第1326号で回答）。また、当該地北西約50mの地点については可能性あり１（工事用道路①）として試掘調査実施済み（平成26年3月18日付け教生第1785号で回答）であり、遺構・遺物が確認されている。

基本土層は下記の通りであるが、陥し穴１基が検出されたのみで、遺物は出土しなかった。

Ⅰ層　表土

Ⅱ層　黒褐色土

Ⅲ層　暗褐色土

Ⅳ層　黄褐色土

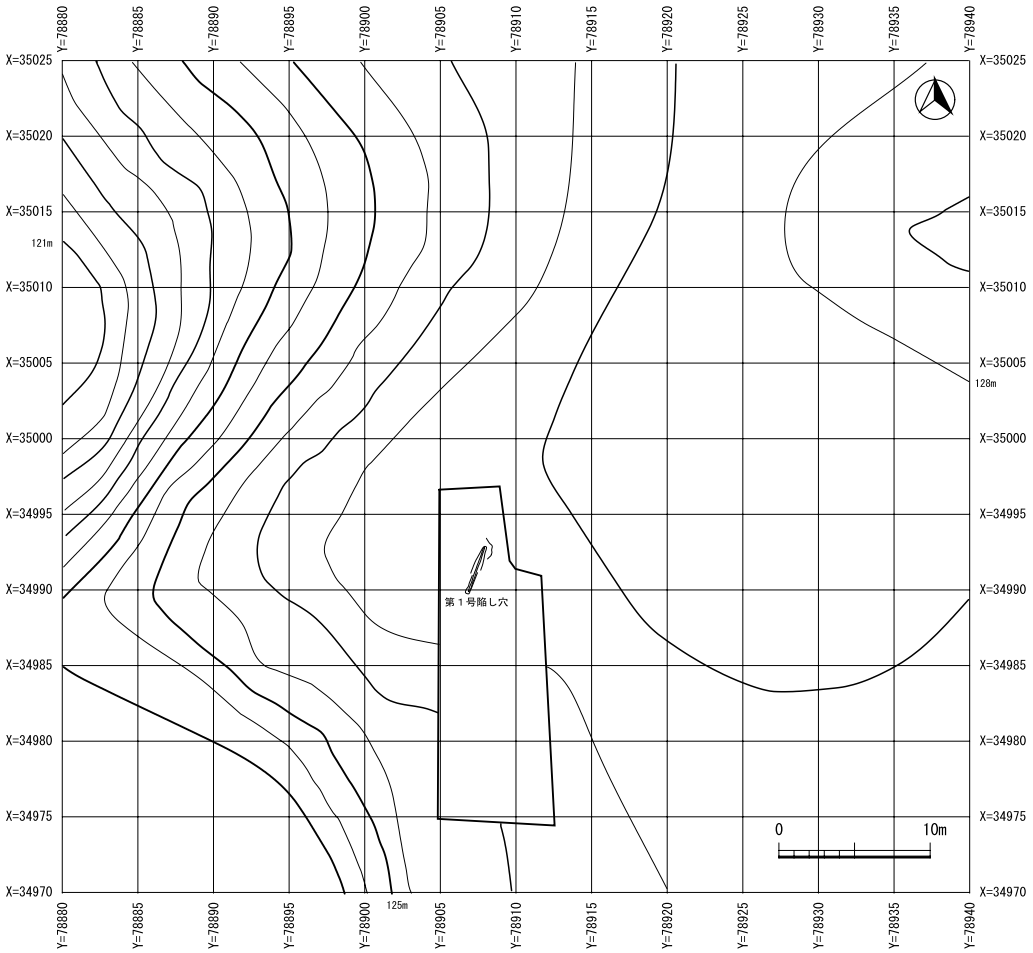
Ⅴ層　暗オリーブ灰ローム

Ⅵ層　暗赤褐色ローム（高館火山灰）

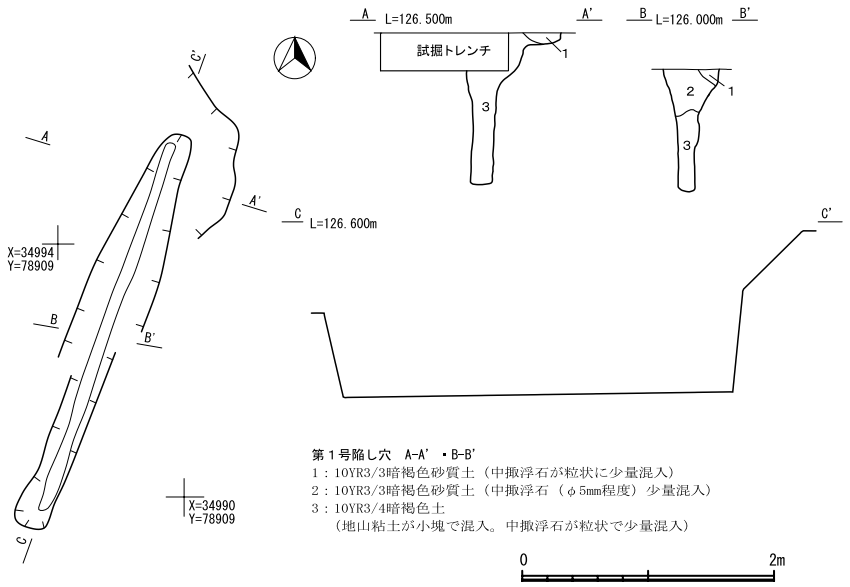
Ⅶ層　灰オリーブローム

＜第１号陥し穴（ＳＫ１）＞

調査区北部、X=34,989～34,993、Y=78,906～78,908に位置する。Ⅳ層上面で検出した。平面形はⅣ層上面では不明瞭であったが、Ⅳ層中層において溝状を呈することを確認した。規模は開口部で長軸336㎝、最大幅55㎝、底部で長軸307㎝、最大幅11㎝、検出面からの深さは98㎝を測る。長軸方向は北



遺構配置図



陥し穴　平面・断面図

西－南東である。長軸方向の断面形はほぼ垂直となり、短軸方向は上端でやや開き漏斗状を呈する。埋土は暗褐色砂質土を主体とし、十和田中掫火山灰が微量～少量混入する。底面は平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められなかった。形状・埋土から縄文時代の陥し穴と考えられる。

以上のことから、本調査区周辺は縄文時代の狩り場として機能していたと推定される。平成25年度に本調査区北側隣接地で実施された試掘調査において、縄文時代の竪穴住居跡や土器等が確認されていることから、集落の本体は本調査区北側に存在するものと推定される。

作業風景

基本土層

調査区全景（東から）

陥し穴　断面（Ａ－Ａ’）

陥し穴　断面（Ｂ－Ｂ’）

陥し穴　完掘

12　三陸沿岸道路（宮古～田老）

駿達（しゅんだつ）Ⅰ遺跡（KG99-0124：旧可能性あり１）

【所 在 地】　宮古市田老字駿達、滝の沢地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成26年９月29日（月）
　　～10月10日（金）

【調査面積】　330㎡

【調査結果】　調査地は三陸鉄道北リアス線田老駅より北北西約1.9㎞に所在し、国道45号線の東に隣接する。南西から派生する尾根の先端頂部に位置し、北側には東へ流れる沼先川が接している。現況は杉林であり平坦面は認められない斜面地である。今回の発掘調査は、平成26年３月の試掘調査により炭窯が確認されたことに伴う埋蔵文化財の記録保存を目的としたものである。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　表土　層厚10～15㎝（耕作土）

Ⅱ層　褐色土　層厚50～60㎝

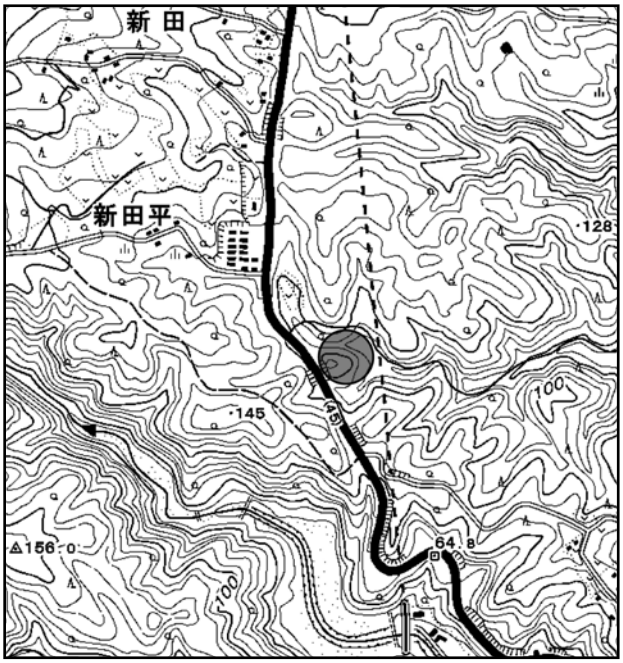
Ⅲ層　黄褐色粘質土　層厚不明（地山）

調査の結果、試掘調査で確認されていた炭窯１基を確認した。遺物は炭窯から離れた地点で近世陶磁器片が１点出土した。

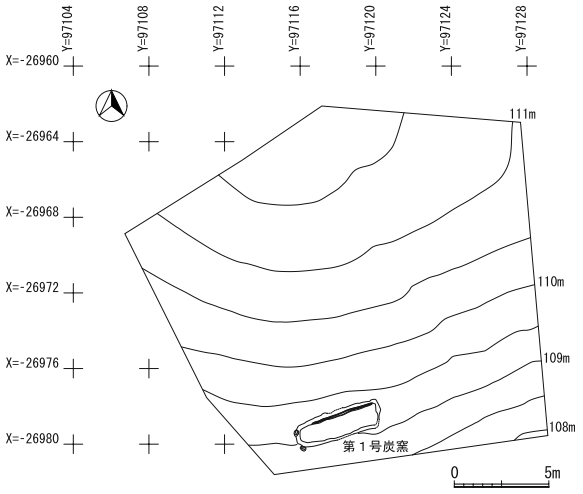
＜炭窯＞

調査区南西部で検出された、長軸約4.6m、短軸約1.4m、深さ約0.3m隅丸長方形を呈する。尾根頂部よりやや南へ下った斜面地で、炭窯より南は急斜面となり谷へ下る。

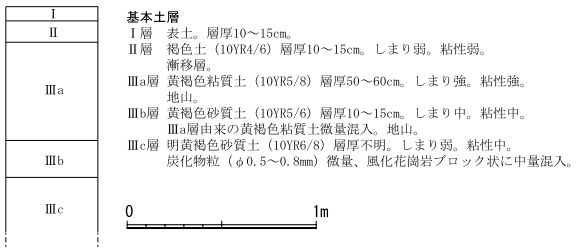
埋土には多くの炭片が含まれ、炭材の形状を残すものは東側床面付近で認められた。被熱痕跡は床面北東部でわずかに認められた。なお、床面北側には壁面に接して溝が設けられている。この炭窯に一部重複して、西側に径約0.25m、深さ約0.25mの小穴（ピット）が２基検出されており、位置関係から炭窯に伴うものと考えている。



駿達Ⅰ遺跡 位置図

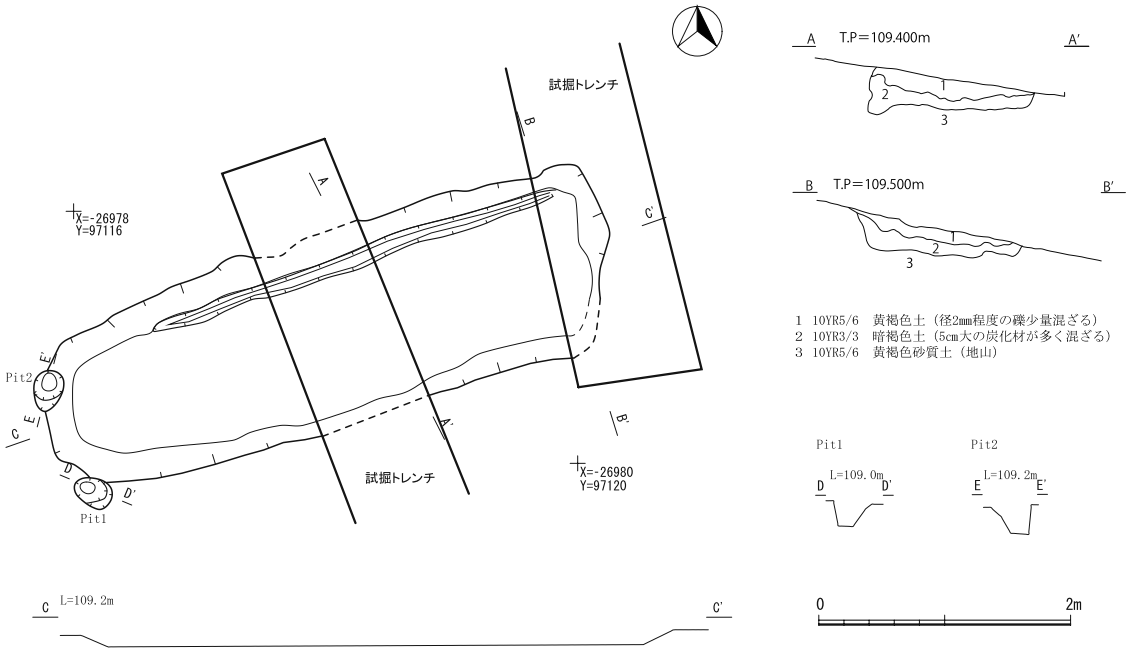


遺構配置図



基本土層図

おそらく、小穴（ピット）は窯の焚口部付近に設けられた簡易的な作業場を構成する柱跡と思われる。



遺構平面・断面図

調査風景

炭窯掘削状況

炭窯断面

完掘状況

13　三陸沿岸道路（宮古～田老）

牛沢（うしざわ）遺跡（LG23-1233）

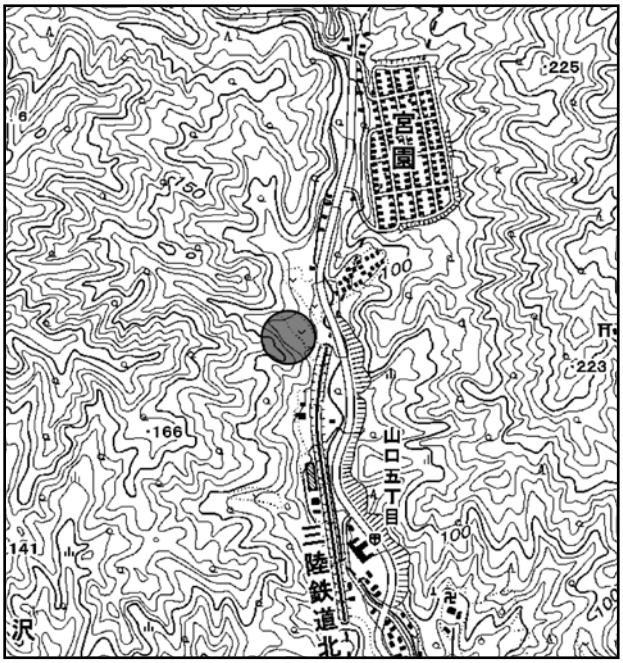
【所 在 地】　宮古市山口13地割牛沢２-１地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所

【調査期日】　平成26年４月21日（月）
　　～５月16日（金）

【調査面積】　780㎡

【調査結果】　調査地は、ＪＲ山田線宮古駅の北西約2.7㎞に位置する。周辺は黒森山山地に区分され、遺跡は閉伊川の支流、山口川右岸の樹枝状に延びる尾根の先端に形成された段丘上に立地する。遺跡の南側には山口川へと注ぐ無名の沢が流れ、急峻な崖となっている。



牛沢遺跡 位置図

平坦部は南北約80m、東西約60mの規模で、比高差はおよそ10mである。平成17年度には宮古市教育委員会による発掘調査が行われ、縄文時代中期大木９式期の竪穴住居跡６棟、大木８ｂ～９式期の土坑７基、縄文時代後期初頭の遺物包含層などが調査された。

今年度の発掘調査は、平成17年度調査区と同一面の南側沢沿い、及び上面の平坦面へと続く斜面の780㎡について実施した。

基本層序は以下の通りである。

Ⅰ層　黒褐色土　（10YR2/3）やや柔らかい　風化花崗岩片（φ1㎜）7%、耕作土層

Ⅱ層　黒色土　　（10YR1.7/1）締まり有り　有機質に富む

Ⅲ層　黒褐色土　（10YR2/3）締まり有り　十和田-中掫火山灰（To-Cu）ブロック（φ2㎝）20%

Ⅳ層　黒色土　　（10YR2/1）締まり有り　風化花崗岩片（～φ1㎜～）7%

Ⅴ層　暗褐色土　（10YR3/4）締まり有り　風化花崗岩片（～φ1㎜～）10%、縄文早期の遺物包含層

Ⅵ層　褐色土　　（10YR4/6）締まり有り　花崗岩巨礫（φ20㎝～）を部分的に含む

Ⅲ層以外は調査区のほぼ全面に均質に堆積していたが、Ⅲ層、特にTo-Cuブロックの密度は場所によって異なっており、遺構配置図中の網掛けの付近に集中しており、北東から調査区南側の沢へと続く浅い沢があったと考えられる。Ⅱ層から縄文時代中期、Ⅴ層から早期の遺物が出土したが、前期については表採が主体であった。縄文時代中期の遺物はSI01・02付近と前述の網掛けの範囲を中心に、早期は調査区北側の斜面際で出土した。

遺構は、縄文時代中期後半の竪穴住居跡２棟（SI01・02）、縄文時代早期の包含層、土坑５基（SK01～05）が確認された。

竪穴住居跡２棟は重複しており、SI02はSI01より古い住居跡である。規模は調査区内で、南北2.5m、

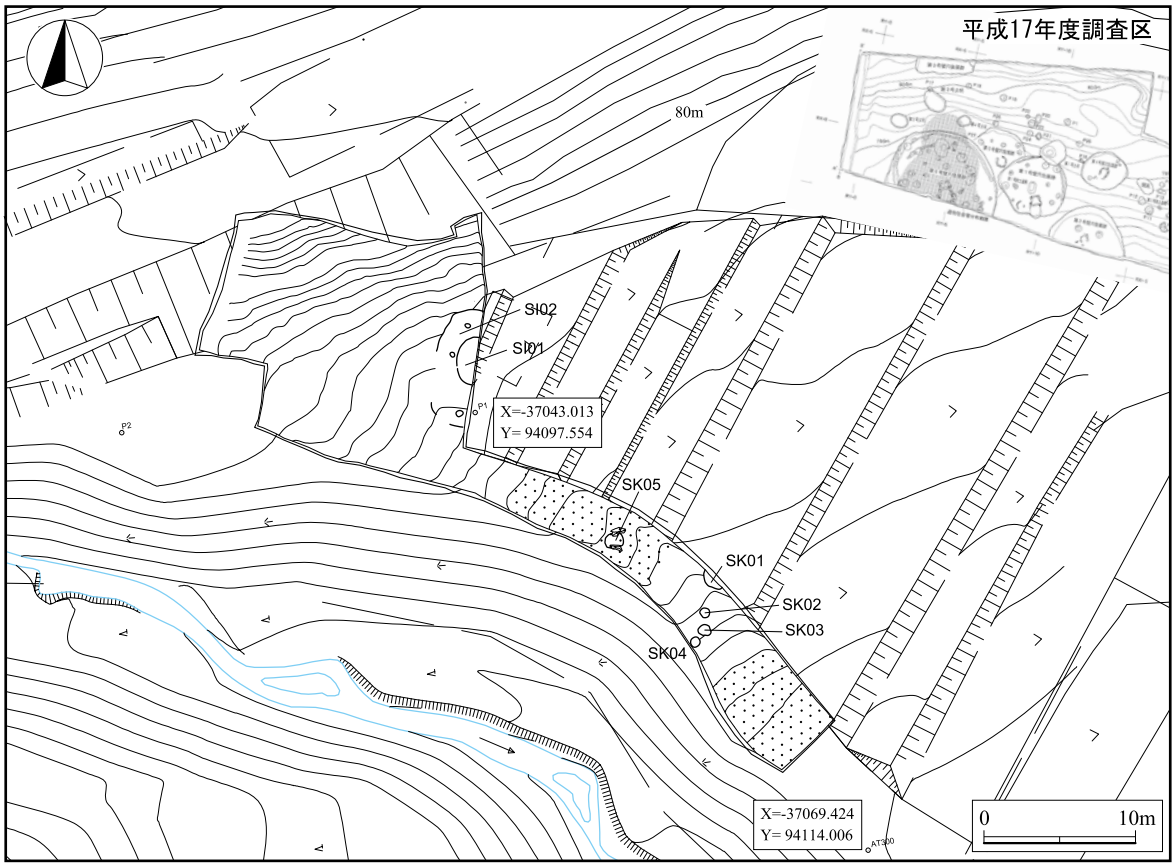
東西1.1m、深さ0.2mであった。覆土中には焼土、木炭を主体とする層（３層）があり、木炭が平面で放射状に見える部分もあったことから、火災にあった住居であると考えられる。柱穴や壁溝は検出されなかった。出土遺物は少ないが、縄文時代中期後半の土器片が出土した。

SI01は、SI02の埋没後に構築されていた。規模は調査区内で、南北6.1m、東西2.1m、深さ0.5mであった。平面形は楕円ないし倒卵形で、全体のほぼ半分が調査区外にあるものと考えられる。Ｖ層中からは土器が集中して出土しており、また焼土層もみられることから、竪穴住居埋没中の窪地利用があったと考えられる。床面からは柱穴、壁溝が検出された。主柱穴はＰ１～２・５と考えられるが、Ｐ２とＰ５の間が広いことからＰ１－Ｐ５-（未検出）－Ｐ２の配置が考えられる。出土遺物から縄文時代中期後半と考えられる。

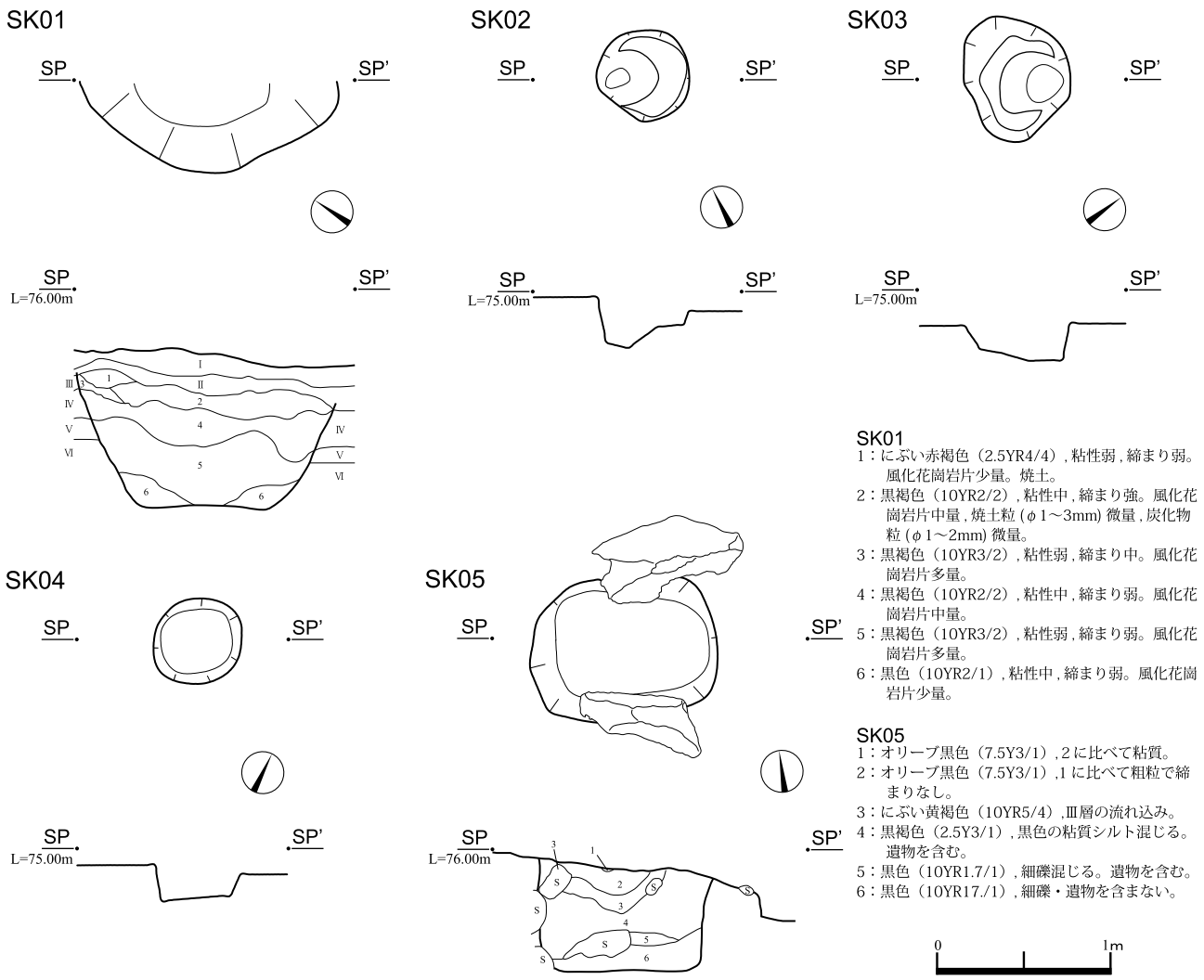
SI02の北側のＶ層中から縄文時代早期の土器が集中して出土したが、遺構は確認できなかった。また、同じくＶ層中からは磨石が出土した。

SK01は、大半は調査範囲外であった。調査区内で直径1.23m、深さ0.7mであった。覆土中から縄文時代中期大木９式土器の小破片が出土したことから、縄文時代中期後半の遺構と考えられる。SK02は、径0.5mの不整円形で、深さは確認面から0.25mであった。SK03　は長径0.7m、短径0.6mの不整円形で、深さは確認面から0.22mであった。SK04は径0.5mの不整円形で、確認面からの深さは0.2mであった。SK02からSK04では遺物は検出されなかったが、周辺の出土遺物からSK01・03と同様に中期後半と考えられる。

SK05は、長軸1.0m、短軸0.7mの隅丸方形で深さは0.6mであった。壁際からは平坦面をもつ花崗岩礫



遺構配置図

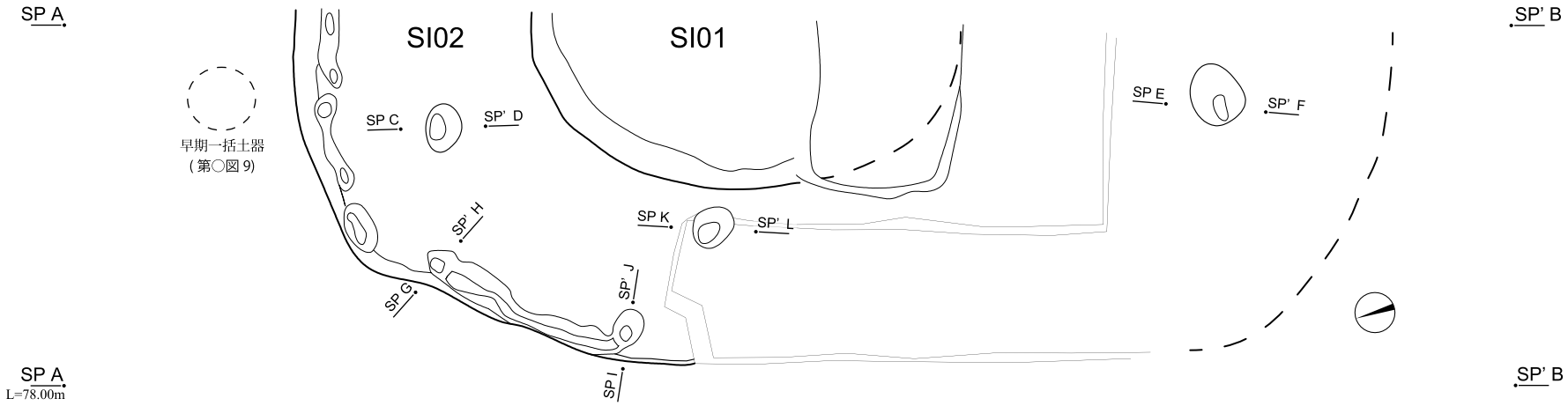


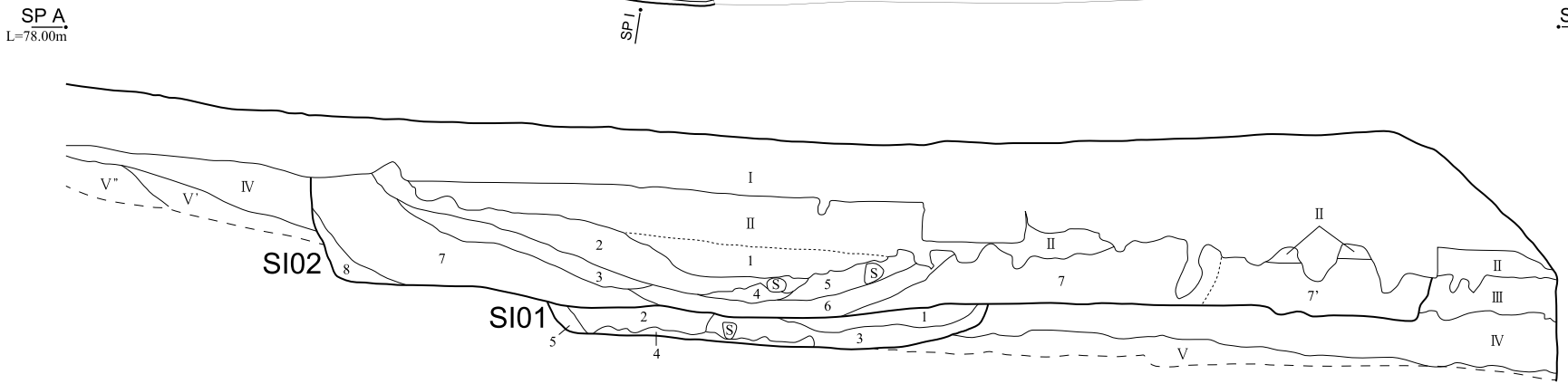
SK01～05　遺構平面・断面図

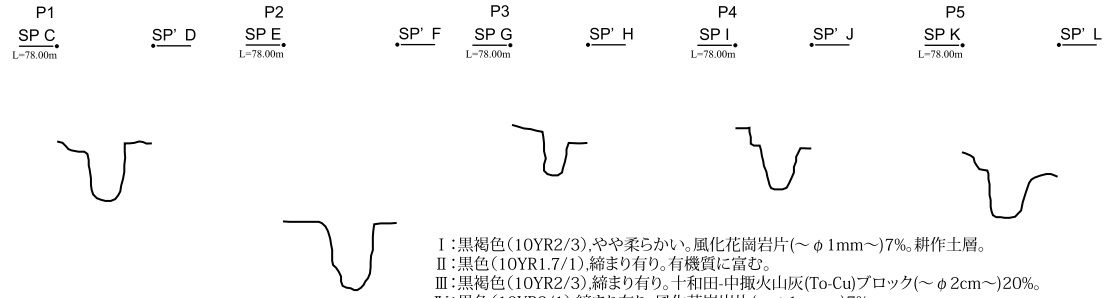
が出土した。SK05付近を中心にⅤ層中にも花崗岩が含まれており、人為的に土坑内に配置したものであるかは判然としなかった。覆土上面には焼土と炭化物を含んだ層（１層）が確認できた。遺物は覆土上層から下層まで偏りなく出土した。出土遺物から縄文時代中期末以降の遺構と考えられる。

出土遺物は縄文時代早期～中期であった。遺物№１はSI02の５層と６層の境界付近、№２はSI01、№３・４はSK05、№５～７・11は表採、№８・13はⅡ層出土、№９・10・12はⅤ層出土である。№9は10号袋１個分ほどの破片があったが接合しなかったため、口縁部と底部の破片のみ掲載した。

今年度の調査で検出された遺構はいずれも平成17年度調査で検出された竪穴住居群とほぼ同時期の縄文時代中期後半と考えられる。地形からもそれ以上奥へは集落が展開し得ないことから、中期後半の集落の西南端付近を調査したと考えられる。いずれの竪穴住居も等高線にほぼ直行した長軸をもち、炉が検出されたものについては斜面の低い方に炉が寄るという共通性が認められる。狭小な段丘上での空間利用を考える上では興味深い資料であろう。縄文時代早期・前期については平成17年度調査では報告されておらず、当該調査でも少数の出土であることから、評価は困難であった。







Ⅰ:黒褐色(10YR2/3),やや柔らかい。風化花崗岩片(～φ1mm～)7%。耕作土層。
Ⅱ:黒色(10YR1.7/1),締まり有り。有機質に富む。
Ⅲ:黒褐色(10YR2/3),締まり有り。十和田-中掫火山灰(To-Cu)ブロック(～φ2cm～)20%。
Ⅳ:黒色(10YR2/1),締まり有り。風化花崗岩片(～φ1mm～)7%。
Ⅴ:暗褐色(10YR3/4),締まり有り。風化花崗岩片(～φ1mm～)10%。
Ⅴ':黒褐色(10YR2/3),締まり有り。風化花崗岩片(～φ1mm～)5%。調査区北側斜面に点在,縄文時代早期の遺物包含層。
Ⅴ":暗褐色(10YR3/3),締まり有り。風化花崗岩片(～φ1mm～)3%。調査区北側斜面に点在。
Ⅵ:褐色(10YR4/6),締まり有り。花崗岩巨礫(～φ20cm～)を部分的に含む。

SI01

1:黒色(10YR2/1),締まり有り。Ⅳ層に似るが木炭(～φ1cm～)を僅かに含む。
2:黒色(10YR2/1),締まり有り。1層に比べて暗色。
3:黒色(10YR2/1),締まり有り。木炭(～φ1cm～)を含む。木炭は4層との境界付近に集中。平面では放射状に見える部分も。焼土粒(～φ1mm～)1%。
4:褐色(10YR4/6),締まり有り。Ⅵ層ブロックから成る。
5:暗褐色(10YR4/3),締まり有り。4層に似るが、やや暗色で安定している。

SI02

1:黒色(10YR1.7/1),やや締まり有り。Ⅱ層と実質同一層だが、やや明色の砂質土ブロック(～φ2cm～)を含む。
2:黒色(10YR2/1),締まり有り。木炭(～φ1cm～)1%。
3:黒色(10YR2/1),締まり有り。1～7層に比べてやや明色。
4:焼土層
5:黒色(10YR2/1),締まり有り。6層との境界付近に一括土器。
6:黒色(10YR1.7/1),締まり有り。木炭(～φ2cm)を多く含む。
7:黒色(10YR2/1),締まり有り。
7':黒色(10YR2/1),7層に比べやや明色で風化花崗岩片が少ない。
8:黒褐色(10YR2/2),締まり有り。

0 1m

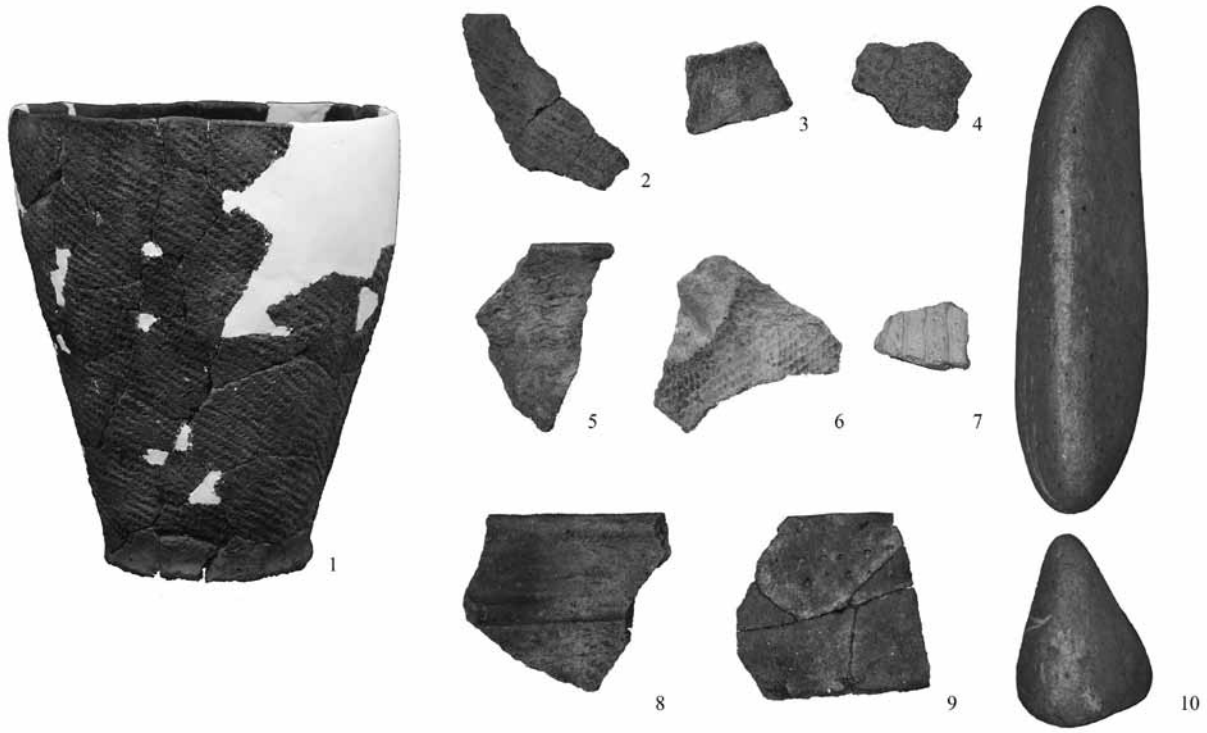
S101・02 遺構平面・断面図

調査区近景

SI01・02　完掘状況

SK05　完掘状況

調査区完掘状況



出土遺物

14　三陸沿岸道路（吉浜～釜石）

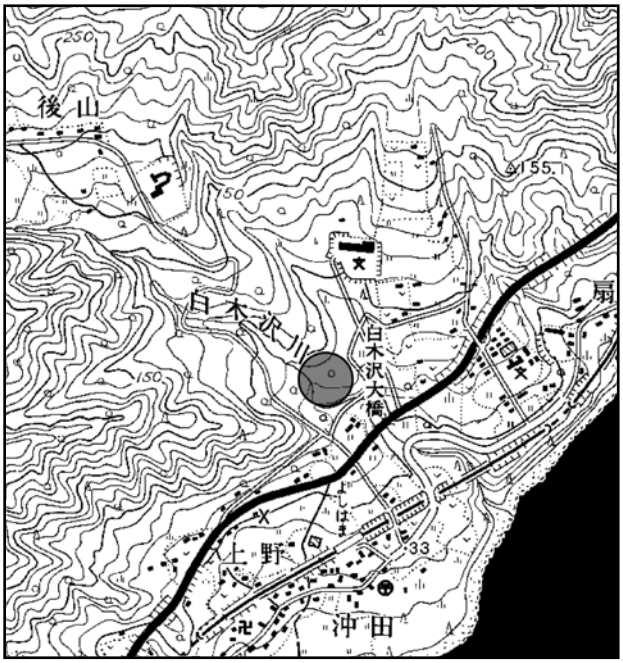
扇洞（おうぎほら）遺跡（MG11-0269：旧可能性あり）

【所 在 地】　大船渡市三陸町吉浜字扇洞地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　南三陸国道事務所

【調査期日】　平成26年10月14日（火）
　　～11月28日（金）

【調査面積】　145㎡



扇洞遺跡 位置図

【調査結果】　調査地は、大船渡市と釜石市の市境に近い、旧三陸町吉浜字扇洞にあり、三陸鉄道南リアス線吉浜駅から、国道45号線を挟んで、ほぼ真北に660m離れた位置にある。地形は中起伏山地の裾野で南向きの緩斜面となっている。標高は70～73mで、遺跡の南西側を白木沢川が東流し、調査地南側は急勾配となって落ち込む。また、北東側は後背の山地から続くやせ尾根が形成されており、遺跡を囲む地形になっている。

基本層序は以下の通りである。

Ⅰ層　表土　　層厚20cm（腐植土）

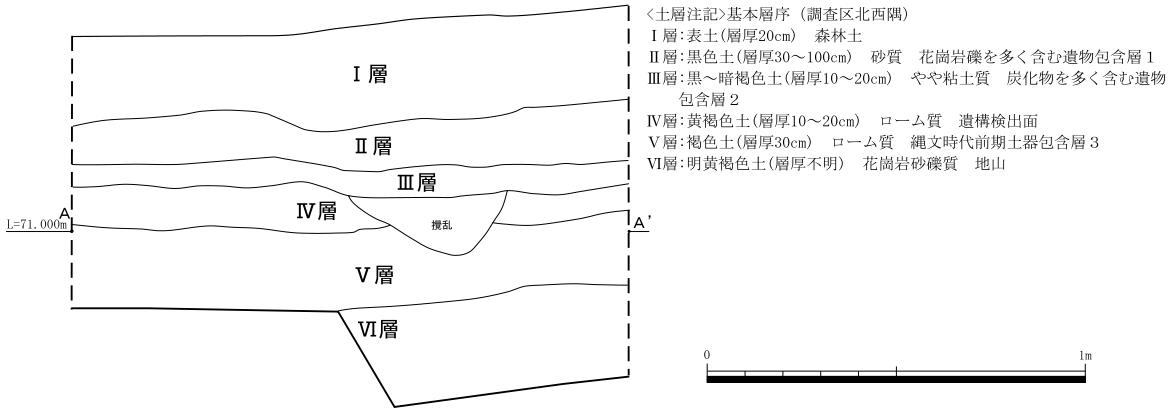
Ⅱ層　黒色土　　層厚30～100cm（砂質。花崗岩礫を多く含む遺物包含層１）

Ⅲ層　黒褐色土　　層厚10～20cm（やや粘土質。炭化物を多く含む遺物包含層２）

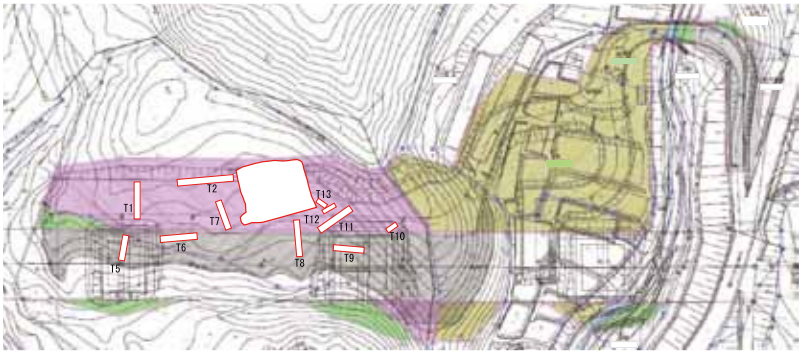
Ⅳ層　黄褐色土　　層厚10～20cm（ローム質。遺構検出面）

Ⅴ層　褐色土　　層厚０～30cm（ローム質。縄文前期土器包含層３）

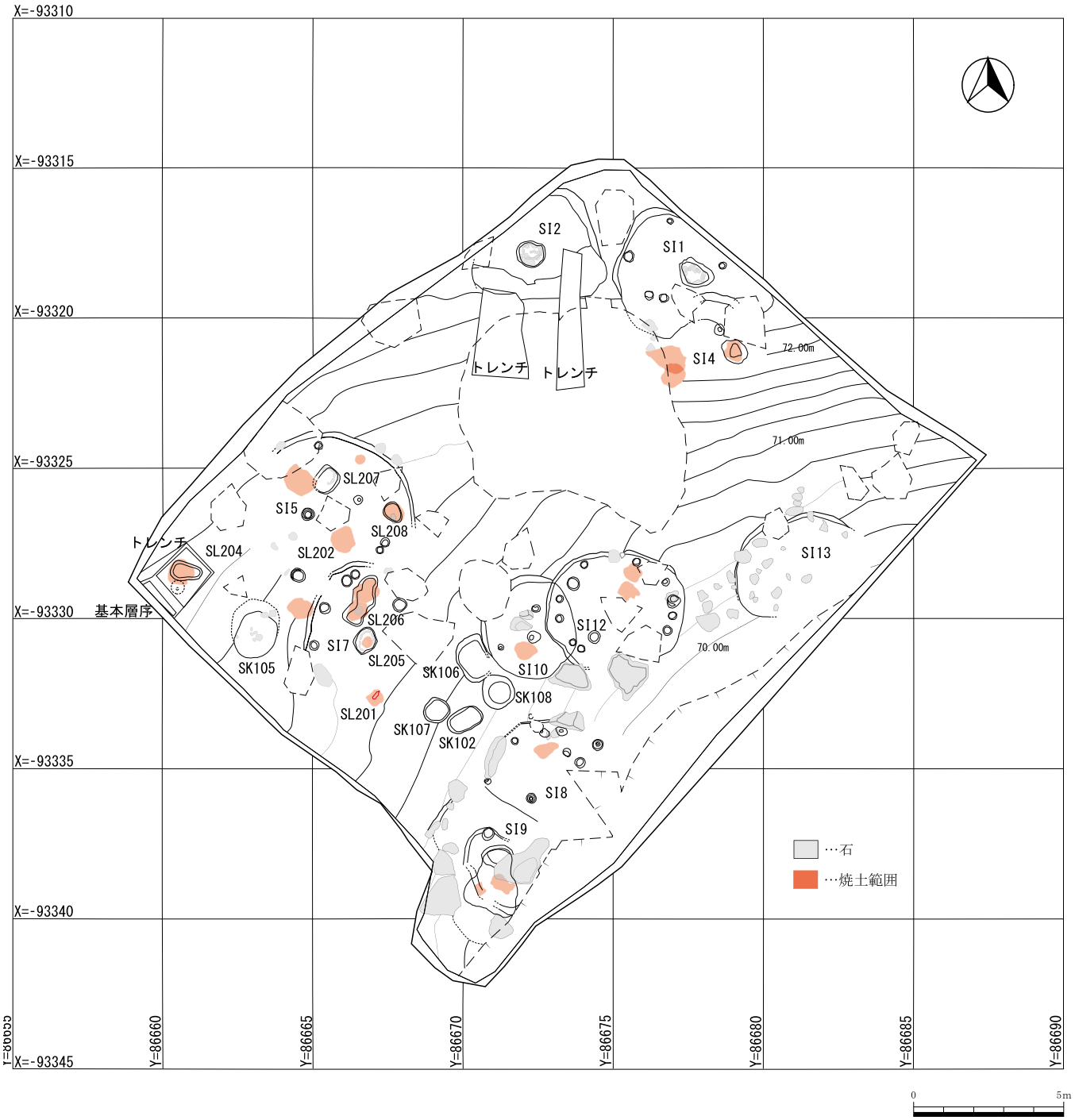
Ⅵ層　明黄褐色土　層厚不明（花崗岩砂礫質。地山）



基本土層図

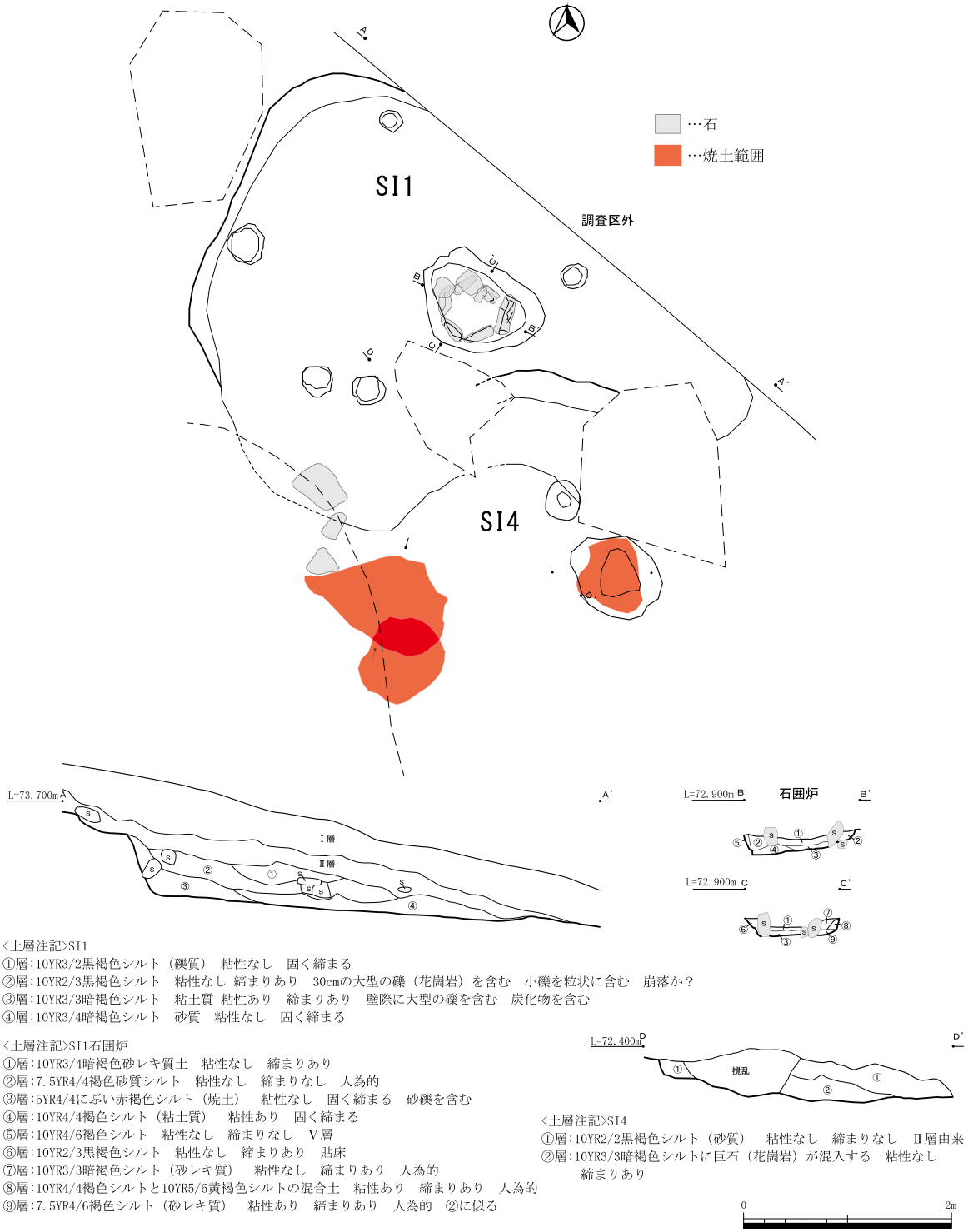

T1
T2
T5
T6
T7
T8
T9
T10
T11
T12
T13

遺跡位置図


X=-93310
X=-93315
X=-93320
X=-93325
X=-93330
X=-93335
X=-93340
X=-93345
Y=86660
Y=86665
Y=86670
Y=86675
Y=86680
Y=86685
Y=86690
SI2
SI1
SI4
SI5
SI7
SI8
SI9
SI10
SI12
SI13
SL207
SL208
SL204
SL202
SL206
SL205
SL201
SK105
SK106
SK107
SK102
SK108
トレンチ
トレンチ
トレンチ
基本層序
72.00m
71.00m
70.00m
…石
…焼土範囲
0
5m

遺構配置図

事業区内での試掘調査は９箇所にトレンチを設定して実施した。結果、Ｔ１・２・５～９の区域は調査不要となり、対象は1,000㎡である。北東側の尾根上から急斜面は、改めてトレンチ（Ｔ10～13）を設定して調査した結果、遺構・遺物とも検出されなかった。本調査は、中央部緩斜面の406㎡である。調査の結果､竪穴住居跡（住居状を含む）９棟､土坑５基､焼土・炉跡８基（住居内を含める）を検出した。遺物は、土器・土製品が大コンテナで10箱、石器は中コンテナで１箱出土している。その他で製鉄関連遺物が少量出土している。

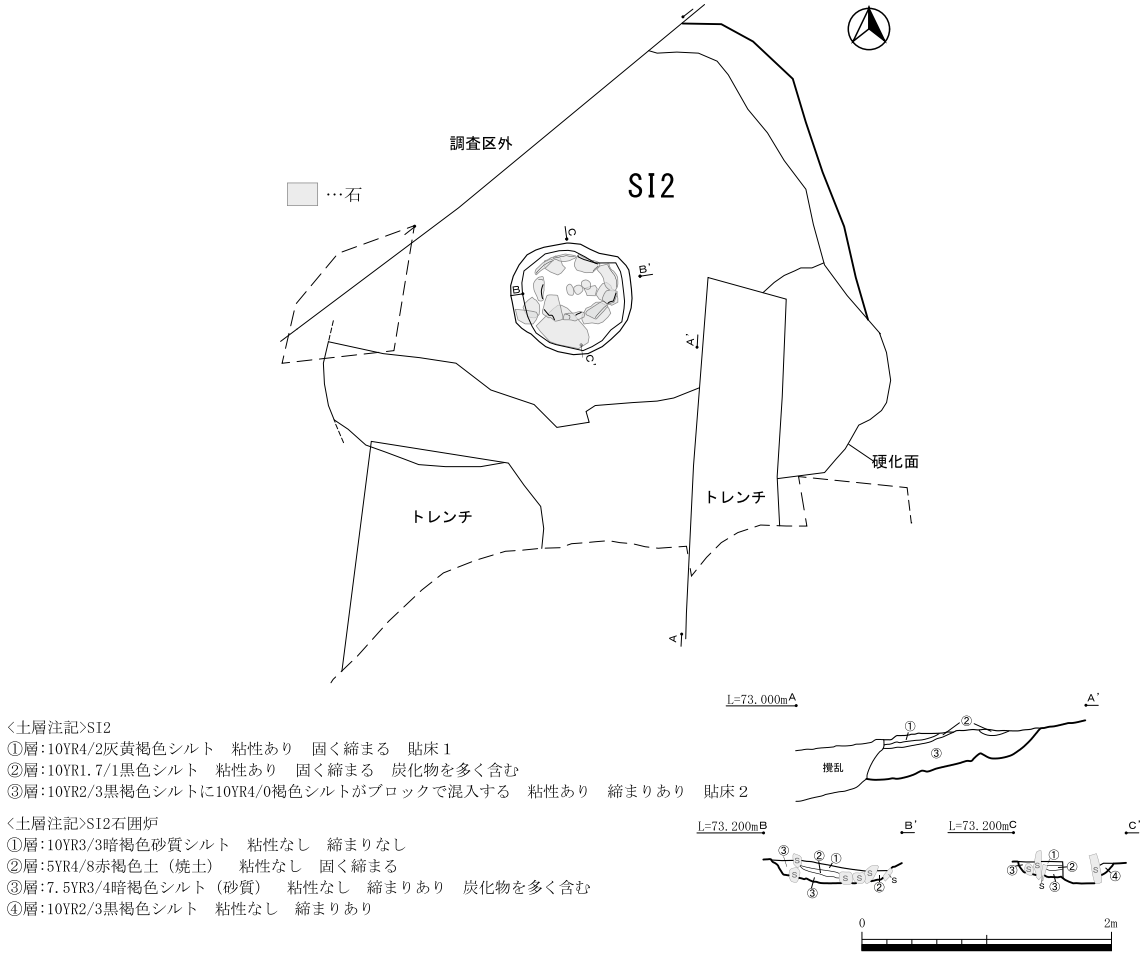


<土層注記>SI1
①層:10YR3/2黒褐色シルト（礫質）　粘性なし　固く締まる
②層:10YR2/3黒褐色シルト　粘性なし 締まりあり　30cmの大型の礫（花崗岩）を含む　小礫を粒状に含む　崩落か？
③層:10YR3/3暗褐色シルト　粘土質 粘性あり　締まりあり　壁際に大型の礫を含む　炭化物を含む
④層:10YR3/4暗褐色シルト　砂質　粘性なし　固く締まる

<土層注記>SI1石囲炉
①層:10YR3/4暗褐色砂レキ質土　粘性なし　締まりあり
②層:7.5YR4/4褐色砂質シルト　粘性なし　締まりなし　人為的
③層:5YR4/4にぶい赤褐色シルト（焼土）　粘性なし　固く締まる　砂礫を含む
④層:10YR4/4褐色シルト（粘土質）　粘性あり　固く締まる
⑤層:10YR4/6褐色シルト　粘性なし　締まりなし　Ⅴ層
⑥層:10YR2/3黒褐色シルト　粘性なし　締まりあり　貼床
⑦層:10YR3/3暗褐色シルト（砂レキ質）　粘性なし　締まりあり　人為的
⑧層:10YR4/4褐色シルトと10YR5/6黄褐色シルトの混合土　粘性あり　締まりあり　人為的
⑨層:7.5YR4/6褐色シルト（砂レキ質）　粘性あり　締まりあり　人為的　②に似る

<土層注記>SI4
①層:10YR2/2黒褐色シルト（砂質）　粘性なし　締まりなし　Ⅱ層由来
②層:10YR3/3暗褐色シルトに巨石（花崗岩）が混入する　粘性なし
締まりあり

ＳＩ１・４遺構平面・土層断面図



ＳＩ２　遺構平面・土層断面図

＜ＳＩ１竪穴住居跡＞調査区北部斜面で検出した。北側は斜面を掘削して壁を構築している。南側は検出できなかった。北壁の比高は最大で90cmを測る。平面形は隅丸長方形もしくは楕円形で、主軸方位は北西－南東に傾き、規模は500×350cm前後と推測する。床面中央部に石囲炉があり、平面形は楕円形で、竪穴主軸方位に平行する。掘り方は長軸116cm、短軸86cmを測る。30×20cm前後の平板礫６個で構成されている。焼土は硬く締まるが、埋土が厚く、廃絶の可能性がある。柱穴状土坑は５基検出したが、配置は不明確である。遺物は、炉脇床面から壺（遺物№1）が出土している。

＜ＳＩ２竪穴住居跡＞調査区北部斜面で検出した。ＳＩ１と東側で隣接する。ＳＩ１同様に南側は不明である。北東壁の比高は最大で98cmを測る。平面形は円形と推測するが、やや角張る（方形状）印象をもつ。規模は北東－南西壁下径で420cmを測る。床面中央部に石囲炉が検出され、平面形は略円形で、掘り方規模は開口部径87cmである。焼土は硬く締まる。焼土上部中心部に３個の小型礫が置かれており、廃絶の儀式的な様相を持つ。南側床面は急斜面を黒色土で覆う貼床となり、硬化面が認められる。柱穴は検出していない。高坏（№2・3）を含め、0.91kgの土器が出土している。

＜ＳＫＩ４竪穴住居状遺構＞ＳＩ１床面下（貼床黒色土下）から検出した。北側壁はなだらかに立ち上がり、比高は最大で32cmを測る。平面形は円形状と思われるが規模は不明である。炭化物集中区２基と柱穴状小

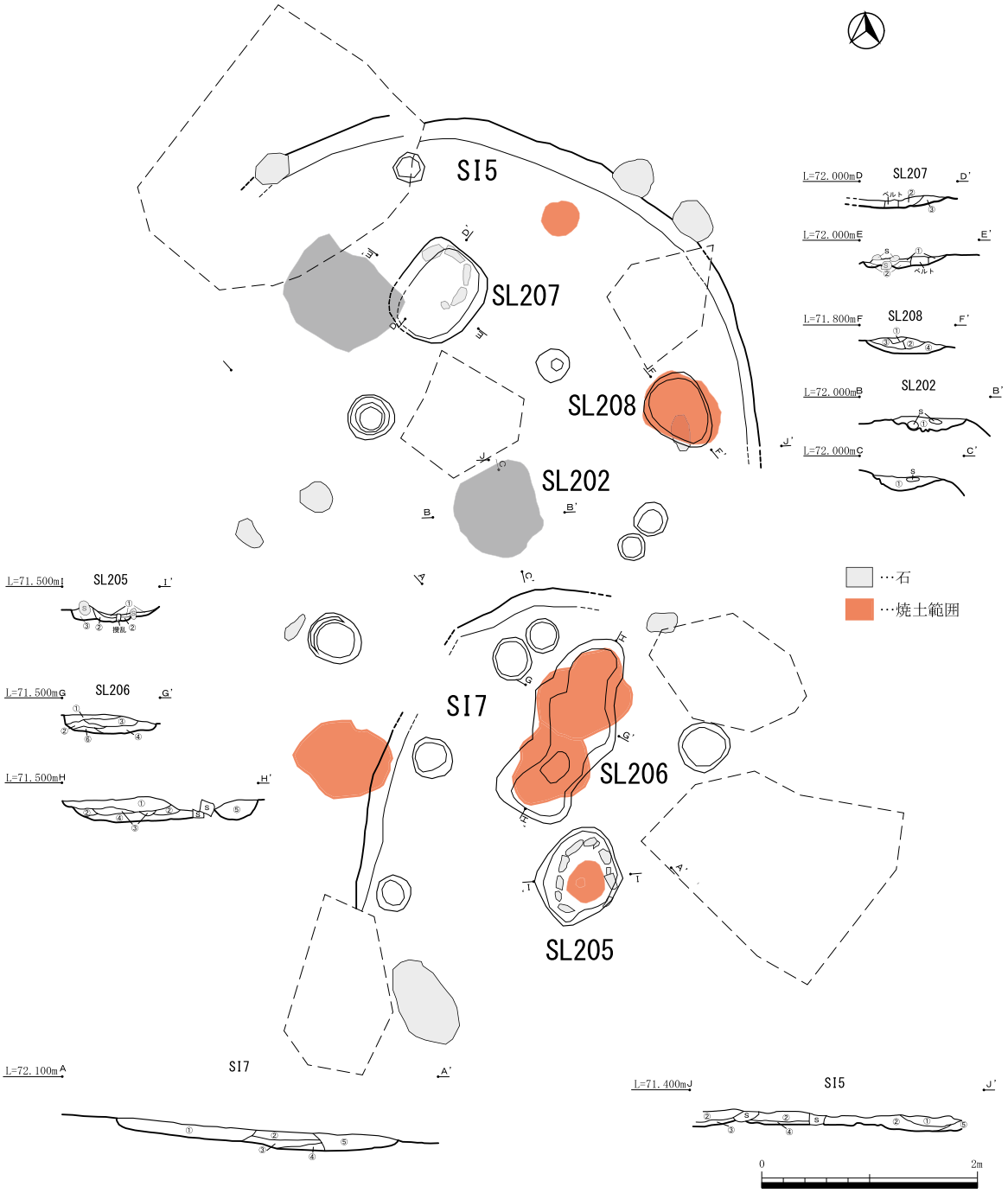
土坑を検出した。鉢の口縁（№４）や粗製土器（0.07kg）が出土している。

＜ＳＩ５竪穴住居跡・ＳＬ202地床炉・ＳＬ203焼土・ＳＬ207石囲炉・ＳＬ208焼土＞西部平坦面で検出した。南側でＳＩ７と重複する。Ⅱ層黒色土直下の遺構で、基本層Ⅲ層面を床面としている可能性が高い。山側で一部壁が残り、比高は21cmを測るが、他の壁は失われている。平面形は楕円形で、主軸方位は北北西に若干傾くと考えられるが、判然としない。規模は720×560cm前後と推定される。柱穴状土坑は６基検出した。Ｐ１の規模は43×40cmで、深さは46cmを測る。想定床面範囲内に地床炉（ＳＬ202）と石囲炉（ＳＬ207）や焼土（ＳＬ208）を検出した。ＳＬ202は床面中央部にあり、地床炉と推定する。平面形は略円形を呈し、規模は82×76cmと大型である。焼土は厚く硬く締まり、小型の花崗岩礫を含む。ＳＬ207は床面の北側で検出された。平面形は楕円形で、掘り方規模は88×73cmである。平面形・規模や構成礫はＳＬ205と類似する。ＳＬ203・ＳＬ208は焼成が悪く締まりがない。遺物は調査区の中では最も多く、土器は12. 82kg出土している。原体の小さな縄文を施文する、薄手の深鉢の破片や、沈線の巡る鉢形土器が多い。床面から出土の甕（№６・７）のほか､11点（№５～17）を掲載している。石器は､礫石器（№98）が出土している。

＜ＳＩ７竪穴住居跡・ＳＬ201焼土・ＳＬ205石囲炉・ＳＬ206焼土＞西部平坦面で検出した。北側でＳＩ５と重複する。埋土は、上位がＳＩ５床下（貼床か）となる人為的堆積層で、下位に黒褐色土（自然堆積か）を確認している。検出した北西壁の比高は18cmで、直線的であることから、平面形は楕円形で、規模は長軸で500cm前後と推測する。柱穴状土坑は５基検出した。Ｐ２の規模は38×34cmで､深さは16cmを測る。これらの柱穴はＳＩ５に関連する可能性もある。また、床面に１基の石囲炉（ＳＬ205）と２基の焼土（ＳＬ201・206）を検出した。ＳＬ205の平面形は楕円形でやや北東－南西に傾く。掘り方開口部径は91×71cmである。平面形・規模・構成礫はＳＬ207に似る。ＳＬ201は微細焼土と炭化物が広がる。ＳＬ206は、規模も大きく硬く締まる。8.92kgの土器が出土している。７点（№18～23）の土器と３点の石器（№96・99・100）を掲載した。

＜ＳＩ８竪穴住居跡＞南部斜面で検出した。巨石（径２ｍ前後）が多い区域で、その巨石の合間の空間を利用しているような住居跡である。南側でＳＩ９と重複し、切り合いの状況から、ＳＩ９より新しい遺構と判断した。平面形は、巨石を壁に利用していると判断し、隅丸の長方形と推定している。主軸は西北西―東南東に傾く。規模は短軸で300cmを測り､長軸は350cm前後と推定する。床面の北西側はテラス状に高まる。床面北側に炭化物集中１基、柱穴は６基検出した。9.92kgの土器が出土しており、そのうち壁際に一括土器を２個体（№32・36）確認している。№36は、正立で出土した埋設土器と思われるもので、その横には礫が置かれており、礫下に№32が検出されている。全体的に薄手の土器が多いが、赤色の無文壺（№37）は厚みがあり大型である。その他、先行して実施された試掘出土土器を含めて13点（№25～37）掲載した。№33の浅鉢と36・37の壺､104の土製品（粘土塊）は､ほぼ同じ場所から出土している。石器は石鏃２点（№91・92）が出土している。

＜ＳＩ９竪穴住居跡＞南部斜面で検出した。東側でＳＩ８に切られる。平面形は遺構の南西側に突きでる巨石を範囲とする楕円形で、南側は撹乱で喪失している。主軸方位は北北西－南南東に傾き、規模は、長軸550cm、短軸400cm前後と推定する。



<土層注記>SI5
①層:10YR3/4暗褐色シルト　粘性あり　締まりあり
②層:10YR2/1黒色シルト　粘性ややあり　締まりあり　炭化物を含む
③層:10YR2/3黒褐色シルト　粘性なし　締まりあり　炭化物を多く含む
④層:10YR2/3黒褐色シルト　粘性なし　締まりあり　炭化物　焼土粒を含む
⑤層:10YR5/6黄褐色土　粘性あり　締まりあり

<土層注記>SL202
①層:5YR5/6明赤褐色シルト（焼土）　粘性なし　固く締まる

<土層注記>SL205
①層:10YR3/4暗褐色シルト　粘性あり　締まりなし　炭化物を多く含む
②層:5YR3/6暗赤褐色シルト（焼土）　粘性あり　固く締まる
③層:7.5YR3/4暗褐色シルト　粘性あり　締まりあり

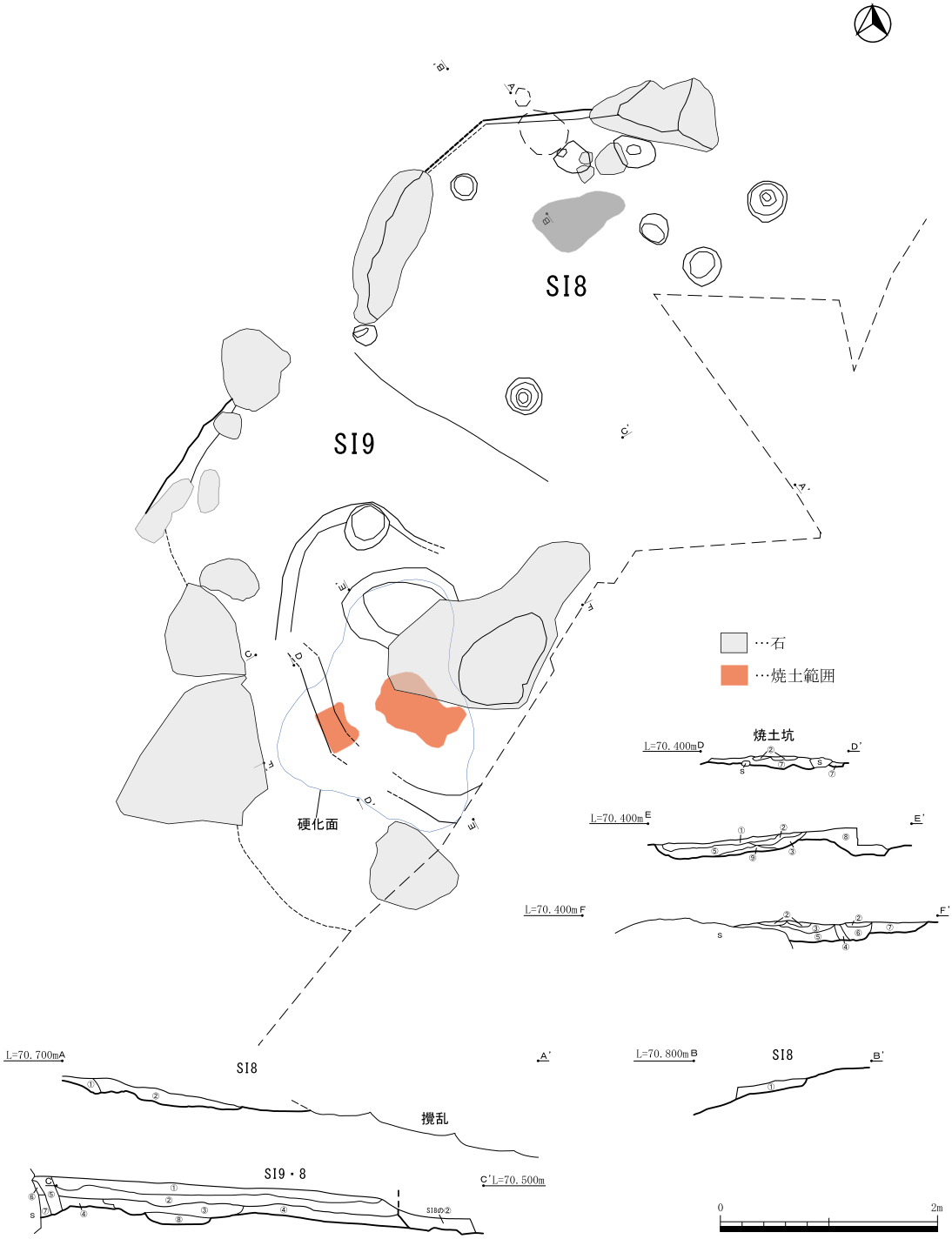
<土層注記>SL206
①層:7.5YR3/4暗褐色シルト　粘性あり　締まりなし　炭化物を含む　焼土粒を含む
②層:7.5YR3/4と５YR4/8の混合土　暗褐色シルト　炭化物を含む　焼土粒を含む
③層:5YR4/8赤褐色焼土　固く締まる　粘性あり
④層:7.5YR4/3褐色シルト　粘性あり　締まりなし
⑤層:10YR2/3黒褐色シルト　粘性あり　締まりあり　炭化物を含む
⑥層:10YR4/5にぶい黄褐色シルト（粘土質）　粘性あり　締まりあり

<土層注記>SI7
①層:10YR2/2黒褐色シルトと10YR4/3黄褐色シルトの混合土　粘性あり　締まりあり
　貼床か？炭化物を多く含む　南側で混合率が高い（黄褐色シルトが卓越する）
②層:10YR3/3暗褐色シルト　粘性あり　締まりあり　炭化物を多く含む
③層:10YR2/3黒褐色シルト　粘性あり　締まりあり　炭化物を含む
④層:10YR2/2黒褐色シルト　粘性あり　締まりあり
⑤層:10YR2/1黒色シルト　粘性なし　締まりなし（木根？）

<土層注記>SL207
①層:10YR2/1黒色土　粘性なし　締まりなし
②層:5YR4/8明赤褐色焼土　粘性なし　固く締まる
③層:7.5YR3/4暗褐色シルト　焼土を含む　粘性なし　締まりなし

<土層注記>SL208
①層:10YR3/4暗褐色シルト（砂質）　焼土粒状含む　炭化物を含む
　粘性なし　締まりなし
②層:10YR2/3黒褐色シルトと焼土の混合土　粘性なし　締まりなし
　炭化物を多く含む
③層:5YR4/8赤褐色土（焼土）　粘性なし　締まりややあり
④層:7.5YR3/4暗褐色シルト　粘性あり　締まりあり

ＳＩ５・７・ＳＬ201～203・205～208　遺構平面・土層断面図



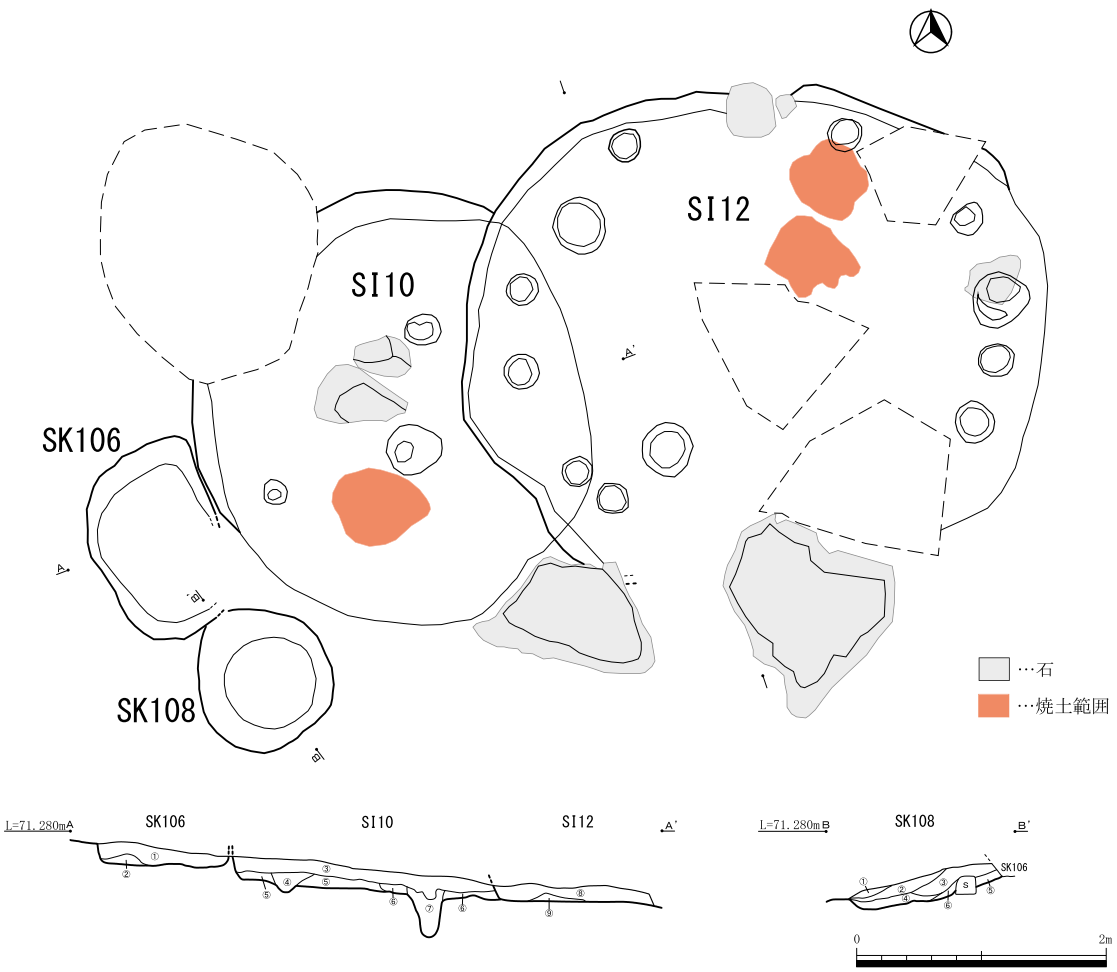
<土層注記>SI8　A-A'
①層:10YR2/3黒褐色シルト　粘性あり　締まりなし
②層:10YR2/2黒褐色シルト　粘性あり　やや締まり　炭化物を含む

<土層注記>SI9・8　C-C'
①層:10YR2/2黒褐色シルト　粘性あり　締まりややあり　炭化物を含む
②層:10YR2/3黒褐色シルト　粘性あり　締まりあり　炭化物を含む　床面上
③層:10YR2/1黒色シルト　粘性なし　締まりなし　炭化物を多く含む
　貼床（焼土土坑）
④層:10YR3/3暗褐色シルト　粘性なし　締まりややあり　黄褐色砂粒状に含む
　床面下。
⑤層:10YR3/1黒色シルト　粘性あり　締まりあり　柱穴状
⑥層:10YR3/2黒褐色シルト　粘性あり　固く締まる
⑦層:10YR4/2灰褐色砂質シルト　粘性なし　締まりなし
⑧層:10YR3/4と10YR4/6の混合土　粘性なし　締まりなし　炭化物を多量に含む

<土層注記>SI8　B-B'
①層:10YR2/2黒褐色シルト　粘性あり　締まりあり　炭化物を多く含む

<土層注記>SI9焼土坑
①層:10YR2/3黒褐色シルトに焼土　炭化物が顕著に含まれる　粘性あり
　締まりあり
②層:5YR4/8赤褐色シルト（焼土）　粘性なし　固く締まる
③層:7.5YR3/4暗褐色シルト　粘性あり　よく締まる　炭化物を含む
④層:10YR4/3にぶい黄褐色シルト（砂質）　粘性なし　締まりなし
⑤層:10YR5/4暗褐色シルト（砂質）と10YR5/6黄褐色シルトが混合する
　人為的な堆積層　粘性あり　締まりあり
⑥層:10YR2/2黒褐色シルト（砂質）　粘性あり　締まりあり　炭化物を
　多く含む
⑦層:10YR3/3黒褐色シルトに炭化物が混入する　粘性あり　締まりあり
⑧層:10YR2/1黒色シルトに炭化物　褐色シルトブロックが混入する
　粘性あり　締まりあり
⑨層:不明

ＳＩ８～９　遺構平面・土層断面図



<土層注記>SK106・SI10・SI12
①層:10YR2/3黒褐色シルト　粘性あり　締まりあり　炭化物少量
　10YR4/3にぶい黄褐色シルトブロックを含む
②層:10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘性あり　締まりあり
③層:10YR2/2黒褐色シルト　粘性あり　締まりあり　炭化物を多く含む
④層:10YR3/4暗褐色シルト　粘性あり　締まりなし
⑤層:10YR3/4暗褐色シルトと10YR4/6褐色シルトの混合土　粘性あり　締まりあり
　炭化物を多く含む
⑥層:⑤で褐色シルトの混合率が高い　粘性強く　固く締まる
⑦層:④と同じ
⑧層:10YR2/1黒色シルト　粘性あり　締まりあり　花崗岩粒を多く含む
⑨層:10YR3/3暗褐色シルト（粘土質）　粘性あり　締まりあり

<土層注記>SK108
①層:10YR2/1黒色シルト（砂質）　粘性あり　締まりなし　炭化物を含む
②層:10YR2/2黒褐色シルト　粘性ややあり　締まりあり　炭化物を含む
　弥生の埋土類似
③層:10YR2/3黒褐色シルト　粘性あり　締まりあり
④層:10YR2/3黒褐色シルト　粘性あり　締まりややあり　③より締まる
　10YR3/4暗褐色シルトをまばらに含む混合土
⑤層:10YR4/4褐色シルト（砂質）　粘性なし　締まりなし
⑥層:10YR4/0褐色粘土　粘性あり　締まりなし
⑦層:10YR3/2暗褐色シルト　粘性あり　締まりなし

ＳＩ10・12・ＳＫ106・108　遺構平面・土層断面図

床は北側で傾くが、中央部はほぼ平坦で硬化面が認められ、２基の焼土と炭化物範囲が広がっている。壁となっている巨石は女陰形のくぼみを持つ。また、焼土や炭化物範囲の下位には、大型の男根状の巨礫が横たわり、先端がくぼみに向いているようにも見える。柱穴は１基検出した。炭化物範囲は楕円形の土坑状に掘り込まれ、焼土や炭化物は非常に厚く硬く締まる。土器は7.24kg出土している。浅鉢もしくは高坏の出土が多い特色がある。掲載は９点（№38～46）である。石器は石鏃１点（№93）、そのほか№102の土製品が出土している。

＜ＳＩ10竪穴住居跡＞中央部平坦面で検出した。東側でＳＩ12に切られ、東側でＳＫ102・106と隣接する。平面形は円形で、規模は350cmほどと推定する。埋土は、Ⅲ層に似た炭化物混入の顕著な黒褐色土で、ＳＩ12などと区別される。床面中央部やや南寄りに炭化物範囲が広がる。柱穴は３基検出し、Ｐ２の深さは39

cmを測る。床面中央部に巨石が突き出ている。2.24kgの土器が出土し、２点（№47・48）掲載した。

＜ＳＩ12竪穴住居跡＞中央部平坦面で検出した。西側でＳＩ10を切る。南側にある２つの巨礫も範囲とした。平面形は楕円形を呈し、規模は480×400cmを測る。壁は斜めに緩くたち上がり、比高は最大42cmを測る。埋土は黒色土主体となる。床面北側に微弱な焼土伴う２基の炭化物範囲を検出した。柱穴は12基検出し、そのうち開口部径38～40cm前後のＰ１～３が主柱穴になると考えられ、深さはＰ３が最大で42cmを測る。南側の２つの巨石間には、柱穴などの施設がなく、出入り口の可能性がある。出土土器は総量で2.04kgである。弥生土器のほかに､縄文時代前期や後期と思われる土器も上層から出土している。４点(№49～52)を掲載した。

＜ＳＫＩ13竪穴住居状遺構＞東部斜面で検出した。平面形は楕円形で、規模は長軸で440cmを測る。壁は北壁のみの検出で、壁比高は27cm、黄褐色土を掘り込んでいる。埋土は、黒褐色土下の暗褐色土で、他遺構と異なる特色がある。床面は緩やかに南に下がるが、人頭大の礫が規則性を持って並んでいるようにも見える。この礫は埋土（暗褐色土）面に載っている。出土土器の総量は1.34kgで少ない。下層（暗褐色土）出土３点（№53～55）を掲載した。

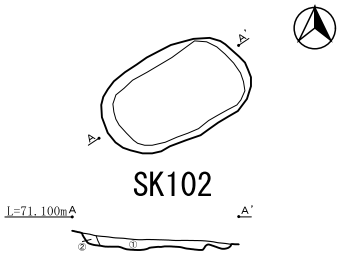
＜ＳＫ102・106～108土坑＞中央部南よりＳＩ７～10に挟まれる形で検出された。埋土は、すべて炭化物を多く含む黒褐色土が主体となる、ＳＫ102の平面形は隅丸長方形で、開口部径は122×73cmを測る。土器出土量は0.20kgで小片が多い。ＳＫ106はＳＩ10と隣接する。平面形は隅丸長方形で、開口部径は150×101cmを測る。土器出土量は0.09kgである。ＳＫ107の平面形は円形で、開口部径は83cmを測る。深鉢の底部（№58：0.29kg）が出土している。ＳＫ108は、ＳＫ106と重複し、平面形は円形で、開口部径は108cmを測る。出土量は注口土器（№59）を含め0.23kgである。

＜ＳＫ105土坑・ＳＬ204焼土＞当初、竪穴住居跡と想定していた最西部で検出した。ＳＩ５とＳＩ７に挟まれる形となる。ＳＫ105は大型の土坑である。平面形は楕円形で、開口部径は193×157cmを測る。北壁はなだらかに立ち上がり、底面中央部や北側に礫を配する。遺物は、上層出土を遺構外として取り上げているため、１kgと少ない。２点（№56・57）を掲載した。ＳＬ204は、焼土は硬く締まり、規模や柱穴状土坑が隣接する特色はＳＬ206に似る。

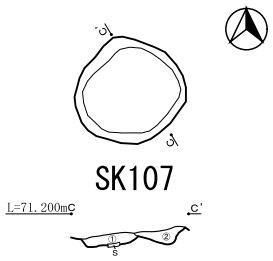
＜遺構の時期＞埋土の特色や遺構毎の重複関係、また土器の出土状況などから、ＳＫＩ13が縄文時代前期初頭から前葉にかけて、ＳＫＩ４やＳＩ10、中央区で検出された土坑（ＳＫ102・106～108）が、縄文時代後期後葉から晩期前葉にかけて、北側斜面検出のＳＩ１、ＳＩ２と西部のＳＩ７、ＳＫ105土坑やＳＬ204焼土が、弥生時代初頭から前期の遺構と考えられる。また、ＳＩ９とＳＩ12が弥生時代前期から中期、そしてＳＩ５・ＳＩ８が弥生時代中期から後期の遺構と推定する。

＜その他＞縄文時代前期の遺構はＳＫＩ13のみであるが、ＳＩ５床下（Ｖ層）から同期の土器が出土することから、調査区西部を中心に当期遺構の存在が危ぶまれる。ＳＩ１・２は尾根沿いに検出されていることから、調査区外の北西側に同様の遺構が広がっていると予測される。ＳＩ８は、方形のプランとしたが、巨石を壁と想定していることによるため明確ではない。ＳＩ９は、巨石の配置と焼土遺構の規模などから、巨石を伴う祭祀遺構の可能性がある。ＳＩ８と同遺構で、テラス状の高まりを持ち、巨石で囲まれる楕円形もしくは隅丸長方形の遺構との解釈もできる。

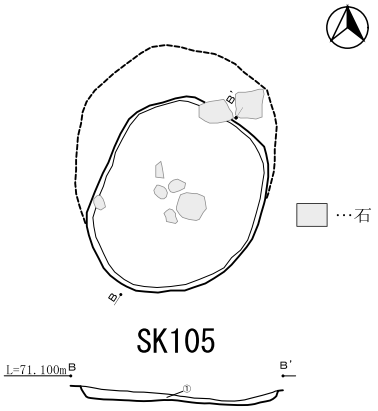
<土層注記>SI13
①層:10YR2/1黒色シルト　粘性なし　締まりなし
②層:10YR2/3黒褐色シルト　粘性あり　締まりあり
③層:10YR3/3暗褐色シルト　粘性あり　締まりあり　土器片出土（縄文後期か？）



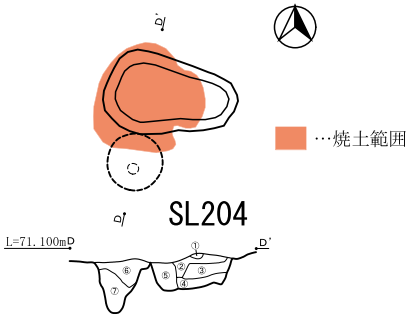
<土層注記>SK102
①層:10YR2/3黒褐色シルトと10YR3/4暗褐色シルトの混合土　粘性あり
　締まりなし　炭化物を多く含む
②層:10YR3/4暗褐色シルト　粘性なし　締まりなし　木根の撹乱？



<土層注記>SK107
①層:10YR2/3黒褐色シルトと10YR3/4暗褐色シルトの混合土　粘性あり
　締まりなし　炭化物を多く含む
②層:10YR3/4暗褐色シルト　粘性なし　締まりなし　木根の撹乱？



<土層注記>SK105
①層:10YR2/2黒褐色シルト　粘性あり　締まりなし　10YR4/0褐色砂ブロックが混入
　（上位には10YR3/3暗褐色シルトが載る）



<土層注記>SL204
①層:5YR4/8赤褐色シルト（焼土）　粘性なし　固く締まる
②層:10YR3/3暗褐色シルト（粘土質）　粘性あり　締まりなし
③層:10YR3/4暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合土　粘性あり　締まりあり
④層:③と同じであるが　10YR4/6褐色土の割合が高い　粘性あり
　締まりあり
⑤層:7.5YR3/3暗褐色シルト　粘性あり　締まりあり
⑥層:②と同じ
⑦層:④と同じで炭化物が多い

ＳＫ102～103・105・ＳＬ204　遺構平面・土層断面図

調査区完掘全景（東から）

ＳＩ１埋土断面（西から）

ＳＩ２平面（北東から）

ＳＩ１炉跡断面（北西から）

ＳＩ５・ＳＬ202平面（南西から）

ＳＬ202断面（西から）

ＳＩ７・ＳＬ205平面（南から）

ＳＫ105平面（南西から）

ＳＩ８平面（北から）

ＳＩ９床面検出焼土炭化物（西から）

ＳＩ12平面（北から）

ＳＩ９巨石周辺完掘（南から）

ＳＫＩ13平面（西から）

ＳＫ108断面（東から）

遺物出土状況（ＳＩ８床面出土　遺物No.31）

遺物出土状況（中央区Ⅱ層　遺構外遺物No.86）

＜出土遺物＞土器は総量で77.5kg（遺構内47.3kg、遺構外30.2kg）である。弥生時代前期から中期が多く、少量であるが縄文時代前期前半、中後期や晩期の土器も出土している。遺構内から順に記述する。ＳＩ１出土№.１は、頸の狭い小型壺、ＳＩ２出土№.２は高坏もしくは浅鉢で、胎土に金雲母が混入する。№.３は高坏の台部である。ＳＫＩ４出土№.４は鉢の口縁下破片で、縄文時代晩期初頭～前葉（大洞Ｂ式）の土器であろう。ＳＩ５出土№.５は、複合口縁（肥厚）の交互刺突文が特徴的で、同様の土器はＳＩ９（№.38）やＳＩ12（№.50）でも出土している。№.６はＳＬ202とした地床炉と思われる焼土遺構の脇、№.７はＳＬ207とした石囲炉の近辺で検出された土器で、頸部が筒形状に伸び、口縁が外反する。胴部が膨らみ口縁とともに最大径となる。外面に煤が大量に付着しており、ただれていることから煮炊き用に使われていた甕形土器と思われる。№.８～10の鉢のうち、№.９は櫛描文様の波状沈線が巡り、裏面には山形沈線が確認できる。№.10の内湾する山形口縁の鉢は、変形工字文を施文する。№.11・12は鉢の頸部から胴部と思われる破片で、№.11は連弧状沈線が、№.12は方形に区画された沈線内に縄文が充填され、下位には工字文状の文様が見える。また№.13は平行沈線に区画され、連続刺突文（列点文）が施文される。№.16・17は高坏の台で№.16は流水文が、№.17は流水文で縄文が充填され大型である。ＳＩ７出土として登録された土器は、重複するＳＩ５に関連する可能性のある土器も含む。№.18は、口縁が長く大きく開き、肩の張る甕形の深鉢で、上層黒色土での出土である。№.19・29は平口縁、№.21は山形口縁、№.22は小波状口縁の鉢で、胎土に金雲母が多く混入する。№.23・24の浅鉢と鉢形土器の底部は、同じく金雲母を多く含み、器面色は暗褐色系である。

ＳＩ８は、先行して実施した試掘調査で得られた土器（Ｔ４出土土器）も登録した。№.25は、器面色が赤朱色の口縁が大きく開く深鉢（または甕）で、頸部が無文となる。№.30の胴部破片は同一個体と思われ、薄手の大型土器となりそうである。№.26～29は鉢形土器で、№.26は羽状縄文状に施文されてように見える。№.27・28の小型破片や沈線で区画され縄文を充填する№.29は、縄文時代後晩期の土器（流れ込みか）の可能性もある。№.31は深鉢の胴部で乱雑な櫛描文が観察できる。№.32は礫に埋もれていた浅鉢である。№.33の浅鉢は孔が見られ、蓋として利用されていたことも考えられる。№.34は柱穴出土の壺、№.35の小破片は、口縁が長く伸びる小型壺の可能性がある。№.36は正立で検出された壺で、流水文とJ字文が描かれ縄文が充填される。弥生時代中期の枡形囲式土器に相当しようか。№.37は厚みのある無文の壺で№.36の近くで出土している。ＳＩ９出土№.38～40は深鉢で、№.39は胎土に金雲母がやや多く混入している。№.41・42は平口縁の、№.43は山形口縁の浅鉢で、垂直にあがる№.42は粘土粒が失われ、器面色は赤朱色である。№.44の壺は変形工字文の粘土粒がつぶされている。№.45の高坏と№.46底部は暗褐色をしている。

ＳＩ10出土の№.47は、磨消しと縄文充填のほかに粘土瘤が貼られる特色を持つ土器で、遺構外で登録した№.67と同一破片と考える。№.48の小破片は瘤付土器の壺である。ＳＩ12出土土器は、ＳＩ５やＳＩ９出土と同様の特色を持つ。ＳＩ13は、埋土下層の暗褐色土から出土した土器を登録した。№.53は口縁に刺突列をもつ羽状縄文土器、№.54はループ文か、№.55は複節斜縄文を地文とする深鉢で、いずれも胎土に繊維を混入させる。ＳＫ105出土の№.57は高坏になろうか。ＳＫ107の№.58は一括で出土

した深鉢の底部である。ＳＫ108の№59は注口土器で、先端部を隆体で三角形に区画する。

以下は遺構外出土土器である。遺構内で出土した土器であっても、上位黒色土から出土（針葉樹の根から出土）した時期差のある土器（№60～66）は、遺構外として取り扱う。№60・61は縄文時代初頭から前葉の土器で、№60はＳＩ５の床下（褐色ローム層）から、№61は調査西側の試掘トレンチＶ層から出土している。いずれも胎土に繊維が混入する。縄文時代前期初頭から前葉の土器である。№62は、ＳＩ13検出区域黒色土からの出土で、細い粘土紐が貼り付けられており縄文時代前期中葉の土器であろうか。№63・64は縄文時代中期前中葉の土器で、他に数点出土しているが摩滅が激しい。№65･66の縄文時代後期後葉土器はＳＩ10出土土器と同様な特色を持つ。

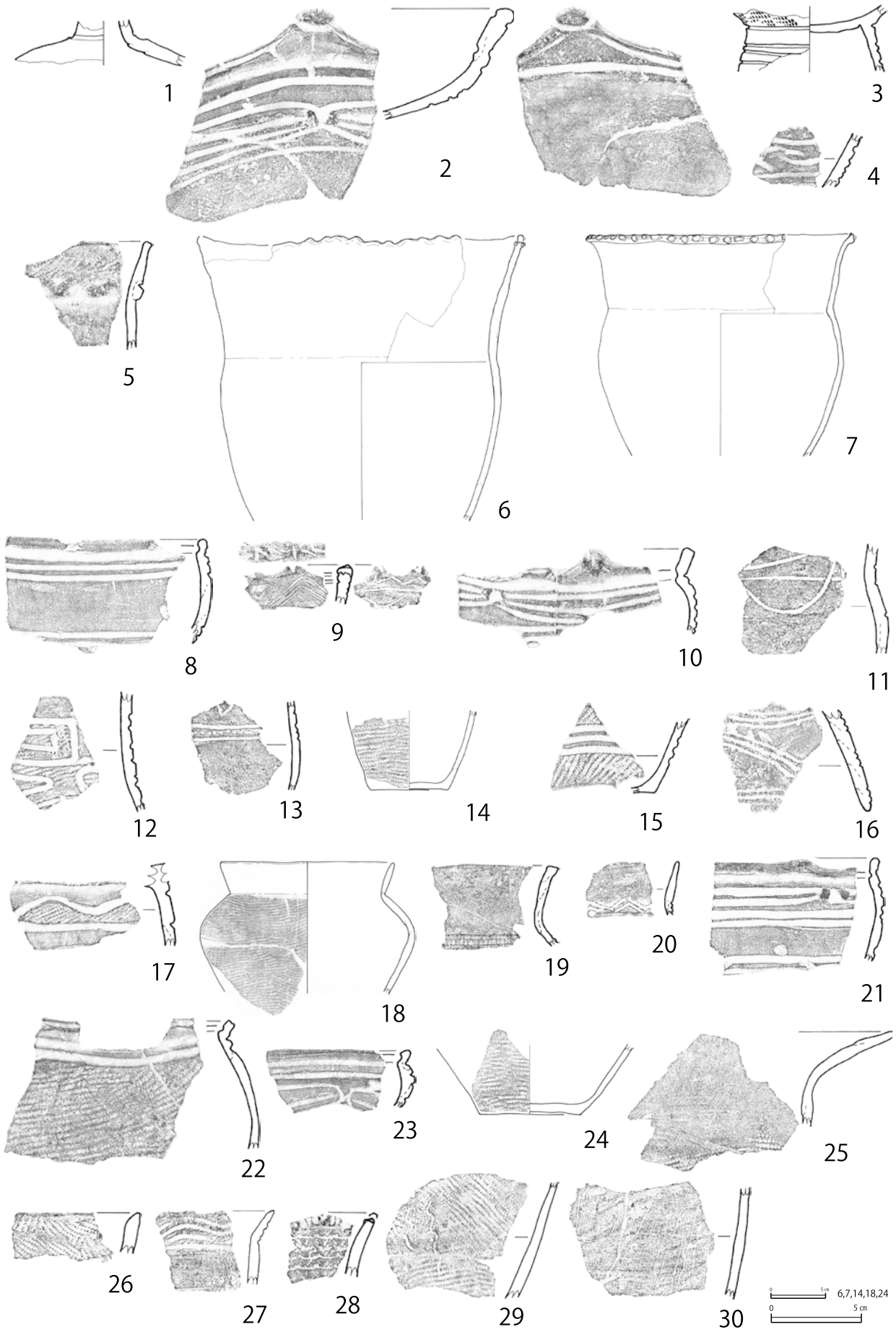
№67から86は、Ⅱ層出土土器のうち弥生土器と思われるものを集めた。№67は肥厚された口縁下の無文帯に､大柄な山形の細沈線(菱形文？)が巡る。№68は押し引き文下位に交互刺突文が施文される。№69・70は口縁が大きく長く外反する深鉢で、どちらも胎土に金雲母が多い。№71は外反しない深鉢の粗製土器である。№72～74は平口縁の鉢でそれぞれ沈線が施される。№75・76は山形口縁で、№75は内側に２条の沈線が見える。№77はＳＩ２の貼床と撹乱黒色土から出土した鉢（碗？）で、器面色が黒褐色の特色がある。№78～85は、浅鉢もしくは高坏である。そのうち平口縁の№78は、暗褐色系で金雲母の混入が多い。№79は粘土粒がつぶされている。№81は高坏で口縁が欠損するが、器面色は白色系である。№82・83は流水文で暗褐色をしている。№84・85は縄文が充填されている。壺資料は１点。№86は短頸壺で大型であり、表面色は濃赤褐色である。肩部に縄文が施文されている。以下４点は時期不明の破片と底部である。№87と88は、沈線で方形区画し磨消しが施される。縄文時代中後期の深鉢であろうか。№89はＳＩ９の、№90はＳＩ７の検出区域Ⅱ層出土の深鉢底部である。

以上の弥生土器の時期については、前期から中期にかけてと考えられるが、複合口縁の甕（№67・68）や口縁部が大きく開き外反する甕？（№69・70）は弥生時代後期（天王山式期）に属する可能性もある。また浅鉢もしくは高坏・壺については、金雲母を多く含み暗褐色系の色合いを持つ№82・83、磨消して縄文を充填する№84・85、２条の沈線が口縁を巡る№86は、前期末葉から中期初頭に位置付けられるものと考える。

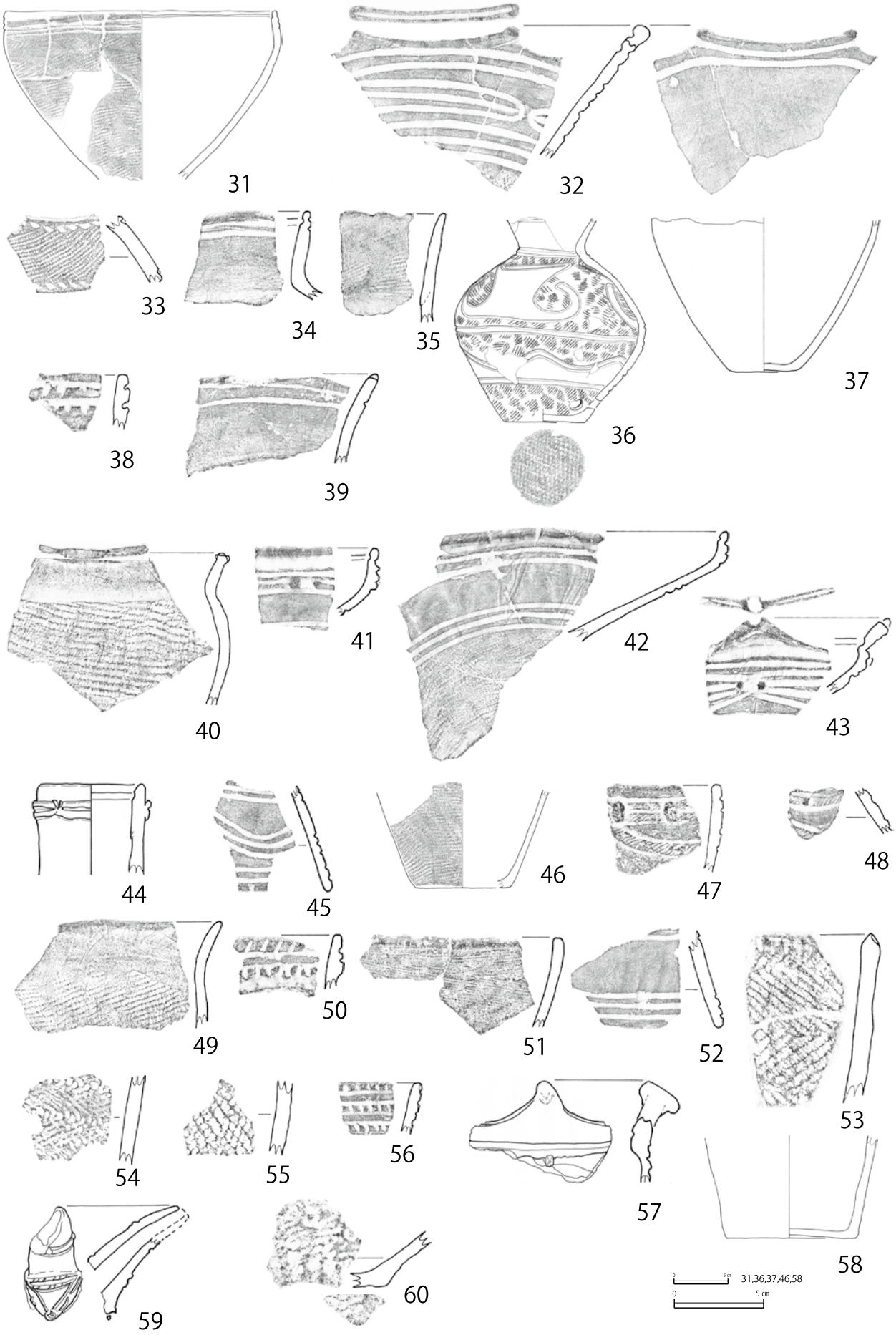
剥片石器は７点掲載している。№91・92はＳＩ８から、№93はＳＩ９から出土した石鏃で、ほか２点も調査区南側から出土している。№96はＳＩ７から出土した石錐、№97は石匙である。礫石器は遺構内出土を厳選した。№98がＳＩ５出土の敲石、ＳＩ７からは№99・100の磨石が出土している。

土製品は３点出土した。調査区西側から出土した№101は、結髪土偶の結い部分の破片で、顔部が欠損している。またＳＩ９やその近隣から№102・103の円盤状土製品が出土している。その他では調査区西側から古代の遺物である羽口（№105）や鉄滓（№106・107）が出土している。

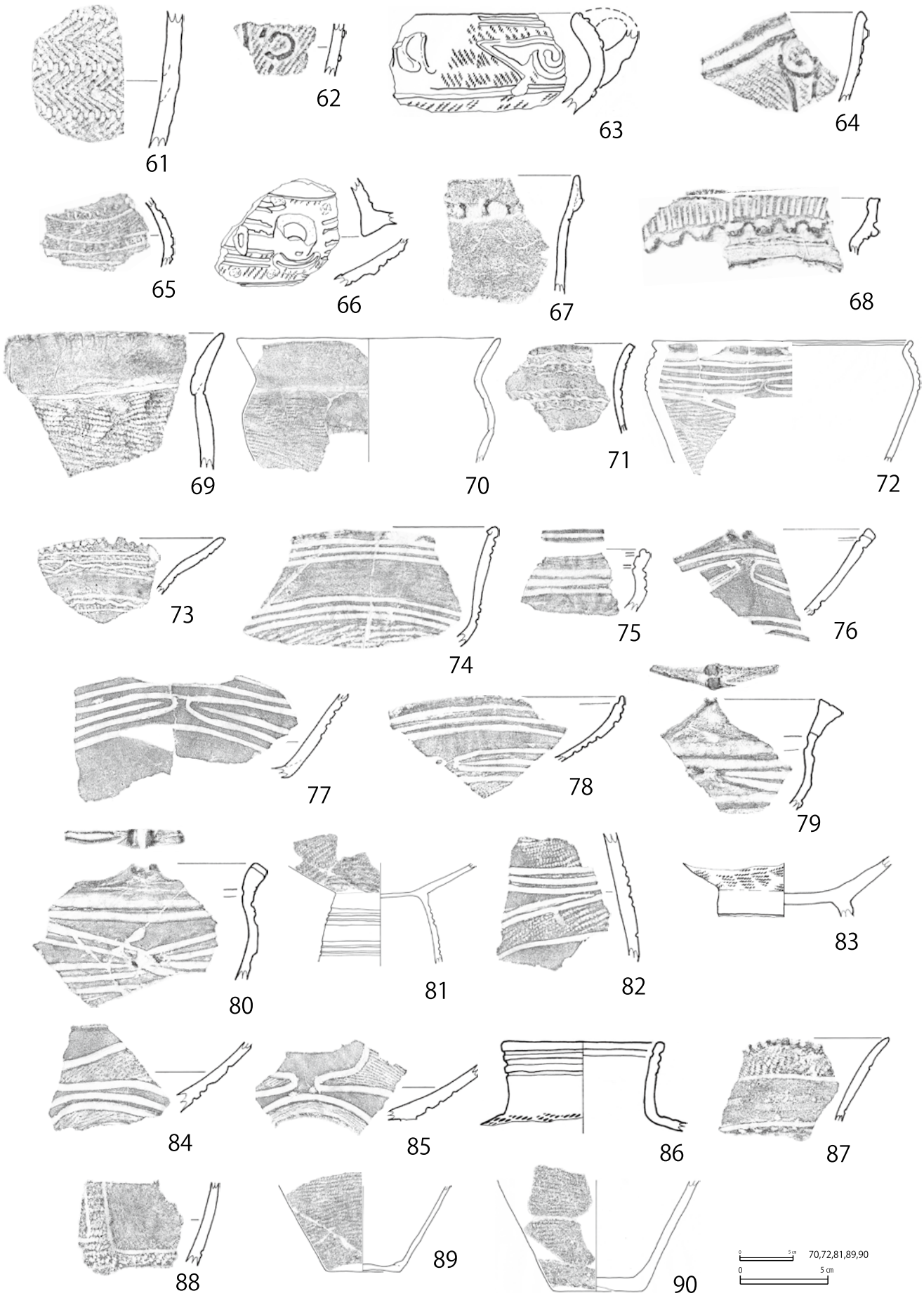
出土遺物から遺跡全体像を見ると、縄文時代前期初頭～前葉、中期前葉～中葉、後期後葉～晩期前葉、弥生時代前期～後期、そして古代人の活動の痕跡が伺える。集落の全盛は弥生時代前期～中期で、特記として、内陸部の当期遺跡に見られる蓋形土器が出土していないことを指摘しておきたい。


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
6,7,14,18,24
0
5 cm

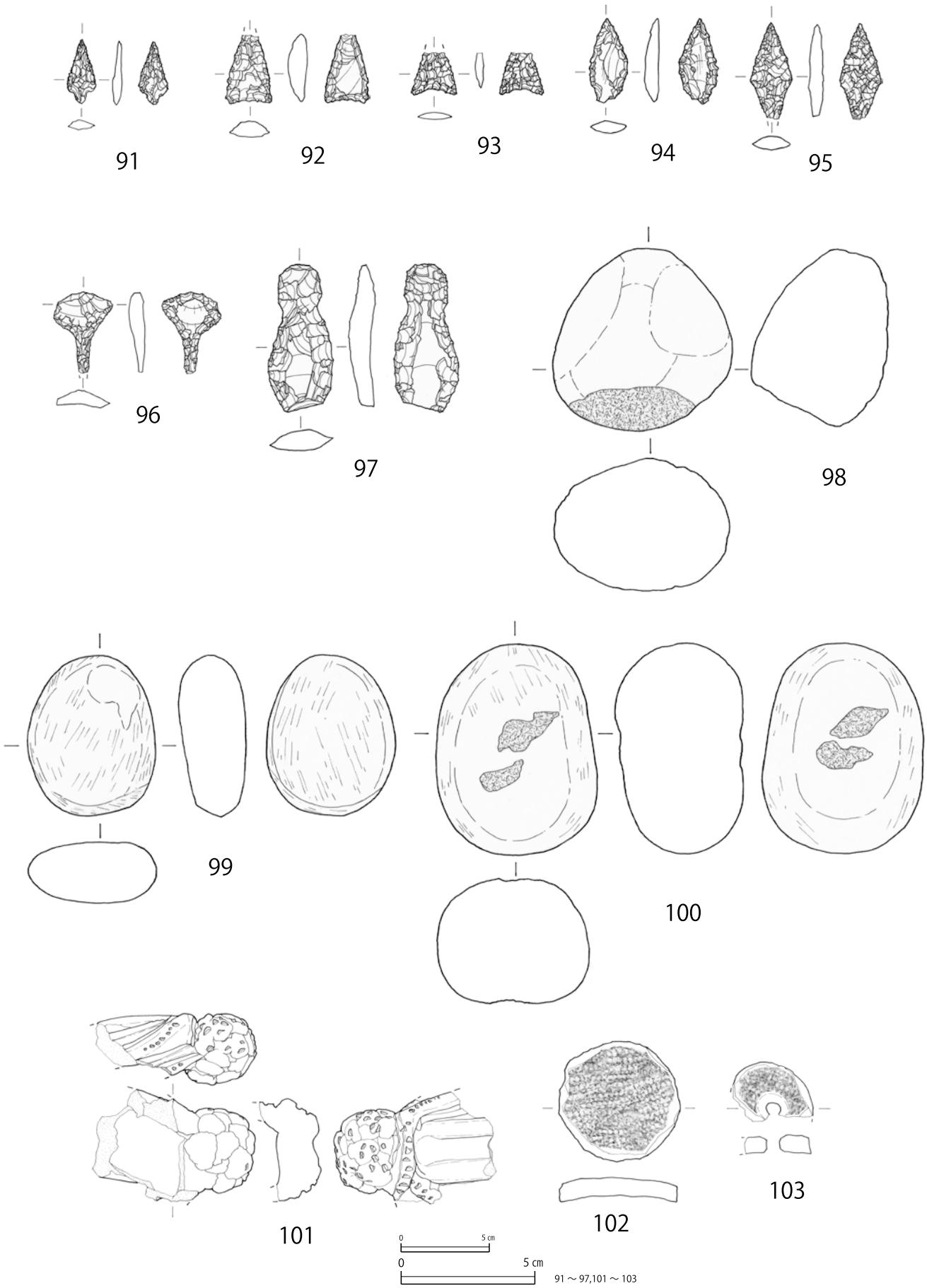
出土遺物 1


31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
31,36,37,46,58
0
5 cm

出土遺物２


61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
70,72,81,89,90

出土遺物３



出土遺物４

1（1/2）

4（1/2）

5（1/2）

2（1/2）

7（1/3）

9（1/2）

13（1/2）

18（1/3）

17（1/2）

21（1/2）

遺物写真１

25（1/2）

33（1/2）

38（1/2）

31（1/3）

36（1/2）

43（1/2）

47（1/2）

50（1/2）

51（1/2）

53（1/2）

遺物写真２

57（1/2）

63（1/2）

67（1/2）

66（1/2）

74（1/2）

87（1/2）

81（1/2）

83（1/2）

遺物写真３

91（原寸）

98（原寸）

97（原寸）

98（1/2）

101（1/2）

102（1/2）

104（1/2）土球

105（1/2）鉄屑類

遺物写真４

15　宮古盛岡横断道路（区界工区）
中村遺跡（LF20-1054：旧可能性あり８）

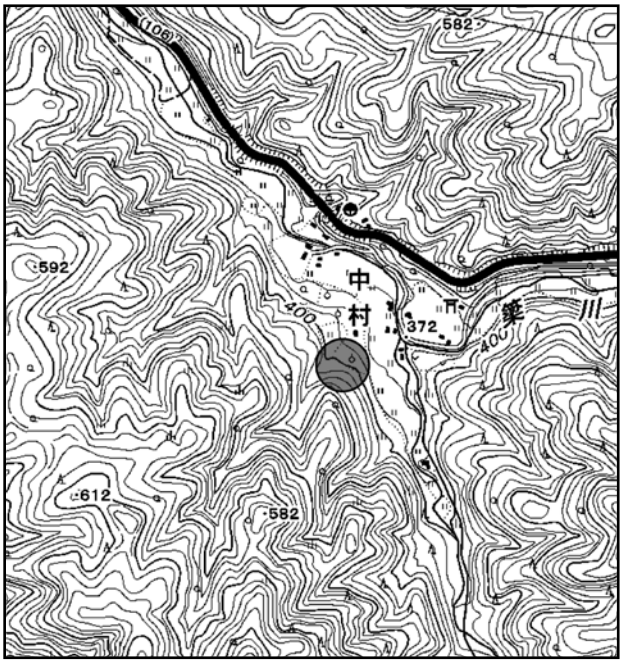
【所 在 地】　盛岡市簗川地内

【事 業 者】　国土交通省東北地方整備局
　　岩手河川国道事務所

【調査期日】　平成26年10月７日（火）
　　～11月28日（金）

【調査面積】　1,500㎡

【調査結果】　簗川の左岸・標高400m前後の丘陵上に立地する。調査地から北東に300m離れた梁川対岸の丘陵上には縄文時代の組木新田遺跡（LF20-1035）がある。



中村遺跡 位置図

今回の発掘調査は、国道106号宮古盛岡横断道路（区界～簗川）建設事業に伴う本発掘調査である。平成26年１月27日（月）～31日（金）に行った試掘調査の結果、Ｔ４で焼土遺構を検出し、またすべてのトレンチから縄文土器が出土した。周辺の地形等について考え合わせた結果、梁川右岸の丘陵上に集落遺跡が展開することが判明し、当該事業地について本調査が必要と判断した。

以上の試掘結果をもとに、当課により本発掘調査を実施した。調査地西側には現行河川が深い谷状地形を呈し、南側は丘陵の裾部に里道が存在するため、それぞれの影響を勘案して調査区を設定した結果、1,500㎡の本発掘調査を実施した。

調査区は南に向かって展開する丘陵の先端に該当し、緩斜面上に遺跡が展開する。掘削の結果、後世の土地利用によって地形改変がなされ、基盤層上面において段状に造成されていた。調査では段を境に上段調査区・下段調査区と区割りしてすすめた。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　黒色土　　層厚10～20㎝（表土及び耕作土）
Ⅱ層　黒褐色土　層厚10～20㎝
Ⅲ層　黒色土　　層厚35～60㎝（縄文時代の包含層）
Ⅳ層　褐色土　　層厚不明（基盤層・地山）

包含層はⅢ層の黒色土であるが、多くは削平され上段調査区の一部で遺存していた。包含層内の出土遺物は縄文土器で、以降の所産となる遺物は貨銭１点がある。遺存状況が悪いため種別等は判別しがたいが、寛永通宝の可能性が高い。

＜遺構の概要＞Ⅳ層（褐色土・基盤層）の上面で検出した。いずれも土坑で、円形のものは多くが貯蔵穴、長楕円形のものは陥し穴と考えられる。深度が１ｍを超えるものもあるが、大半は上面を削平されて構築当初の深度は遺存していない。

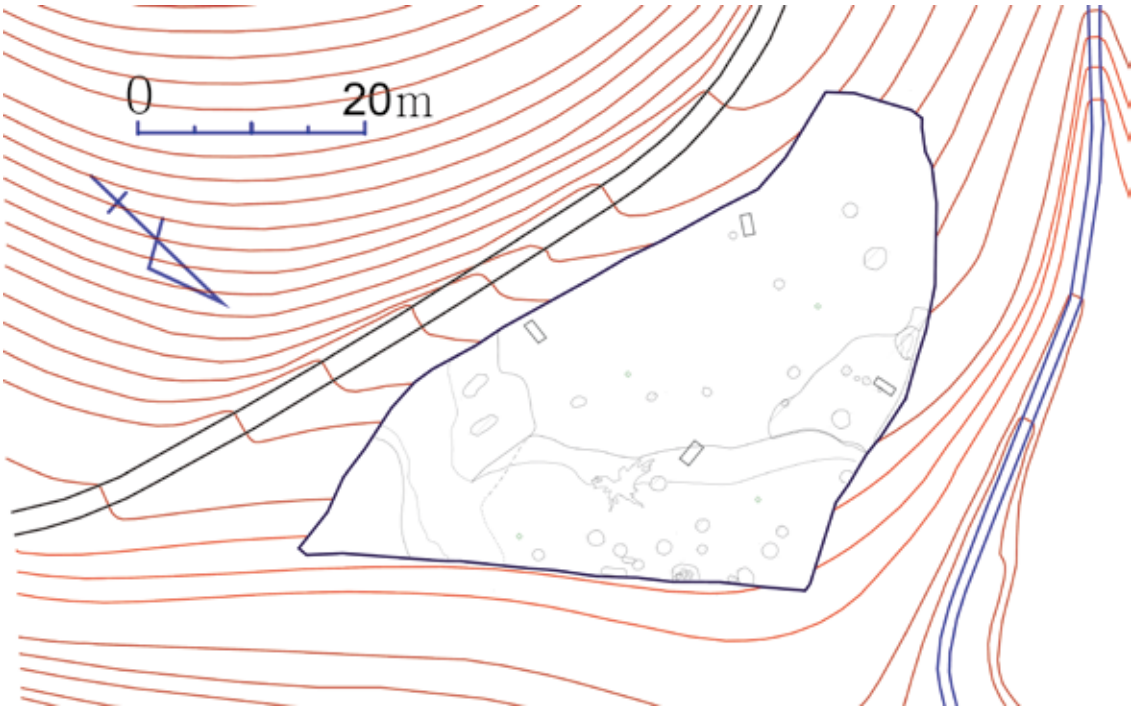
＜土坑（略号：ＳＫ）＞32基検出した。個別の規模ならびに状況については､別記一覧表にまとめた。調査区の北東部に固まって検出され、標高を減じる北側に顕著な集中が見られる。その大半は貯蔵穴として設けられたと考えられるが、遺物の出土がなく規模の小さいものも見られるため、時期・性格とも異にする遺構の混在が考えられる。

平面形状はバラバラだが、おおむね正円形が多い。断面形は、中胴部分が広く張る形態が多い。ただ、検出面での径と比較すると、胴部が極端に張り出すものは少ない。

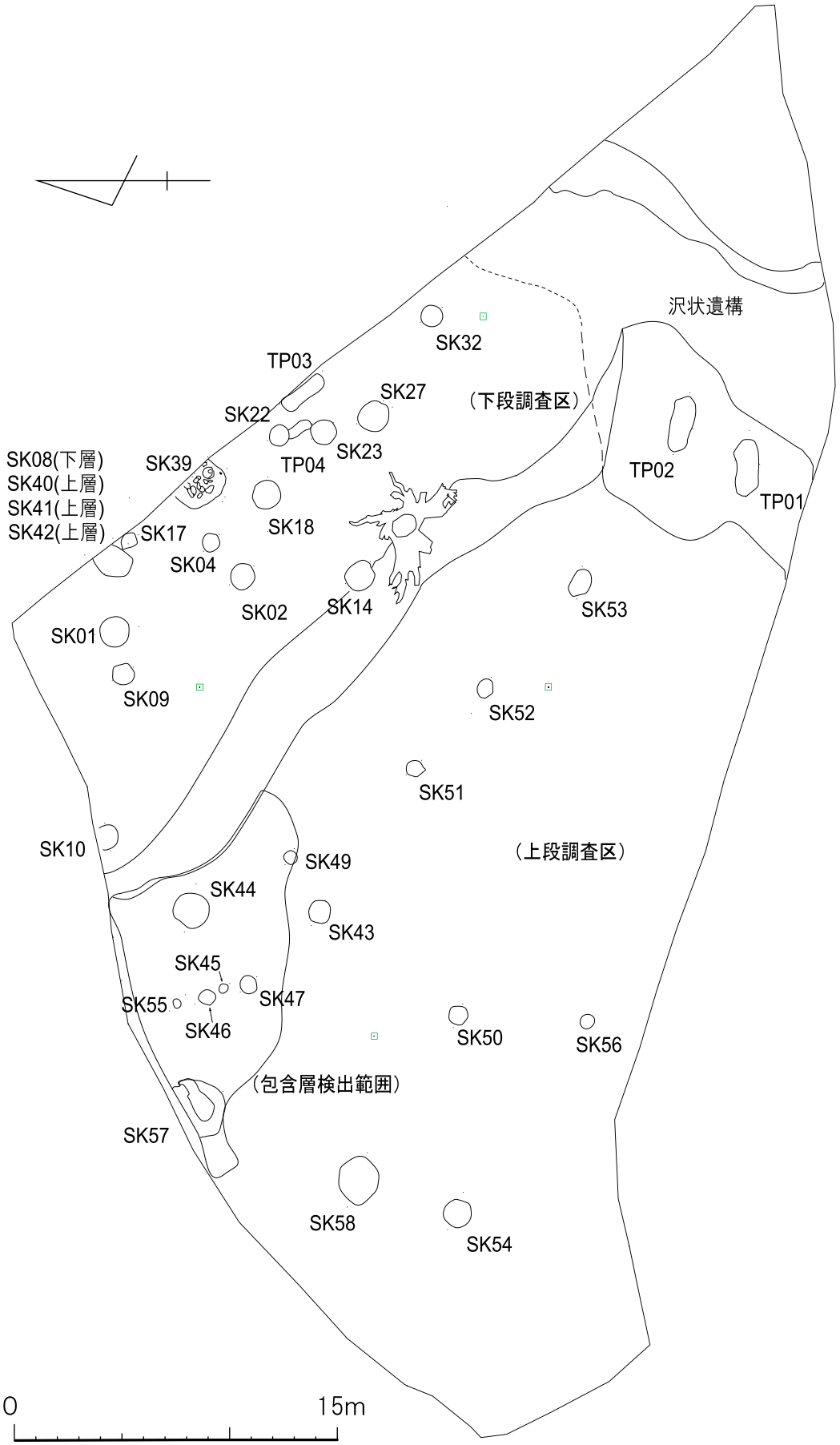
出土遺物は埋土中に包含するものが多く、底部付近から出土したものは極めて少ない。SK44では、遺物が埋土の中央に集積して検出され、一旦埋没した後に掘りなおして投棄した状況がうかがえる。

＜陥し穴（略号：ＴＰ）＞４基検出した。個別の規模・状況は、別記一覧表にまとめた。TP01・TP02は調査区南西の斜面地で検出した。周辺は小規模な沢状の地形で、沢を臨む斜面に並行して設定されたと考えられる。またTP03・TP04は調査区北側に存在し、土坑によって一部を破壊されている。

いずれも平面は長楕円形を呈し、断面は船底形を呈する。底面は平坦で、いずれも中央に直径10cm程度の土色変化が列状に並ぶ状況を検出したことから、逆茂木が設置されていたと考えられる。



調査区位置図


沢状遺構
SK32
TP03
SK27
（下段調査区）
SK22
SK23
SK08(下層)
SK40(上層)
SK41(上層)
SK42(上層)
SK39
TP04
TP02
TP01
SK17
SK18
SK04
SK02
SK14
SK53
SK01
SK09
SK52
SK51
SK10
SK49
（上段調査区）
SK44
SK43
SK45
SK55
SK47
SK46
SK50
SK56
（包含層検出範囲）
SK57
SK58
SK54
0
15m

遺構配置図

出土遺物は比較的少なかった。大半は土坑からの出土で、小片化した縄文土器が中心をなす。時期を決定するのに良好な資料は多くないが、おおむね後期後葉の特徴を有するものが主体で、一部前期の特徴を有するものがある。またわずかではあるが、晩期の土器が出土しており、比較的長い時間に人為的活動がなされたと考えられる。一方、縄文時代遺構の遺物はほとんど見られなかった。さらに後世の時期を示す出土遺物は寛永通宝と考えられる貨銭が１点出土したに過ぎず、土地の造成などによって亡失した可能性が考えられる。

＜まとめ＞本発掘調査の結果、中村遺跡は縄文時代中期を中心とする遺跡と判明した。簗川左岸に張り出す丘陵先端の緩斜面に展開し、貯蔵穴および陥し穴が存在することから、当該地は集落の背後に設けられた狩場または貯蔵域にあたる。

また今回の調査区において、住居等に関連する遺構は検出できなかったことから、集落の居住域は丘陵の南部に展開すると考えられる。

●陥し穴（略号：TP）

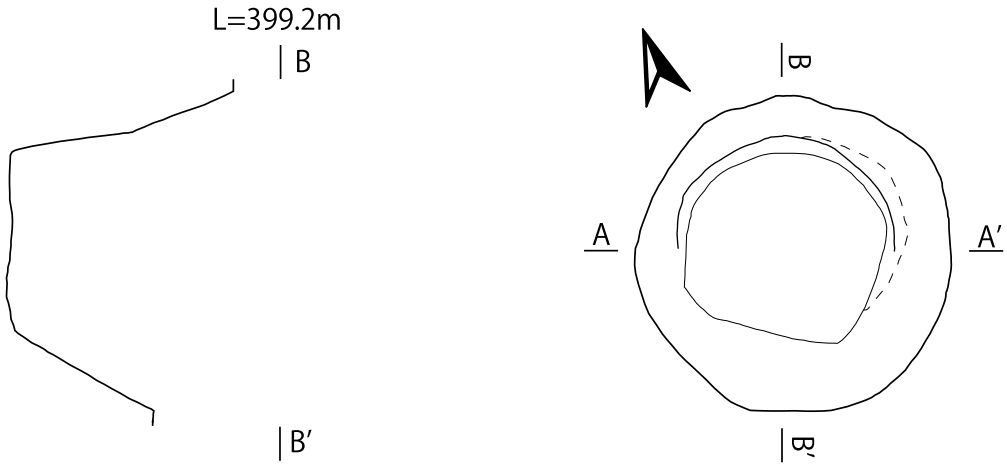
遺構※1)	位置	平面形状	規模※2)	主軸	出土遺物	時期	備考
TP－1	下段	溝状	2.65×0.91/1.97×0.34/0.89m	N88° W	－	縄文時代中期～後期	逆茂木痕3個
TP－2	下段	溝状	3.04×0.87/2.14×0.42/0.96m	N75° W	－	縄文時代中期～後期	逆茂木痕1個
TP－3	下段	溝状	2.17×061/2.16×0.32/0.83m	N39° W	－	縄文時代中期～後期	逆茂木痕4個
TP－4	下段	溝状	－×0.57/－×0.34/0.30m	N32° W	－	縄文時代中期～後期	SK22・23に切られる

●土坑（略号：SK）

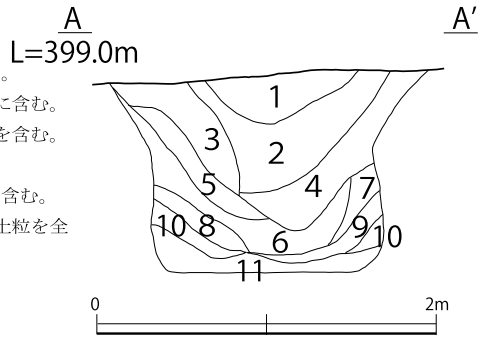
遺構※1)	位置	平面形状	規模※2)	出土遺物	時期	備考
SK－1	下段	円形	1.30×1.30/1.18×1.18/0.95m	－	不明	焼土は堆積するも、焚火の痕跡なし。
SK－2	下段	フラスコ	1.14×1.09/1.27×1.27/0.85m	土器	縄文時代後期前葉	壁面はフラスコ状を呈する。
SK－4	下段	円形	0.78×0.77/0.66×0.63/0.44m	－	不明	
SK－8	下段	フラスコ	1.31×1.05/1.23×1.43/1.29m	土器	縄文時代後期前葉	SK40に切られる
SK－9	下段	円形	0.97×0.92/0.87×0.64/0.46m	土器	縄文時代後期前葉	
SK－10	下段	フラスコ	1.13×－/1.41×－/0.87m	－	不明	調査区外へ。壁面はフラスコ状を呈する。
SK－14	下段	円形	1.13×－/1.18×－/0.09m	－	不明	東側は削平により消失。壁面はフラスコ状を呈する。
SK－17	下段	円形	0.84×0.65/0.67×0.57/0.18m	土器	縄文時代後期前葉	
SK－18	下段	フラスコ	1.29×1.33/1.37×1.45/0.92m	土器	縄文時代後期前葉	壁面はフラスコ状を呈する。
SK－22	下段	円形	1.08×1.17/1.03×1.05/0.98m	土器	縄文時代後期前葉	
SK－23	下段	円形	1.16×1.16/1.19×1.16/1.42m	土器	縄文時代後期前葉	
SK－27	下段	円形	1.43×1.27/1.03×1.25/1.02m	－	不明	遺構上面に焼土遺構あり
SK－32	下段	円形	0.92×0.93/0.43×0.55/1.43m	土器・礫	不明	
SK－39	下段	方形	2.32×（1.54）/1.50×（0.86）/0.3m	－	縄文時代後期前葉	内部で人頭大の礫。廃石遺構か
SK－40	下段	不明	－×－/－×－/－m	土器	不明	SK08を切る／SK41・42に切られる
SK－41	下段	不明	0.80×－/0.5×－/－m	－	縄文時代後期前葉	SK40を切る／調査区外へ
SK－42	下段	不明	0.64×－/0.3×－/－m	土器	不明	SK40を切る／調査区外へ
SK－43	上段	隅丸方形	1.68×1.55/0.89×0.88/0.35m	土器	縄文時代後期前葉	壁面はオーバーハング、フラスコ状を呈するか
SK－44	上段	円形	1.84×1.84/1.15×1.06/1.13m	土器	縄文時代後期前葉	
SK－45	上段	円形	0.50×0.39/0.35×0.24/0.28m	土器	縄文時代後期前葉	
SK－46	上段	円形	0.83×0.72/0.67×0.54/0.22m	－	縄文時代後期前葉	
SK－47	上段	円形	0.74×0.75/0.68×0.62/0.47m	－	不明	
SK－49	上段	円形	0.76×0.77/0.50×0.57/0.25m	－	不明	
SK－50	上段	円形	0.84×0.79/0.68×0.67/0.23m	－	不明	
SK－51	上段	円形	0.85×0.87/0.58×0.57/0.30m	－	不明	
SK－52	上段	円形	0.82×0.80/0.68×0.72/0.38m	－	不明	
SK－53	上段	楕円形	1.24×－/（1.14×－）/0.18m	－	不明	東側は流失
SK－54	上段	円形	1.31×1.22/1.11×1.04/0.25m	植物遺体	不明	壁面はオーバーハング、フラスコ状を呈するか
SK－55	上段	円形	0.62×0.60/0.50×0.47/0.23m	－	不明	試掘で確認。焼土は堆積するも、焚火の痕跡なし
SK－56	上段	円形	0.87×0.70/0.58×0.52/0.45m	－	不明	
SK－57A	上段	円形	－×－/0.61×0.64/－m	土器	縄文時代後期前葉	土坑北側に焼土・炭化物広がる
SK－57B	上段	円形	－×－/0.50×0.48/－m	－	不明	
SK－58	上段	楕円形	2.39×－/1.94×－/0.07m	－	不明	北側は流失

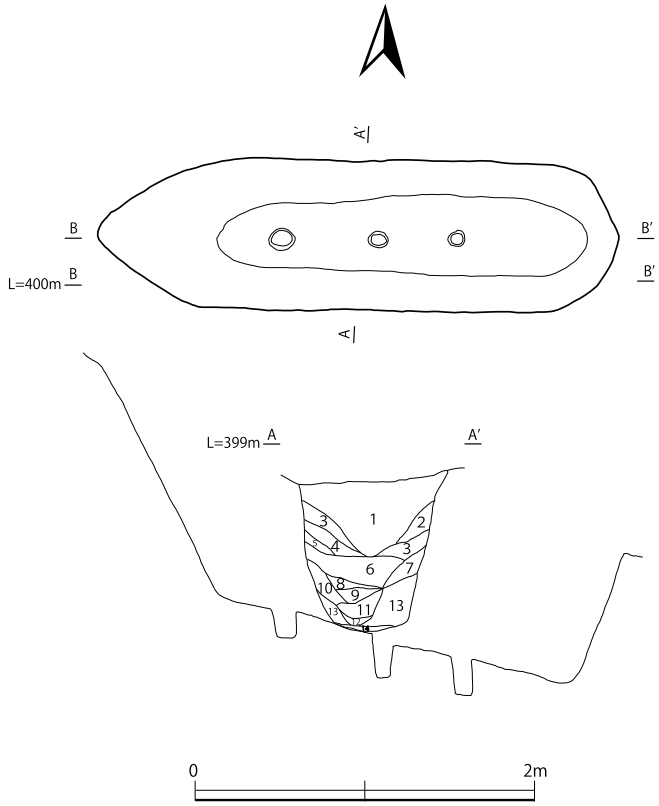
※1)・遺構番号は陥し穴、土坑の検出順に付与した。調査の結果、遺構と認められなかったものについては、報告対象から除外し、欠番とした。
※2)・陥し穴、土坑の規模は、上端：長軸長×短軸長／深さm。（　）は残存値を示す。

検出遺構概要表



1　黒色土（10YR2/1）　しまりややあり、粘性ややあり。
2　黒褐色土（10YR2/2）　しまりややあり、粘性あり、10～20cm 大の礫、縄文土器片を含む。人為的に捨てられたものと考えられる。
3　褐色土（10YR4/6）しまりなし、粘性ややあり、5mm 大の小礫全を含む。
4　黒褐色土（10YR2/3）しまりややあり、粘性ややあり、縄文土器片や礫を含む。
5　黒褐色土（10YR2/2）しまりややあり、粘性ややあり、黄褐色ブロックを部分的に含む。
6　褐色土（10YR4/6）しまりあり、粘性あり、部分的に黄褐色ブロック・暗褐色土を含む。
7　褐色土（10YR4/6）しまりややあり、粘性あり、壁の崩落土と考えられる。
8　暗褐色土（10YR3/4）しまりあまりなし、粘性ややあり、全体に黄褐色土粒を含む。
9　暗褐色土（10YR3/3）しまりあまりなし、粘性ややあり、黄褐色土粒・暗褐色土粒を全体的に含む。
10　褐色土（10YR4/6）しまりあり、粘性あり、壁の崩落土と考えられる。
11　黒褐色土（10YR2/2）しまりあり、粘性あり。





1　黒色土（10YR1.7/1）　しまりややあり、粘性ややあり、部分的に小礫を含む。
2　黄褐色土（10YR5/8）　しまりあまりなし、粘性あり、壁の崩落土と考えられる。
3　黒褐色土（10YR2/3）しまりあまりなし、粘性あり、全体に黄褐色土粒を含む。
4　黒褐色土（10YR2/2）しまりあまりなし、粘性あり。
5　黄褐色土（10YR5/8）しまりあまりなし、粘性あり、壁の崩落土と考えられる。
6　黒褐色土（10YR2/2）しまりあまりなし、粘性あり。
7　褐色土（10YR4/5）しまりややあり、粘性あり、壁の崩落土と考えられる。
8　褐色土（10YR4/5）しまりややあり、粘性あり、壁の崩落土と考えられる。
9　にぶい黄褐色土（10YR4/3）しまりあまりなし、粘性ややあり。
10　褐色土（10YR4/5）しまりややあり、粘性あり、壁の崩落土と考えられる。
11　褐色土（10YR4/5）しまりややあり、粘性あまりなし。
12　黒褐色土（10YR2/2）しまりややあり、粘性あまりなし。
13　明黄褐色土（10YR6/8）しまりなし、粘性なし、小礫を多く含む。
14　黒褐色土（10YR3/2）しまりなし、粘性なし。

上：土坑（貯蔵穴）SK02／下：土坑（陥し穴）TP01　検出遺構図

下段調査区　遺構精査

下段調査区　人力掘削

下段調査区　遺構検出状況

TP-3（陥し穴）　全景

SK01（土坑）　土層断面

SK02（土坑）　遺物出土状況

SK32（土坑）　全景

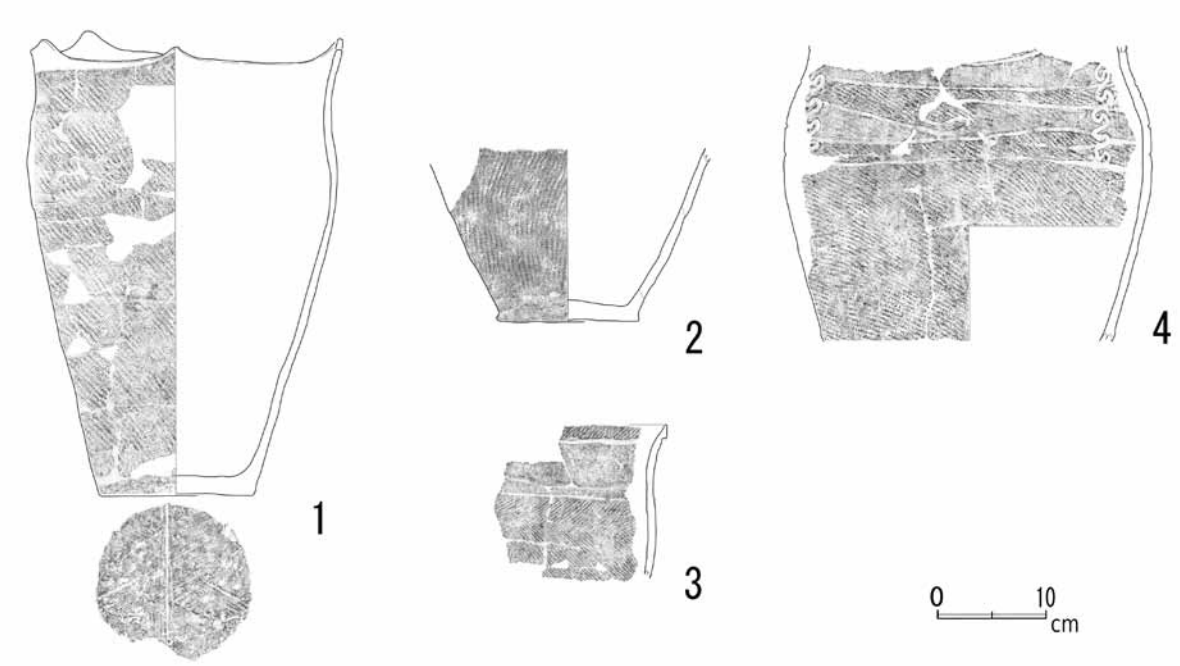
SK39（土坑）　礫検出状況

上段調査区　遺構精査

上段調査区　遺構検出状況

SK55（土坑）　全景

SK57（土坑）　全景



出土遺物　実測図

番号	遺物	器種・部位	出土地点	番号	遺物	器種・部位	出土地点
1	縄文土器	深鉢	ＳＫ44　埋土中	9	縄文土器	口縁部	下段・表土掘削中
2	縄文土器	深鉢	ＳＫ２　埋土中	10	縄文土器	口縁部	下段・遺構検出中
3	縄文土器	口縁部	ＳＫ17　埋土中	11	縄文土器	体部	ＳＫ39　埋土中
4	縄文土器	深鉢	ＳＫ２　埋土中	12	縄文土器	口縁部	ＳＫ39　埋土中
5	縄文土器	口縁部	ＳＫ23　埋土中	13	縄文土器	体部	下段・表土掘削中
6	縄文土器	口縁部	ＳＫ57　埋土中	14	縄文土器	体部	不明
7	縄文土器	口縁部	ＳＫ８　埋土中	15	石器	敲石	カラマツ除去中に出土
8	縄文土器	口縁部	下段・表土掘削中	16	銭		下段・遺構検出中(ＳＫ11付近)

出土遺物写真・観察表

平成 26 年度 派遣専門職員の調査風景

【後列左から】 中澤寛将（青森）・浅野晴樹（埼玉）・丸杉俊一郎（静岡）・上垣幸徳（滋賀）・上床真（鹿児島）・関真一（大阪）・小林昭彦（大分）
【前列左から】 相原伸裕（岩手）・村本周三（北海道）・鳥居達人（岩手）・今福利恵（山梨）・柏原正民（兵庫）・加藤竜（秋田）・坂井田端志郎（熊本） ※敬称略

村本周三氏（北海道）

中澤寛将氏（青森県）

加藤竜氏（秋田県）

浅野晴樹氏（埼玉県）

今福利恵氏（山梨県）

丸杉俊一郎氏（静岡県）

上垣幸徳氏（滋賀県）

関真一氏（大阪府）

柏原正民氏（兵庫県）

坂井田端志郎氏（熊本県）

小林昭彦氏（大分県）

上床真氏（鹿児島県）

分布・試掘・本発掘調査・工事立会
市町村支援一覧

1　分布調査一覧

（1）三陸沿岸道路（三陸国道事務所・南三陸国道事務所管内）

洋野工区（青森県階上～侍浜）

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1		可能性あり①（工事用道路①-2）				九戸郡洋野町有家第9地割地内	平成26年4月30日	要試掘調査
2		可能性あり（29号工事用道路）				九戸郡洋野町種市第16地割地内	平成26年8月29日	要試掘調査
3		可能性あり（25号工事用道路）				洋野町種市第17地割地内	平成26年11月28日	影響なし

田野畑～普代工区

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
4		可能性あり（工事用道路-16）				下閉伊郡田野畑村一の渡地内	平成26年8月22日	要試掘調査
5		可能性あり（菅窪工事用道路）				下閉伊郡田野畑村菅窪地内	平成26年9月18日	要試掘調査
6		可能性あり（普代川付替え）				下閉伊郡普代村第12地割字中村地内	平成26年9月19日	要試掘調査
7		可能性あり（村道付替え）				下閉伊郡田野畑村菅窪地内	平成27年1月14日	影響なし

宮古～田老工区

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
8		可能性あり（工事用道路-16）				下閉伊郡田野畑村一の渡地内	平成26年8月22日	要試掘調査

山田～宮古工区（山田北～宮古中央）

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
9	LG53-0313	金浜Ｖ遺跡	縄文		散布地	宮古市金浜第4地割、第5地割、第7地割地内	平成26年4月17日	要試掘調査
10		根井沢穴田Ｉ遺跡隣接地および沼里館隣接地				宮古市津軽石第6地割、第19地割地内	平成26年4月17日	影響なし
11	LG63-0231	若竹日向Ｉ遺跡	縄文・古代		散布地	宮古市津軽石第16地割地内	平成26年4月17日	要試掘調査
12	LG63-0231	若竹日向Ｉ遺跡隣接地		掘切・郭		宮古市津軽石第16地割地内	平成26年4月17日	要試掘調査
13		可能性あり1				宮古市津軽石第15地割地内	平成27年2月5日	試掘調査
14		可能性あり2				宮古市津軽石第15地割地内	平成27年2月5日	試掘調査
15		可能性あり3				宮古市津軽石第15地割地内	平成27年2月5日	試掘調査
16		可能性あり4				宮古市津軽石第15地割地内	平成27年2月5日	試掘調査

釜石山田道路（釜石ＪＣＴ～山田南）

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
17		可能性あり3				大槌町吉里吉里地内	平成26年7月24日	要試掘調査
18		可能性あり4				大槌町吉里吉里地内	平成26年7月24日	要試掘調査
19						大槌町小槌地内	平成26年8月8日	影響なし

吉浜釜石道路（吉浜～釜石ＪＣＴ）

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
20		可能性あり1				大船渡市三陸町吉浜地内	平成26年7月24日	要試掘調査
21		可能性あり2				釜石市唐丹町小白浜地内	平成26年7月24日	要試掘調査
22		可能性あり1				大船渡市三陸町吉浜字上野地内	平成26年8月8日	要試掘調査
23	MG71-2352	大沢2遺跡および隣接地	縄文	周知	散布地	釜石市甲子町地内	平成26年8月8日	要慎重工事

（2）東北横断自動車道釜石秋田線（南三陸国道事務所管内）

釜石道路（釜石西～釜石ＪＣＴ）

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
24	MG70-1391	坪内遺跡	縄文・弥生	周知	散布地	釜石市甲子町地内	平成26年8月8日	要試掘調査

（3）宮古盛岡横断道路（三陸国道事務所・岩手河川国道事務所管内）

都南川目道路

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
25		新道Ｉ遺跡および隣接地	縄文・古代		集落跡	盛岡市手代森6地割地内	平成26年11月7日	要試掘調査
26		都南学園遺跡および隣接地	縄文		散布地	盛岡市手代森6地割地内	平成26年11月7日	要試掘調査
27		可能性あり				盛岡市手代森6地割地内	平成26年11月7日	要試掘調査

区界道路（区界～簗川）

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
28		可能性あり1				盛岡市簗川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査
29		可能性あり2				盛岡市簗川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査
30		可能性あり3				盛岡市簗川第2地割地内	平成26年8月7日	要工事立会
31		可能性あり4				盛岡市簗川第2地割地内	平成26年8月7日	要工事立会
32		可能性あり5				盛岡市簗川第2地割地内	平成26年8月7日	要工事立会
33		可能性あり6				盛岡市簗川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査
34		可能性あり7				盛岡市簗川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査
35		可能性あり8				盛岡市簗川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査
36		可能性あり9				盛岡市簗川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査
37		可能性あり10				盛岡市簗川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査
38		可能性あり11				盛岡市簗川第2地割地内	平成26年8月7日	要試掘調査

2　試掘調査一覧

（1）三陸沿岸道路

（三陸国道事務所管内：青森県階上IC ～山田IC・南三陸国道事務所管内：山田南IC ～宮城県唐桑IC）

No.	調　査　期　日	事　　業　　名	事　　業　　者	遺　跡　名	所在地
1	平成26年4月14日～17日	三陸沿岸道路（宮古～田老）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	山口駒込Ⅰ遺跡、山口駒込Ⅱ遺跡、可能性あり1、可能性あり2	宮古市
2	平成26年4月23日	三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）工事用道路	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	大沢１遺跡	釜石市
3	平成26年4月21日～23日	三陸沿岸道路（宮古～田老）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	可能性あり1,2,3	宮古市
4	平成26年5月13日～15日、19日～20日	三陸沿岸道路（山田宮古道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	金浜Ⅴ遺跡、荷竹日向Ⅰ遺跡、荷竹日向Ⅰ遺跡隣接地	宮古市
5	平成26年5月22日	三陸沿岸道路（階上～侍浜）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり1	洋野町
6	平成26年5月26日～29日	三陸沿岸道路（宮古中央～田老）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり1（構造変更箇所④）	宮古市
7	平成26年6月9日～6月10日	三陸沿岸道路（久慈北道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり③、木戸場遺跡	久慈市
8	平成26年7月1日～3日	三陸沿岸道路（釜石山田道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	沢山遺跡、白石遺跡	大槌町
9	平成26年7月14日～17日	三陸沿岸道路（宮古中央～田老）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	向新田Ⅲ遺跡	宮古市
10	平成26年8月1日、25日	三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	可能性あり1（工事用道路）、可能性あり2（工事用道路）	大船渡市 釜石市
11	平成26年8月8日	三陸沿岸道路（普代久慈道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり6隣接地	野田村
12	平成26年8月27日	三陸沿岸道路（尾肝要普代道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり（尾肝要普代工事用道路16）	田野畑村
13	平成26年9月16・17日	三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	可能性あり1（工事関連施設） 可能性あり1（工事用道路）	大船渡市
14	平成26年9月2日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	第2号工事用道路（サンニヤ遺跡隣接地）	洋野町
15	平成26年9月3日	三陸沿岸道路（久慈北道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	木戸場遺跡	久慈市
16	平成26年9月25日～26日	三陸沿岸道路（久慈北道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり5	久慈市
17	平成26年9月29日～10月2日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり2（構造変更箇所③）	宮古市
18	平成26年9月29日～10月2日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり3（本線）	宮古市
19	平成26年9月29日～10月2日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり3（構造変更箇所③）	宮古市
20	平成27年10月7日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり	洋野町
21	平成26年10月23日	三陸沿岸道路(田老普代道路)	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり	普代村
22	平成26年10月29日	一般国道45号　三陸沿岸道路（宮古～田老）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	高根遺跡（隣接地）	宮古市
23	平成26年11月12日	三陸沿岸道路（釜石山田道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	可能性あり3（工事用道路）	大槌町
24	平成27年11月26日	三陸沿岸道路（山田宮古道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	払川Ⅰ遺跡	宮古市
25	平 成26年12月8日 ～11日、15日～18日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	千徳城遺跡群（南側）、千徳城遺跡群（北側）、青猿Ⅰ遺跡、山口駒込Ⅰ遺跡	宮古市
26	平成26年12月8日～11日	三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	小白浜遺跡および隣接地	釜石市
27	平成27年2月4日～5日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	南鹿糠Ⅰ遺跡	洋野町
28	平成27年2月13日	三陸沿岸道路（釜石山田道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	沢山遺跡	釜石市
29	平成27年2月24日	三陸沿岸道路（田野畑南～尾肝要）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	浜岩泉Ⅴ遺跡、島越Ⅸ遺跡	田野畑村
30	平成27年3月10日	一般国道45号三陸沿岸道路（山田宮古道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり１，２，３，４	宮古市

※網かけ箇所は本書で取り上げた遺跡

（２）東北横断自動車道 釜石秋田線

（岩手河川国道事務所管内：宮守～遠野住田・南三陸国道事務所管内：釜石西～釜石ＪＣＴ）

No.	調　査　期　日	事　　業　　名	事　　業　　者	遺　跡　名	所在地
31	平成26年5月26日～28日	一般国道283号線釜石花巻道路（遠野住田～遠野）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり31（鍋倉城跡を一部含む）	遠野市
32	平成26年8月29日	釜石花巻道路（釜石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所長	坪内遺跡	釜石市

（３）宮古盛岡横断道路

（三陸国道事務所管内：藤原～箱石・岩手河川国道事務所管内：平津戸～都南川目）

No.	調　査　期　日	事　　業　　名	事　　業　　者	遺　跡　名	所在地
33	平成26年6月19日	国道106号　宮古盛岡横断道路（区界～簗川間工事用道路）平沢工事用道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり4（工事用道路）	宮古市
34	平成26年8月26日	国道106号　宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり11	宮古市
35	平成26年8月26日～27日	国道106号　宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり2	盛岡市
36	平成26年9月11日	国道106号　宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり1	盛岡市
37	平成26年9月11日、11月25日	国道106号　宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり6	盛岡市
38	平成26年11月7日	国道106号　宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり10	盛岡市
39	平成26年11月25日	国道106号　宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり7	盛岡市
40	平成26年11月25日	国道106号　宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり8	盛岡市
41	平成26年11月25日	国道106号　宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり9	盛岡市

（４）一般国道45号改良

No.	調　査　期　日	事　　業　　名	事　　業　　者	遺　跡　名	所在地
42	平成27年1月20日	一般国道45号交差点改良等　角浜歩道整備	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	角川目Ⅱ遺跡及び隣接地、可能性あり1	洋野町
43	平成27年3月3日	国道45号（岩手45号復興）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	新館遺跡隣接地	大槌町

（５）市町村支援関係

No.	調　査　期　日	事　　業　　名	事　　業　　者	遺　跡　名	所在地
44	平成27年2月24日	旧赤浜小学校校庭北側住宅地における範囲確認調査	大槌町教育委員会	赤浜Ⅱ遺跡	大槌町

３ 本発掘調査一覧

No.	調　査　期　日	事　　業　　名	事　　業　　者	遺　跡　名	所在地
1	平成26年4月21日～5月16日	三陸沿岸道路（宮古～田老）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	牛沢遺跡	宮古市
2	平成26年7月28日～7月31日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	黒坂遺跡（旧可能性あり１工事用道路①-２）	洋野町
3	平成26年9月29日～10月10日	三陸沿岸道路（宮古～田老）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	駿達Ⅰ遺跡（旧可能性あり１）	宮古市
4	平成26年10月7日～平成26年11月28日	国道106号宮古盛岡横断道路（区界～簗川）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	中村遺跡	盛岡市
5	平成26年10月14日～平成26年11月28日	三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所	扇洞遺跡	大船渡市
6	平成26年10月20日～11月21日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	サンニヤⅡ遺跡（旧可能性あり２号工事用道路）	洋野町
7	平成26年11月4日～12月26日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	南鹿糠Ⅰ遺跡（旧可能性あり29号工事用道路）	洋野町

４ 工事立会一覧

No.	調　査　期　日	事　　業　　名	事　　業　　者	遺　跡　名	所在地
1	平成26年7月28日	三陸沿岸道路（普代～久慈）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	中平遺跡	野田村
2	平成26年10月2日	国道106号　宮古盛岡横断道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり3,4,5	盛岡市
3	平成27年1月21日	一般国道45号岩手45号復興（平田地区）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	平田遺跡	釜石市

※網かけ箇所は本書で取り上げた遺跡

報 告 書 抄 録

ふりがな	いわてけんないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	岩手県内遺跡発掘調査報告書
副書名	平成26年度　復興関係
シリーズ名	岩手県文化財調査報告書
シリーズ番号	第146集
編集者名	岩手県教育委員会
編集機関	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
所在地	〒020-8570　岩手県盛岡市内丸10－１　TEL 019－629－6180
発行年月日	平成28年3月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
サンニヤⅡ遺跡	九戸郡洋野町種市第25地割地内	03507	IF48-2231	40度24分36秒	141度42分17秒	20141020～1121	700	記録保存調査
南鹿糠Ⅰ遺跡	九戸郡洋野町種市第16・17地割地内	03507	IF58-1333	40度23分35秒	141度43分02秒	20141104～1226	875	記録保存調査
黒坂遺跡	九戸郡洋野町有家第9地割字黒坂地内	03507	IF89-1322	40度18分38秒	141度45分42秒	20140728～0731	145	記録保存調査
駿達Ⅰ遺跡	宮古市田老字駿達、滝の沢地内	03202	KG99-0124	39度45分05秒	141度57分59秒	20140929～1010	330	記録保存調査
牛沢遺跡	宮古市山口第13地割牛沢2－1地内	03202	LG23-1233	39度39分40秒	141度55分47秒	20140421～0516	780	記録保存調査
扇洞遺跡	大船渡市三陸町吉浜字扇洞地内	03203	MG11-0269	39度09分18秒	141度50分11秒	20141014～1128	145	記録保存調査
中村遺跡	盛岡市簗川地内	03201	LF20-1054	39度39分49秒	141度18分06秒	20141007～1128	1,500	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
サンニヤⅡ遺跡	集落跡	縄文・古代	竪穴住居跡・陥し穴・土坑	土師器、石器	焼失住居
南鹿糠Ⅰ遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡・溝跡・土坑・陥し穴	縄文土器、石器	
黒坂遺跡	集落跡	縄文	陥し穴	なし	
駿達Ⅰ遺跡	城柵跡・集落跡	近世か	炭窯、小ピット	近世陶磁器（遺構外）	
牛沢遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡・土坑	縄文土器、石器	
扇洞遺跡	集落跡	縄文・弥生	竪穴住居跡・土坑・焼土	縄文・弥生土器、石器	
中村遺跡	集落跡	縄文	陥し穴、土坑（貯蔵穴）	縄文土器	

岩手県文化財調査報告書 第146集

岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成26年度 復興関係）

印　刷　平成28年３月22日
発　行　平成28年３月25日

発　行　岩手県教育委員会
〒020－8570 岩手県盛岡市内丸10番1号
電 話（019）629－6180
編　集　岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
印　刷　（株）興版社
〒020－0816 岩手県盛岡市中野1-4-14
電 話（019）624－3456

© 岩手県教育委員会　2016

Iwate Board of Education 2016